

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
市民部人権男女共同参画課		ワーク・ライフ・バランス推進事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	性別にかかわらず、誰もが自身が望むワーク・ライフ・バランスを実現し、活躍することができるまちをめざす。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			男性の育児休業取得率（％）	46	51.7	57	64	78
	目標（何を達成するのか）							
	○官民一体となって、誰もが仕事と家庭生活を両立し、活躍することができる職場づくりを推進する。 ○男性の家事・育児・介護等への参画促進に向けた市民意識の醸成、並びに男性の育児休業取得率の向上をめざす。							
事業概要	○既存の市の取組である市民向け各種講座や、「まつえワーク・ライフ・バランス推進ネットワーク※」との連携により、企業と市民それぞれに向けた効果的な意識啓発を展開する。 ○働きやすく働きたいのある職場づくりへの意識醸成を図るため、市内事業所に向けた「まつえワーク・ライフ・バランス推進ネットワーク」への加入促進及び啓発事業や研修会を行う。 ※まつえワーク・ライフ・バランス推進ネットワーク 経済界、労働界、教育機関、行政が共同で行った「まつえワーク・ライフ・バランス推進宣言」に賛同し、ワーク・ライフ・バランス推進に積極的に取り組む事業所が会員となっており、R8.1.23現在で186事業所が加入している。 （数値目標の目標年度） 「男性の育児休業取得率（％）」：2029（R11）年度 ※実績値は4ヶ月検診にあわせて実施するアンケートの中で、夫またはパートナーの育児休業の取得状況を尋ねたもの。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	○啓発ポスターの展示、各種イベントでのパネル展示を行った。 ○各種情報誌を活用した啓発、男性向け講座を実施した。 ○介護と仕事の両立に対する職場内の理解を深め、働きやすい職場環境づくりを進めることを目的としたセミナーを開催した。		○啓発ポスターの展示、各種イベントでのパネル展示 ○各種情報誌を活用した啓発の実施 ○「まつえワーク・ライフ・バランス推進ネットワーク」への加入促進 ○誰もが働きやすい職場環境づくりをテーマにしたセミナーの実施		○啓発ポスターの展示、各種イベントでのパネル展示 ○各種情報誌を活用した啓発の実施 ○「まつえワーク・ライフ・バランス推進ネットワーク」への加入促進 ○ワーク・ライフ・バランスに関連する各種セミナーの実施			
	達成度							
		計画目標に向かって概ね順調						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8			
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較		
事業費		1,570	1,433	1,241	1,158	-275		
財源内訳	国・県支出金	612	506	473	402	-104		
	地方債	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0		
	一般財源	958	927	768	756	-171		
歳入合計		1,570	1,433	1,241	1,158	-275		
課題	○ワーク・ライフ・バランスの実現のため、職場環境の改善や意識改革など課題が多岐に渡るため、まつえワーク・ライフ・バランス推進ネットワークをはじめ、国・県等関係機関と連携し、取組みを進める必要がある。 ○男性の家事・育児等の参画には、本人の意識だけでなく、取り巻く経営者・上司・同僚・家族・地域住民等全ての市民に理解が浸透する必要がある。			方向性	○誰もが様々なライフイベントと仕事を両立し、健康に働き続けることができる職場づくりに向けて、関係機関と連携して各種制度の情報提供やセミナー等による意識啓発を進める。 ○男性の家事・育児等への参画に理解を示し、応援するような意識が醸成するように意識啓発を全市に展開していく。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	ワーク・ライフ・バランスの推進

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	まつえWLB推進ネットワークへの加入促進	10月	情報誌「プリエール」特別号発行
	通年	各種情報誌等を通じた意識啓発、情報提供	11月	「働き方改革」の啓発活動(懸垂幕の掲出等)
	7月～9月	まつえWLB推進ネットワーク総会		
	8月～9月	生理痛体験セミナーの開催		

本事業に関する主要データ

〈参考〉「令和7年度男女共同参画に関する市民意識調査」結果

問9 男性の家事・育児・介護への参画を進めるために行政が取り組むべきことは何だと思いますか。(複数回答可)

項目	回答率(%)
勤務先の働き方改革の推進	62.3
育児休業の義務化など制度の整備	45.0
男性の家事・育児・介護のスキルアップ支援	40.5
学校教育による理解促進	30.8
上司・同僚に対する普及啓発	27.1
夫婦の親世代に対する普及啓発	20.3
夫婦に対する普及啓発	20.2
地域に対する普及啓発	18.8
無回答	10.3
その他	4.1

問15 「男女共同参画社会」を実現するために、松江市は、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

(複数回答可)

(上位10項目)

項目	回答率(%)
高齢や病人の施設や介護サービスの充実	58.0
育児休業制度の充実や労働環境の整備	54.7
保育所等、その他子育てに関する施設やサービスの充実	53.5
子育てで仕事を退職した人の再就職支援	50.8
介護等で仕事を退職した人の再就職支援	48.3
介護休業制度の充実や労働環境の整備	47.0
男女の平等や相互理解に関する学習機会等の充実	42.0
労働時間の短縮、在宅勤務の普及など働き方の見直し支援	40.2
女性に対する暴力の防止への取り組み	28.7
ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害者の支援	28.6

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	178		
役務費	180		
委託料	800		
事業費計			1,158

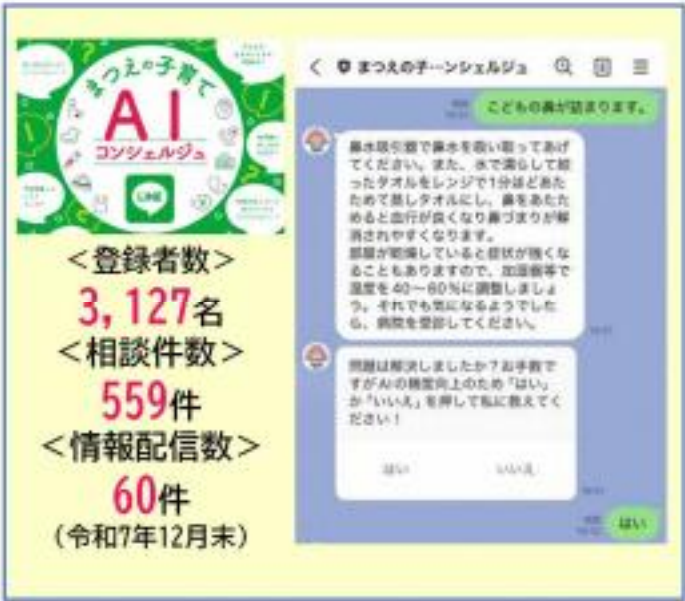
令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部こども政策課		子育てAIコンシェルジュ事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	・子育てと仕事の両立の困難さを解消する。 ・子育てに困っても誰にも相談できない「ワンオペ育児」を解消する。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）		AIコンシェルジュ利用者の満足割合（％）	85.9	85.9	88	88	88
	子育てに関する悩みや疑問について24時間相談できる環境を整備する。 子育てに関する情報発信を行い、支援策等の浸透を図る。		AIコンシェルジュ登録者数（人）	2,952	3,200	3,500	3,700	4,000
事業概要	（数値目標の目標年度） 子育て支援策の満足割合（子ども1人以上、40代まで）：2029(R11)年度 AIコンシェルジュ利用者の満足割合：2029(R11)年度 AIコンシェルジュ登録者数：2029(R11)年度							
	子育てに関する疑問や悩みをLINEで24時間いつでも相談できる環境を提供する。また、登録者に対し子育てに関する情報発信を定期的に行い、支援策等の浸透を図る。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・相談機能の精度向上。 ・母子健康手帳発行時に市役所の各種窓口にてチラシを配布。 ・市民課モニターでPR動画を放映。 ・子育て情報及び庁内他課からの情報を配信。 ・利用者アンケートを実施。		・相談機能の精度向上を図る。 ・母子手帳発行時に市役所の各種窓口にてチラシを配布する。 ・子育て情報及び庁内他課からの情報を配信する。 ・利用者アンケートを実施する。		・相談機能の精度向上を図る。 ・母子手帳発行時に市役所の各種窓口にてチラシを配布する。 ・子育て情報及び庁内他課からの情報を配信する。 ・利用者アンケートを実施する。			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		3,375	3,375	3,375	3,375	0	
	国・県支出金		0	0	0	0	0	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		1,691	1,687	1,687	1,680	-7	
	一般財源		1,684	1,688	1,688	1,695	7	
歳入合計		3,375	3,375	3,375	3,375	0		
課題	・より多くの情報発信及び相談機能のより高い回答精度が求められている。		方向性					
		・子育てAIコンシェルジュの相談機能の精度向上と情報発信の充実を図るとともに、利用者を増やすための周知啓発を行う。						

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった　ここで育ててよかった
	主要施策	子育てAIコンシェルジュ事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	11月	サポートEXの実施	随時	子育てに関する情報発信
	12月	利用者アンケートの実施		
	3月	次年度へ向けてFAQの見直し		
	随時	相談機能FAQの追加・修正		

本事業に関する主要データ



【令和6年度 利用者アンケートより】



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	3,177		
使用料及び賃借料	198		
事業費計			3,375

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
こども子育て部こども政策課		子育て情報発信強化事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	松江市の子育て支援策等をよりわかりやすく市民へ伝える。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）						
	子育てに関する情報発信を行い、支援策等の浸透を図る。						
事業概要	(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合(子ども1人以上、40代まで):2029(R11)年度						
	子育てに関する情報発信を行い、支援策等の浸透を図る。						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・R6年度に作成した動画を市内各園に配布し、こどもや保護者にキャラクターの浸透を図ることで、松江の子育て施策のイメージ向上につなげる。 ・子育て情報PRチラシの作成。 ・松江市や民間団体が主催する各種イベントで情報発信ブースを設置。 ・こども家庭庁、島根県立大学との共催で「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムを開催。 ・こどもこそだてサイトのレイアウトを変更。	・PRチラシを市内各園に配布し、子育て支援策の浸透を図る。 ・松江市や民間団体が主催する各種イベントで情報発信ブースを設置。 ・全天候型の遊び場についての情報発信。		・松江市や民間団体が主催する各種イベントで情報発信ブースを設置。 ・全天候型の遊び場についての情報発信。			
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		366	1,017	1,017	0	-1,017	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	366	1,017	1,017	0	-1,017	
	一般財源	0	0	0	0	0	
歳入合計		366	1,017	1,017	0	-1,017	
課題	・子育て支援策について、市からの情報発信だけでなく、見やすいレイアウト、容易に情報にリーチできる手段が求められている。			・わかりやすい内容となるよう、ホームページの更新を行う。			
				方向性			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	子育て情報発信強化事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	PRチラシの配布		
	11月	子育ての日ファミリーイベントでの情報発信ブースの設置		
	通年	松江市や民間団体が主催する各種イベントで情報発信ブースを設置		

本事業に関する主要データ

【こどもこそだてサイト】



【リレーシンポジウム】



【情報発信ブース】



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
事業費計			0

令和8年度 総合計画実施計画

所属	事業名
こども子育て部子育て給付課	子ども医療費助成

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	子育て世帯の経済的負担の軽減を図り、こどもの疾病の早期発見及び早期治療を促進し、もってこどもの健全な育成及び安心してこどもを生きみ育てることができる環境づくりを促進する。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）						
	子育て世代の経済的負担の軽減 こどもの健全育成						

事業概要	(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合(こども1人以上、40代まで):2029(R11)年度
	①0歳～中学3年生までの通院、入院及び薬局等に係る健康保険自己負担分の全額を助成 ・県制度に上乘せ・拡大助成(市独自事業) ②高校生年代の通院、入院に係る健康保険自己負担分の一部を助成(市単独事業) 自己負担額(1ヶ月・1医療機関) 通院:1割(上限1,000円) 入院:1割(上限2,000円) 薬局等:無料 ③高校生～20歳未満(慢性呼吸器疾患等16疾患群該当者で一定の要件を満たす者)の入院に係る健康保険自己負担分の一部を助成 ・県制度に上乘せ(市独自事業)

事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
	○医療費助成を継続 ・R7年4月から県が県制度の助成(一部自己負担あり)対象を中学生年代までに拡大 ○県制度へ上乗せ・拡大助成 ・中学3年生まで自己負担無料 ・助成対象年齢を高校生年代まで拡大 自己負担額(1ヶ月・1医療機関) 通 院:1割(上限1,000円) 入 院:1割(上限2,000円) 薬局等:無料	○医療費助成を継続 ○県制度へ上乗せ・拡大助成 ・中学3年生まで自己負担無料 ・高校生年代は一部自己負担あり 自己負担額(1ヶ月・1医療機関) 通 院:1割(上限1,000円) 入 院:1割(上限2,000円) 薬局等:無料	○医療費助成を継続 ○県制度へ上乗せ・拡大助成 ・中学3年生まで自己負担無料 ・高校生年代は一部自己負担あり 自己負担額(1ヶ月・1医療機関) 通 院:1割(上限1,000円) 入 院:1割(上限2,000円) 薬局等:無料
	達成度		
	計画目標に向かって概ね順調		

歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		888,917	993,891	1,015,769	960,994	-32,897
財 源 内 訳	国・県支出金	167,983	402,575	479,459	362,631	-39,944
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	19,858	44,565	44,565	40,820	-3,745
	一般財源	701,076	546,751	491,745	557,543	10,792
歳入合計		888,917	993,891	1,015,769	960,994	-32,897

課題	方向性
・子育て環境における「医療費」に関する市民の関心は高い。 ・助成内容については自治体間で差異があり、近年、助成対象範囲は拡大傾向にある。 ・子ども医療費助成は国を挙げた取組が必要である。	・子育て世帯の経済的負担の軽減を図り、安心して子どもを産み育てながら住み続けていただくために子ども医療費助成を継続して実施する。 ・子育てしやすい社会の実現のため、子育て環境の改善のひとつである子ども医療費助成について地域間格差が生じないよう、引き続き国県に対し要望していく。

こども子育て部子育て給付課

子ども医療費助成

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	子ども医療費助成事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	申請受付、医療費助成		

本事業に関する主要データ				
◆1か月・1医療機関あたりの保険診療医療費個人負担額				
区分	所得制限	入院	通院	薬局
0歳～小学6年生	なし	無料	無料	無料
中学1年生～3年生	なし	無料	無料 (R6年4月～)	無料
高校生年代 ※R7年4月から助成対象	なし	1割 (上限2,000円)	1割 (上限1,000円)	無料
高校卒業～20歳未満 (16疾患群)	なし	1割 (上限2,000円)	助成対象外	助成対象外
◆対象者数実績(3月末) (単位:人)				
区分	R3	R4	R5	R6
0歳～就学前	10,863	10,595	10,092	9,743
小学1年生～6年生	10,857	10,891	10,786	10,529
中学1年生～3年生	87	116	157	5,419
高校卒業～20歳未満(16疾患群)	0	0	1	0
合計	21,807	21,602	21,036	25,691

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	4,084	扶助費	925,761
職員手当等	1,728		
共済費	1,013		
旅費	20		
需用費	378		
役務費	27,969		
使用料及び賃借料	41		
事業費計			960,994

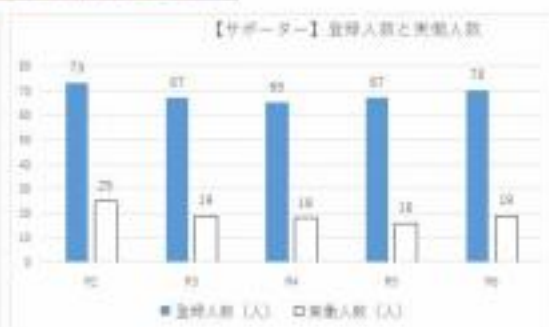
令和8年度 総合計画実施計画

所 属		事 業 名						
こども子育て部こども家庭支援課		訪問型子育てサポート事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	子育てに関する負担を軽減し、安心してこどもを産み育てられる環境づくりを進めることで、こどもの健やかな育ちを支える。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			利用延件数(件)	535	552	600	600	600
			子育てホームサポーターの数（人）	70	70	92	95	100
			子育て支援策の満足割合(%)	61.95	63.7	80	80	80
目標（何を達成するのか）								
子育てホームサポーターによる家事・育児援助を行うことで、子育て世帯における育児負担の軽減を図る。								
事業概要	(数値目標の目標年度) 利用延件数、子育てホームサポーターの数、子育て支援策の満足割合(こども1人以上、40代まで):2029(R11)年度							
	妊娠中や就学前の子育てで家庭で一時的に支援が必要な時に、市が委託した事業所から、子育てホームサポーターを利用者の自宅に派遣して、有償で家事援助やこどもの世話などの支援を行う。 〈実施事業所〉 公益社団法人 松江市シルバー人材センター 特定非営利活動法人 ケアサービス松江 有限会社 まごころサービス松江センター							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・事業所に事業を委託し、妊娠中や子育て中の家庭に子育てホームサポーターの派遣を実施 ・多くの親子が利用できるよう、母子手帳アプリ「母子モ」やAIコンシェルジュ等を活用し、周知活動を行った。 ・市報や市ホームページ、子育て自主サークル、ファミリーサポートセンター等で事業や子育てホームサポーター募集等の周知を行った。(従来に加えて、1月～2月に複数の媒体で集中的な広報を実施)		・事業所に事業を委託し、妊娠中や子育て中の家庭に子育てホームサポーターの派遣を行う。 ・支援が必要な親子に利用してもらえるよう、子育て自主サークルなど市民の声も取り入れながら周知活動を行う。		・事業所に事業を委託し、妊娠中や子育て中の家庭に子育てホームサポーターの派遣を行う。 ・支援が必要な親子に利用してもらえるよう周知活動を行う。			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8			
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較		
事業費		731	1,013	1,013	956	-57		
財源内訳	国・県支出金	210	506	506	478	-28		
	地方債	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0		
	一般財源	521	507	507	478	-29		
歳入合計		731	1,013	1,013	956	-57		
課題	事業について、広く市民に浸透していない。			方向性	母子健康手帳配布時をはじめとして、子育て支援X、母子手帳アプリ「母子モ」のプッシュ通知(登録者ごとの最適な時期に通知)やAIコンシェルジュ、あいあいだより、妊娠8ヶ月アンケート等、様々な広報媒体を活用するとともに、子育て自主サークルなど市民の声も取り入れながら周知活動を行う。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	訪問型子育てサポート事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	サービスの提供		
	通年	サポーター認定		
	4月、6月	子育て自主サークルとの意見交換(周知方法など)		

本事業に関する主要データ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	59		
役務費	80		
委託料	721		
負担金補助及び交付金	96		
事業費計			956

令和8年度 総合計画実施計画

所属	事業名
こども子育て部こども家庭支援課	産前・産後ケア推進事業費

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を実施し、安心してこどもを産み育てられる環境をつくる。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		健診時にうつ気分がない人の割合（％）	74.5	81	82	83	85
	目標（何を達成するのか）	子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
	妊産婦への相談支援及び産後間もない母子への心身のケアや育児サポートを行い、育児不安・育児負担の軽減を図る。						

事業概要	(数値目標の目標年度) 健診(4か月児健診)時にうつ気分がない人の割合、子育て支援策の満足割合(こども1人以上、40代まで):2029(R11)年度
	1.妊娠期支援(プレパパ・プレママ教室) 妊娠・出産に対する意識を高めることができる場を提供する。 2.産後ケア事業 産後1年未満の母親と乳児で、産後に心身の不調や育児不安等がある方に対し助産師が心身のケアや育児支援等を行う。 3.多胎児養育家庭サポート事業 多胎児家庭への家事援助や育児サポート等を行う。

事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
	1.妊娠期支援 プレパパ・プレママ教室を実施 年8回実施×15組 2.産後ケア事業 通所型(委託先8カ所)、訪問型、宿泊型(委託先3カ所)、温泉型(委託先6カ所)、集団型(委託先1カ所)を実施 3.多胎児養育家庭サポート事業を実施	1.妊娠期支援 プレパパ・プレママ教室を実施 年8回実施×15組 2.産後ケア事業 通所型(委託先10カ所)、訪問型、宿泊型(委託先3カ所)、温泉型(委託先6カ所)、集団型(委託先1カ所)を実施 3.多胎児養育家庭サポート事業を実施	1.妊娠期支援 プレパパ・プレママ教室を実施（年8回×15組） 2.産後ケア事業 通所型(委託先11カ所)、訪問型、宿泊型(委託先3カ所)、温泉型(委託先6カ所)、集団型(委託先1カ所)。 3.多胎児養育家庭サポート事業 通年実施
	達成度		
	計画目標に向けて順調に推移		

歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		32,800	46,635	53,721	51,186	4,551
財源内訳	国・県支出金	16,299	31,500	28,189	34,090	2,590
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	6,131	4,541	4,541	5,475	934
	一般財源	10,370	10,594	20,991	11,621	1,027
	歳入合計	32,800	46,635	53,721	51,186	4,551

課題	・産後ケアは、対象月齢の引き上げや利用日数の拡充に伴い利用者が増えており、希望日時にケアを受けられないことがある。 ・周産期の子育て支援施策として父親へのアプローチが弱い。(温泉型の父親参加率:R7.12月現在51.5%)	方向性	・委託施設の拡充に向け、引き続き公募や関係機関への働きかけ等を行う。 ・温泉型に引き続き父親の参加をすすめる。

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	産前・産後ケア推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	年8回	プレパパ・プレママ教室実施	通年	産後ケア事業(温泉型)の実施
	通年	産後ケア事業(デイサービス型)の実施	月1回	産後ケア事業(集団型)の実施
	通年	産後ケア事業(訪問型)の実施	通年	多胎児養育家庭サポート事業の実施
	通年	産後ケア事業(宿泊型)の実施		

本事業に関する主要データ																																			
出生数の推移 <table> <tr> <th>年 度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>出生数(人)</td><td>1,492</td><td>1,473</td><td>1,409</td><td>1,282</td><td>1,249</td></tr> </table>						年 度	R2	R3	R4	R5	R6	出生数(人)	1,492	1,473	1,409	1,282	1,249																		
年 度	R2	R3	R4	R5	R6																														
出生数(人)	1,492	1,473	1,409	1,282	1,249																														
同産期医療機関からの妊婦・褥婦連絡票の推移(件) <table> <tr> <th>年 度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>妊 婦</td><td>41</td><td>35</td><td>25</td><td>23</td><td>30</td></tr> <tr> <td>褥 婦</td><td>216</td><td>190</td><td>206</td><td>175</td><td>203</td></tr> </table>						年 度	R2	R3	R4	R5	R6	妊 婦	41	35	25	23	30	褥 婦	216	190	206	175	203												
年 度	R2	R3	R4	R5	R6																														
妊 婦	41	35	25	23	30																														
褥 婦	216	190	206	175	203																														
多胎児の妊娠届出件数の推移(件) <table> <tr> <th>年 度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>多胎児の妊娠届出件数</td><td>22</td><td>23</td><td>28</td><td>22</td><td>16</td></tr> </table>						年 度	R2	R3	R4	R5	R6	多胎児の妊娠届出件数	22	23	28	22	16																		
年 度	R2	R3	R4	R5	R6																														
多胎児の妊娠届出件数	22	23	28	22	16																														
産後ケア事業の利用延数の推移 <table> <tr> <th>種 類</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>通所型(件)</td><td>11</td><td>433</td><td>707</td><td>856</td><td>1,370</td></tr> <tr> <td>訪問型(件)</td><td>-</td><td>61</td><td>152</td><td>82</td><td>86</td></tr> <tr> <td>宿泊型(日)</td><td>-</td><td>-</td><td>105</td><td>379</td><td>337</td></tr> <tr> <td>温泉型(件)</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>88</td></tr> </table>						種 類	R2	R3	R4	R5	R6	通所型(件)	11	433	707	856	1,370	訪問型(件)	-	61	152	82	86	宿泊型(日)	-	-	105	379	337	温泉型(件)	-	-	-	-	88
種 類	R2	R3	R4	R5	R6																														
通所型(件)	11	433	707	856	1,370																														
訪問型(件)	-	61	152	82	86																														
宿泊型(日)	-	-	105	379	337																														
温泉型(件)	-	-	-	-	88																														
母のエジンバラ(※1)の状況(赤ちゃん訪問時) <table> <tr> <th>年 度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>実 施 数(件)</td><td>1,301</td><td>1,331</td><td>1,320</td><td>1,205</td><td>1,141</td></tr> <tr> <td>9点以上の数(件)</td><td>82</td><td>51</td><td>70</td><td>47</td><td>45</td></tr> <tr> <td>9点以上の割合(%)</td><td>6.3</td><td>3.8</td><td>5.3</td><td>3.9</td><td>3.9</td></tr> </table>						年 度	R2	R3	R4	R5	R6	実 施 数(件)	1,301	1,331	1,320	1,205	1,141	9点以上の数(件)	82	51	70	47	45	9点以上の割合(%)	6.3	3.8	5.3	3.9	3.9						
年 度	R2	R3	R4	R5	R6																														
実 施 数(件)	1,301	1,331	1,320	1,205	1,141																														
9点以上の数(件)	82	51	70	47	45																														
9点以上の割合(%)	6.3	3.8	5.3	3.9	3.9																														
※1エジンバラ産後うつ病質問票(EPOS):産婦を対象として、産後うつ病をスクリーニングするために開発された質問票。合計30点中、9点以上をうつ傾向としてスクリーニングする。																																			

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	2,228	委託料	41,659
職員手当等	864	負担金補助及び交付金	416
共済費	521		
報償費	5,115		
旅費	39		
需用費	58		
役務費	286		
事業費計			51,186

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部保育所幼稚園課		医療的ケア児支援事業費(公立)						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	医療的ケア児が幼児教育・保育施設において適切な支援を受けられるようにすることにより、日常生活を支援するとともに、家族の離職の防止を図る。		項目(成果指標)	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			子育て支援策の満足度割合(%)	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）							
	医療的ケア児を幼児教育・保育施設で受け入れるための体制や環境を整備し、適切かつ安全に保育を提供する。							
事業概要	(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合(子ども1人以上、40代まで):2029(R11)年度							
	医療的ケア児を幼児教育・保育施設で受け入れるために看護師等を配置する。 財源:保育対策総合支援事業費補助金 医療的ケア児保育支援事業							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	公立保育施設1所、私立保育施設1所で受入れ (私立保育所等には「私立特別保育事業費」において補助金を交付)		継続して在園する児童のほか、希望があった場合に受入を検討		継続して在園する児童のほか、希望があった場合に受入を検討			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		3,217	19,452	4,443	12,683	-6,769	
	国・県支出金		2,154	7,053	2,962	7,053	0	
	地方債		0	0		0	0	
	その他		0	0		0	0	
	一般財源		1,063	12,399	1,481	5,630	-6,769	
歳入合計		3,217	19,452	4,443	12,683	-6,769		
課題	医療的ケア児及びその保護者の意思を最大限に尊重し、各児の状況に応じた適切な支援が受けられるよう、また医療的ケア児がその他の児童と共に保育や教育を受けられるよう、受入体制を構築し、関係機関が連携していく必要がある。		引き続き関係部署及び機関と連携して受入を検討する。					
方向性								

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	医療的ケア児保育事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	随時	希望があった場合に受入れを検討		
	随時	関係者連絡会		

本事業に関する主要データ

医療的ケア児数の年齢別推移

(人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1歳未満	3	5	0
1歳～3歳未満	7	2	5
3歳～5歳未満	6	3	1
5歳～7歳未満	6	2	2
7歳～13歳未満	13	11	11
13歳以上	13	11	7
計	48	34	26

R8節別予算額内訳(千円)

節名称	金額	節名称	金額
報酬	7,764		
職員手当等	2,920		
共済費	1,832		
旅費	99		
需用費	68		
事業費計			12,683

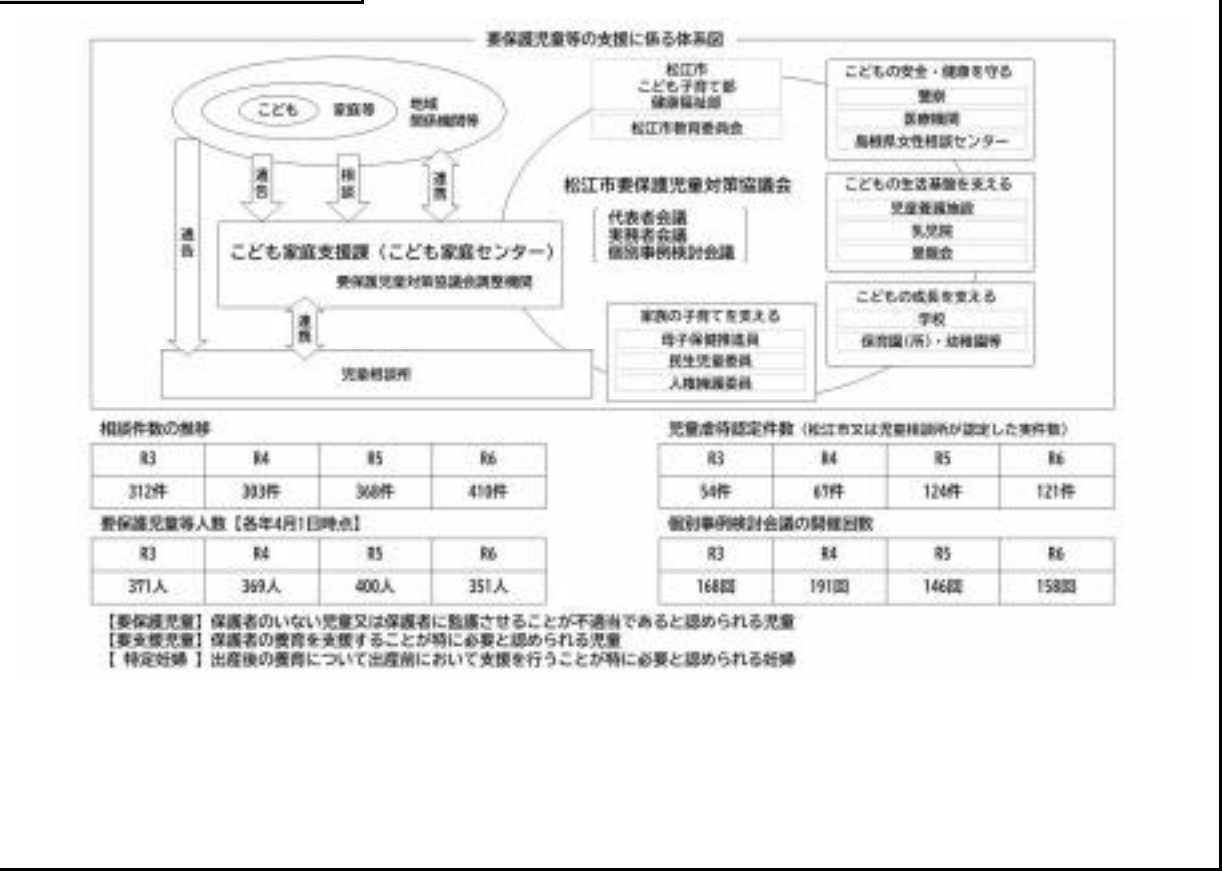
令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
こども子育て部こども家庭支援課		児童虐待予防対策事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	児童虐待の発生予防と発生時の適切な支援を行うことにより、全ての児童が地域において心身ともに健やかに成長することを目指す。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		要保護児童人数（人）【各年4月1日時点】	351	304	288	272	240
	目標（何を達成するのか）	子育て支援策の満足割合（%）	61.95	63.7	80	80	80
	地域の理解、協力を得ながら、児童・家族及び関係機関からの相談・通告に対応するとともに、関係機関と連携して児童虐待の発生予防・早期発見・早期支援を行う。	親子関係形成支援を行う児童実人数（人）		3	10	20	30
事業概要	（数値目標の目標年度） 要保護児童人数【各年4月1日時点】、子育て支援策の満足割合（こども1人以上、40代まで）、親子関係形成支援を行う児童実人数:2029(R11)年度 令和5年4月に設置したこども家庭センターにおいて、妊娠から切れ目なく児童が心身ともに健やかに成長するための支援を行う。また、児童虐待の通告窓口として、調査・安全確認・相談等を行うとともに、要保護児童対策協議会の調整機関として要保護児童等の早期発見や適切な支援を図るため、関係機関と連携し、情報共有と支援内容の進行管理等を行う。さらに令和7年度から、保護者がこどもとの関わり方に悩みを抱え、児童虐待につながるリスクの高い家庭を対象に、保護者への講義やグループワーク、保護者同士の情報交換の場を設けるなどの支援を行う「親子関係形成支援事業」を実施している。						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	【要保護児童対策協議会】 代表者会議:1回 実務者会議:8回 個別事例検討会議:150回 【児童虐待防止セミナー】 実施回数:2回(計100人) 【出前講座】 実施回数:3回(計50人) 【親子関係形成支援事業】 実施回数:1回(1回あたり4講座) (参加世帯2世帯、支援児童実人数3人)	【要保護児童対策協議会】 代表者会議:1回 実務者会議:8回 個別事例検討会議:150回 【児童虐待防止セミナー】 実施回数:2回(計100人) 【出前講座】 実施回数:10回(計150人) 【親子関係形成支援事業】 実施回数:1回(1回あたり4講座) (参加世帯5世帯、支援児童実人数10人)		【要保護児童対策協議会】 代表者会議:1回 実務者会議:8回 個別事例検討会議:150回 【児童虐待防止セミナー】 実施回数:2回(計100人) 【出前講座】 実施回数:10回(計150人) 【親子関係形成支援事業】 実施回数:2回(1回あたり4講座) (参加世帯10世帯、支援児童実人数20人)			
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)	R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費	10,502	11,627	12,302	16,142	4,515	
	国・県支出金	8,688	9,644	10,208	13,393	3,749	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	1,814	1,983	2,094	2,749	766	
歳入合計		10,502	11,627	12,302	16,142	4,515	
課題	・支援を要するこどもや家庭についての相談が増えている。 ・保護者が抱える育児やしつけに関する悩みなどが、児童虐待の発生につながる場合がある。 ・複雑・多様化する児童相談及び児童虐待に対応するため職員の専門性が求められている。			・保護者の意向を踏まえたサポートプラン(支援計画)を作成するとともに、児童の一時預かりやヘルパーの派遣など、保護者の育児・家事負担を軽減する具体的な支援を提供する。 ・親子関係形成支援事業の実施により、こどもとの関わり方に悩む保護者等を支援し、虐待の未然防止を図る。 ・各種研修により職員のスキルアップを行う。			
	方向性						

松江市総合計画	基本目標	ひとつづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった　ここで育ててよかった
	主要施策	児童虐待予防対策事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	7月	要保護児童対策協議会　代表者会議	11月	オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン
	6月～1月	要保護児童対策協議会　実務者会議	通年	出前講座
	通年	要保護児童対策協議会　個別事例検討会議	9月～12月	親子関係形成支援事業
	11月	児童虐待防止セミナー①	未定	児童虐待防止セミナー②

本事業に関する主要データ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	9,204		
職員手当等	3,536		
共済費	2,232		
報償費	280		
旅費	388		
需用費	232		
役務費	270		
事業費計			16,142

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部子育て給付課		不妊治療費助成事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	妊娠・出産を願う夫婦の希望を叶え、出生数の増加につなげる。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			子育て支援策の満足割合(%)	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）							
	不妊治療（一般不妊治療、生殖補助医療、先進医療）を受けている夫婦に対し、当該治療に要する費用の一部を助成することにより、経済的負担の軽減を図り、治療を受けやすい環境をつくる。							
事業概要	（数値目標の目標年度） 子育て支援策の満足割合（こども1人以上、40代まで）：2029（R11）年度							
	令和7年4月より「このとり縁結び補助金」及び「特定不妊治療費助成事業」を廃止し「不妊治療費助成事業」を創設。 【保険適用で一般不妊治療を実施した場合】 ○助成額 1年目上限60千円、2年目上限45千円 ※助成期間2年間（妊娠特例あり） 【保険診療外で生殖補助医療を実施した場合】 ○助成額 1回上限300千円（ただし、採卵を伴わない治療の場合は上限100千円） ○助成回数 妻の年齢が40歳未満であれば通算6回まで、40歳以上であれば通算3回まで 【保険診療で生殖補助医療、あわせて先進医療を実施した場合】 ○助成額 1回の治療につき上限50千円※回数制限なし							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画			R9計画		
	新たに「不妊治療費助成事業」として実施 ・一般不妊治療 助成件数 190件 助成額 8,119千円 ・生殖補助医療 助成件数 38件 助成額 7,800千円 ・先進医療 助成件数 284件 助成額 14,275千円		助成事業を継続 ・一般不妊治療 助成件数 198件 助成額 8,754千円 ・生殖補助医療 助成件数 42件 助成額 8,723千円 ・先進医療 助成件数 273件 助成額 13,268千円			助成事業を継続 ・一般不妊治療 助成件数 198件 助成額 8,754千円 ・生殖補助医療 助成件数 42件 助成額 8,723千円 ・先進医療 助成件数 273件 助成額 13,268千円		
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		0	33,020	31,338	31,241	-1,779	
	国・県支出金		0	12,712	11,037	6,957	-5,755	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		0	20,308	20,301	24,284	3,976	
歳入合計		0	33,020	31,338	31,241	-1,779		
課題	不妊治療費助成に係る助成内容について、より効果的に周知を図る必要がある。				妊娠・出産を希望する夫婦の不妊治療に係る環境整備に努める。			
	方向性							

こども子育て部子育て給付課

不妊治療費助成事業費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	不妊治療助成事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	申請受付、助成金交付		

本事業に関する主要データ

不妊治療助成実績

(単位：件、千円)

事業名	R3		R4		R5		R6	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
こうのと里縁結び補助金 (一般不妊治療)	255	13,309	197	10,277	215	8,931	175	7,577
特定不妊治療費助成事業 (生殖補助医療／先進医療)	370	84,437	274	28,973	422	25,275	259	19,974
計	625	97,746	471	39,250	637	34,206	434	27,551

R8節別予算額内訳(千円)

節名称	金額	節名称	金額
需用費	59		
役務費	85		
委託料	352		
扶助費	30,745		
事業費計			31,241

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部こども政策課		保育所施設整備事業費補助金(交付金事業)						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	安心してこどもを生み、育てられる環境を整備する。		項目(成果指標)	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			子育て支援策の満足割合(%)	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）		待機児童数(4月1日時点)(人)	0	0	0	0	0
	民間保育所等の施設整備を推進し、待機児童の受け皿を確保するとともに、安全・安心な保育環境を整備する。							
事業概要	(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合(こども1人以上、40代まで):2029(R11)年度							
	保育所、認定こども園等の改築、修繕等の整備に要する経費の一部を補助。 国の就学前教育・保育施設整備交付金を活用。 ●事業費負担割合 保育提供体制の確保のための実施計画の採択を受けている市町村の「待機児童対策」「人口減少対策」「乳児等通園支援事業所に係る整備」(創設、増築、増改築、改築及び老朽民間児童福祉施設整備に限る)の場合:国2/3、市1/12、事業者1/4 それ以外の場合:国1/2、市1/4、事業者1/4							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・令和6年度実施予定であった大規模修繕事業3件の事業実施に対し補助を行う。 ・保育所等施設整備検討委員会を開催し、令和8年度の補助対象とする施設整備について決定する。		・前年度に行った保育所等施設整備検討委員会で決定した事業の実施に対し補助を行う。 ・保育所等施設整備検討委員会を開催し、令和9年度の補助対象とする施設整備について決定する。		・前年度に行った保育所等施設整備検討委員会で決定した事業の実施に対し補助を行う。 ・保育所等施設整備検討委員会を開催し、令和10年度の補助対象とする施設整備について決定する。			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		0	223,597	191,302	238,083	14,486	
	国・県支出金		0	149,065	127,535	158,722	9,657	
	地方債		0	70,700	51,000	75,300	4,600	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		0	3,832	12,767	4,061	229	
	歳入合計		0	223,597	191,302	238,083	14,486	
課題	築30年以上になる民間保育施設が増えてきており、改築や大規模な修繕が必要な施設が多く存在する。			老朽化に伴う改築及び大規模修繕に対して適切に補助を行う。				
				方向性				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	保育所等整備事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	第1次国交付金内示	10月	保育所等施設整備検討委員会
	6月	第3次国事前協議	3月	実績報告
	8月	第3次国交付金内示		
	4月～3月	工事着工～竣工		

本事業に関する主要データ

■民間保育所等施設整備(交付金活用)の実績 (単位:施設)

	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
申請	3	3	7	2	2	3	0	2	8	4	3	37
採択	3	3	7	2	2	3	0	2	8	0	3	33
新設	0	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	7
増改築等 (建替)	1	1	2	1	1	1	0	1	1	0	0	9
大規模修繕	2	1	2	0	0	1	0	1	7	0	3	17
交付額 (単位:百万円)	186	182	690	124	140	218	0	147	73	0	128	1,888

★主な地方債:社会福祉施設整備事業

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
負担金補助及び交付金	238,083		
事業費計			238,083

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
こども子育て部保育所幼稚園課		(仮称)川津幼稚園・ふじのみ園複合施設整備事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	・急速な園児数の減少による幼稚園の再編 ・一定程度の集団規模において、自らの力を発揮しながら意欲的に生活できる環境整備 ・保育所、児童発達支援事業所との複合化による	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
	目標（何を達成するのか）	数値目標になじまない					
	・幼稚園・保育園の認定こども園化及び児童発達支援事業所との複合化による教育・保育環境の充実						
事業概要	令和5年度から計画してきた城東保育所とふじのみ園(※1)の複合化に加え、二中校区の幼稚園再編(※2)を合わせた複合施設を川津幼稚園敷地内へ整備する。整備に合わせて、認定こども園とする。 令和7年度:用地測量 令和8年度:基本計画 令和8～9年度:基本設計・実施設計 令和10～11年度:川津幼稚園舎解体、建築工事 令和12年:供用開始 ※1 ふじのみ園の所管:障がい者福祉課 ※2 二中校区幼稚園再編対象:川津幼稚園、朝酌幼稚園、持田幼稚園、本庄幼稚園(休園中)						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
		- 基本計画 - 基本設計、実施設計(令和8～9年度)		基本設計、実施設計(令和8～9年度)			
	達成度						
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)	R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費				25,208	25,208	
	国・県支出金				0	0	
	地方債				16,100	16,100	
	その他				0	0	
	一般財源	0	0	0	9,108	9,108	
歳入合計					25,208	25,208	
課題	・幼児教育・保育の推進及び療育の支援をできる施設整備の検討。		方向性	・整備内容、整備計画について、庁内関係課、地域等との協議のもと事業を実施。			

こども子育て部保育所幼稚園課 (仮称)川津幼保園・ふじのみ園複合施設整備事業費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった　ここで育ててよかった
	主要施策	保育所等整備事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～7月	基本計画		
	7月～3月	基本設計		

本事業に関する主要データ											
1 幼稚園の園児数の推移 (令和7年4月1日現在)											
	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
川津幼稚園	88	99	93	83	64	63	62	42	29	23	20
3歳	21	34	26	23	17	21	23	9	6	3	5
4歳	37	28	37	25	22	17	19	18	7	10	6
5歳	30	37	30	35	25	25	20	15	16	10	9
朝酌幼稚園	15	19	24	18	14	9	7	5	5	7	6
3歳	6	7	8	1	5	2	0	2	2	3	2
4歳	4	7	7	9	1	5	3	1	2	2	2
5歳	5	5	9	8	8	2	4	2	1	2	2
持田幼稚園	19	19	19	21	24	24	17	16	12	11	9
3歳	6	6	7	9	7	7	3	7	2	3	3
4歳	7	7	4	7	9	8	6	3	6	2	3
5歳	6	6	8	5	8	9	8	6	4	6	3
母衣幼稚園	78	68	63	64	56	45	36	19	12	14	11
3歳	26	22	16	20	18	12	9	5	5	6	2
4歳	29	20	24	18	18	17	8	5	3	5	4
5歳	23	26	23	26	20	16	19	9	4	3	5
※母衣幼稚園は存続予定だが、園児数の状況によっては、再編を検討する。											
2 城東保育所、ふじのみ園の施設概要											
	建築年月	延床面積	構造	敷地面積	園児数(R7.4.1)						
城東保育所	H4.3 (第33年)	1,069㎡	鉄骨造 2階建	2,327㎡	98人						
ふじのみ園	S60.3 (第40年)	254㎡	鉄骨造 平屋建	714㎡	16人						
3 スケジュール											
	R7年	R8	R9	R10	R11	R12					
川津幼稚園解体			実施設計	解体工事							
複合施設新設	用地測量	基本計画	基本設計・実施設計		建設工事		供用開始				
★主な地方債: 公共施設等適正管理推進事業(集約化・複合化事業)											

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	25,208		
事業費計			25,208

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
こども子育て部こども政策課		私立保育所年度中途児童受入対策事業費補助金					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	年度中途の待機児童を解消するため。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）	年度末待機児童数（人）	5	0	0	0	0
	年度中途に児童の受け入れが可能となるよう、予め保育士の確保を行う。	年度中途の入所枠確保数（枠）	276	285	258	258	
事業概要	(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合（子ども1人以上、40代まで）：2029(R11)年度						
	年度中途における保育所入所待機児童を解消し、子育て環境の向上を図るため、年度中途に児童を受け入れるための保育士を早期に確保した保育所に対し、当該保育士の雇用に要する経費の一部を補助する。 [私立保育所年度中途児童受入対策事業費補助金]補助事業 ・児童を年度中途に受け入れた保育所 [待機児童ゼロ化事業費補助金]補助事業(※令和6年度をもって廃止) ・定員を増やして、年度中途に児童を受け入れた保育所						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	①保育士確保数(108人) ②年度中途の入所枠(285枠)	①保育士確保数(107人) ②年度中途の入所枠(258枠)		①保育士確保数(107人) ②年度中途の入所枠(258枠)			
	達成度						
計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)	R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費	67,794	63,396	71,472	65,599	2,203	
	国・県支出金	33,897	10,224	10,224	20,753	10,529	
	地方債	0	0		0	0	
	その他	30,000	0		0	0	
	一般財源	3,897	53,172	61,248	44,846	-8,326	
歳入合計		67,794	63,396	71,472	65,599	2,203	
課題	本市の待機児童数は、令和2年度末50人、令和3年度末3人、令和4年度末20人、令和5年度末1人、令和6年度末6人であり、過去5か年の年度末時点の待機児童数の平均は約16人である。今後、待機児童数の増加を抑え、待機児童数0を実現するためには、多くの児童の受け入れが可能となるよう継続した保育士確保の取組が必要である。			待機児童が発生しないようにするために、保育士確保の取組を継続し、年度中途の受け入れ体制を整える。			
	方向性						

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	私立保育所保育士確保対策事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	5月	交付申請受付		
	3月	変更交付申請受付		
	3月	実績報告受付		

本事業に関する主要データ

	R4実績	R5実績	R6実績	R7見込	R8計画
①保育士確保数（人）	102	106	114	108	107
②年度中途の入所枠確保数（枠）	227	271	276	285	258

※②年度中途の入所枠確保数（枠）は数値目標になじまないため直近の3年間(R4～R6)の実績の平均を記載する。



	R4年度末 実績	R5年度末 実績	R6年度末 実績	R7年度2月 実績
待機児童数（人）	20	1	6	0
入所不承諾者数（人）	260	273	233	181

R8節別予算額内訳(千円)

節名称	金額	節名称	金額
負担金補助及び交付金	65,599		
事業費計			65,599

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部こども家庭支援課		妊婦・乳児等健診事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	母子保健法第13条に基づき妊婦及び乳児の健診を行うことで、疾病・障がいを早期に発見するとともに、母子の健康維持・増進を図る。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			妊婦健診受診率（％）	82.3	85	95	96	96
	目標（何を達成するのか）		乳児健診受診率（1か月児）（％）	95.6	98	98	99	99
	妊婦の安心・安全な出産、乳児の健康維持・増進、疾病・障がいの早期発見のため、妊婦健診14回、乳児健診2回の助成を行い、定期的な健康チェックの機会の確保と、経済的負担の軽減を図る。		子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
事業概要	(数値目標の目標年度) 妊婦健診受診率、乳児健診受診率(1か月児)、子育て支援策の満足割合(こども1人以上、40代まで):2029(R11)年度							
	妊婦の安心・安全な出産、乳幼児の健康保持・増進、疾病・障がいの早期発見を目的とし、医療機関において健康診査を実施する。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・妊婦の安心・安全な出産、乳児の健康保持・増進、疾病・障がいの早期発見のため、妊婦および乳児に対して必要な健康診査を実施した。 ・妊婦健診14回、乳児健診2回を助成し、経済的負担の軽減と定期的な健康チェックの機会とした。 ・多胎妊婦を対象に、通常の妊婦一般健康診査14回分を超えて受診した妊婦健康診査費用を助成する「多胎妊婦健康診査費用助成事業」を開始した。		・妊婦の安心・安全な出産、乳児の健康保持・増進、疾病・障がいの早期発見のため、妊婦および乳児に対して必要な健康診査を実施する。 ・妊婦健診14回、乳児健診2回を助成し、経済的負担の軽減と定期的な健康チェックの機会を確保する。 ・多胎妊婦を対象に、通常の妊婦一般健康診査14回分を超えて受診した妊婦健康診査費用を助成する「多胎妊婦健康診査費用助成事業」を実施する。		・妊婦の安心・安全な出産、乳児の健康保持・増進、疾病・障がいの早期発見のため、妊婦および乳児に対して必要な健康診査を実施する。 ・妊婦健診14回、乳児健診2回を助成し、経済的負担の軽減と定期的な健康チェックの機会を確保する。 ・多胎妊婦を対象に、通常の妊婦一般健康診査14回分を超えて受診した妊婦健康診査費用を助成する「多胎妊婦健康診査費用助成事業」を実施する。			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		136,246	145,214	145,214	138,178	-7,036	
	国・県支出金		3,725	4,183	4,183	4,105	-78	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		132,521	141,031	141,031	134,073	-6,958	
歳入合計		136,246	145,214	145,214	138,178	-7,036		
課題	若年妊婦やメンタル不調を抱える妊婦など、特に支援が必要な妊産婦が増えている。		周産期医療機関や地区担当保健師と連携し、情報共有しながら必要な支援につなぐ。					
			方向性					

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	妊婦健診事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	妊婦一般健康診査		
	通年	乳児一般健康診査		

本事業に関する主要データ					
・妊婦一般健康診査実施状況					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
受診票発行数（枚）	20,930	20,272	18,732	17,780	17,276
利用数（枚）	17,636	16,762	14,260	14,552	14,218
受診率（％）	84.3	82.7	76.1	81.8	82.3
・1か月児健診受診状況					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象者数（人）	1,510	1,445	1,463	1,280	1,215
受診者数（人）	1,462	1,409	1,341	1,127	1,162
受診率（％）	96.8	97.5	91.7	88.0	95.6
R6受診者数：令和6年3月1～令和7年2月28日					
R6対象者数：令和6年4月1～令和7年3月31日					
・10か月児健診受診状況					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象者数（人）	1,374	1,381	1,470	1,392	1,260
受診者数（人）	1,309	1,276	1,360	1,236	1,163
受診率（％）	95.3	92.4	92.5	92.5	88.8
R6受診者数：令和5年6月1～令和6年5月31日					
R6対象者数：令和6年4月1～令和7年3月31日					
・両産期医療機関からの妊婦・褥婦連絡票の推移(件)					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
妊 婦（件）	41	35	25	23	30
褥 婦（件）	216	190	206	175	203

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	694		
役務費	1,734		
委託料	131,861		
扶助費	3,889		
事業費計			138,178

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部こども家庭支援課		妊産婦・新生児訪問事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	母子保健法第11条、17条、19条、児童福祉法第21条10の2に基づき、妊産婦への訪問による相談支援を行うことで、母性及び乳児の健康の保持増進を図る。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			こんにちは赤ちゃん訪問率（％）	93.95	97.7	100	100	100
	目標（何を達成するのか）		子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
	乳児のいる全ての家庭を訪問し、乳児と保護者の健康状態等の把握を行い、養育についての相談に応じることで、育児不安の軽減を図る。		健診時にうつ気分がない人の割合（％）	74.5	81	82	83	85
事業概要	(数値目標の目標年度) こんにちは赤ちゃん訪問率、子育て支援策の満足割合（こども1人以上、40代まで）、健診（4か月児健診）時にうつ気分がない人の割合:2029(R11)年度							
	助産師や保健師が乳児のいる家庭を訪問し、乳児の健康状態や発育のチェック、母親の体調や心の状態を確認するとともに、育児の悩み相談に応じる。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・生後4か月までの乳児がいる家庭に、市保健師、委嘱助産師が訪問を実施した。 ・支援が必要な家庭に対しては、産後ケアやヘルパー利用などの必要なサービスにつないだ。		・生後4か月までの乳児がいる家庭に、市保健師、委嘱助産師が訪問し母子の健康状態の確認や育児相談等を行う。 ・支援が必要な家庭に対しては、産後ケアやヘルパー利用などの必要なサービスにつなぎ、育児不安や負担の軽減を図る。		・生後4か月までの乳児がいる家庭に、市保健師、委嘱助産師が訪問を実施する。 ・支援が必要な家庭に対しては、産後ケアやヘルパー利用などの必要なサービスにつなぎ、母子の健康状態の確認や、育児負担の軽減に努める。			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6		R7		R8	
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		6,664	7,183	7,335	7,401	218	
	国・県支出金		4,442	4,704	4,890	4,934	230	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		2,222	2,479	2,445	2,467	-12	
歳入合計		6,664	7,183	7,335	7,401	218		
課題	支援を要する家庭は、育児不安、養育環境の問題、母親の疾患や障がい、精神疾患、ひとり親など課題が多岐に渡る。		多岐に渡る課題に対し、医療機関、委嘱助産師、児童相談所等の関係機関と引き続き連携を図り、安心、安全な出産・子育てができるよう支援を行う。					
	方向性							

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	こんにちは赤ちゃん訪問事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	こんにちは赤ちゃん訪問事業		

本事業に関する主要データ

○こんにちは赤ちゃん訪問事業

年度	件数			出生数	訪問率
	訪問	電話	計		
R1	1,475		1,475	1,545	97.48%
R2	1,365	128	1,493	1,492	100.06%
R3	1,390	21	1,411	1,473	95.70%
R4	1,363	23	1,386	1,409	98.36%
R5	1,248	0	1,248	1,282	97.34%
R6	1,174	0	1,174	1,249	93.95%

- ・訪問件数は他自治体依頼分も含む
- ・R2年度～R4年度は新型コロナウイルス感染症の不安から訪問を希望しなかった場合は電話対応したもの
- ・出生後の転入者があるため訪問率が100%をこえる場合がある。

R8節別予算額内訳(千円)

節名称	金額	節名称	金額
報酬	1,898		
職員手当等	736		
共済費	463		
報償費	3,720		
需用費	317		
役務費	267		
事業費計			7,401

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部こども家庭支援課		利用者支援事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない相談支援を実施し、安心してこどもを産み育てられる環境をつくる。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			妊娠届出時の面談割合（％）	100	100	100	100	100
	目標（何を達成するのか）		健診時にうつ気分がない人の割合（％）	74.5	81	82	83	85
	妊娠・出産・子育てに関する相談に応じ、保健・医療・福祉・教育等の関係機関による切れ目のない支援を行い、育児不安の解消や虐待の未然防止を図る。		子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
事業概要	(数値目標の目標年度) 妊娠届出時の面談割合、健診(4か月児健診)時にうつ気分がない人の割合、子育て支援策の満足割合(こども1人以上、40代まで):2029(R11)年度							
	妊娠・出産・子育てに関する相談に応じ、必要に応じて個別に支援計画(サポートプラン)を策定し、地域の関係機関と連携した切れ目のない支援を行う。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・妊娠・出産・育児に関する各種相談に応じ、必要な保健指導を行うとともにニーズに応じた支援につなぐ。 ・必要に応じて個別にサポートプランを策定し、支援対象者のニーズ把握と支援方針を明確にした。 R7相談件数(12月末時点) ・子育て支援コーディネーター 1,069件 ・母子保健コーディネーター 858件		・妊娠・出産・育児に関する各種相談に応じ、必要な保健指導を行うとともにニーズに応じた支援につなぐ。 ・必要に応じて個別にサポートプランを策定し、支援対象者のニーズ把握と支援方針を明確にする。		・妊娠・出産・育児に関する各種相談に応じ、必要な保健指導を行うとともにニーズに応じた支援につなぐ。 ・必要に応じて個別にサポートプランを策定し、支援対象者のニーズ把握と支援方針を明確にする。			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		9,882	11,004	11,445	11,365	361	
	国・県支出金		6,836	8,365	8,365	9,469	1,104	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		3,046	2,639	3,080	1,896	-743	
歳入合計		9,882	11,004	11,445	11,365	361		
課題	核家族化や地域のつながりが希薄となる中で、育児不安や負担を抱える子育て世帯が多い。			行政のサービスに限らず、地域の子育て支援事業関係者が行っている取組みについての情報収集と周知を行う。				
				方向性				

こども子育て部こども家庭支援課

利用者支援事業費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	利用者支援事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	母子保健・子育て支援コーディネーターの相談・支援		

本事業に関する主要データ

子育て支援コーディネーター（保育士）による相談件数

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R7 ※12月末時点
件数（件）	228	2,741	2,916	2,498	1,476	1,069

※令和5年度から保育所入所申し込みのスマート申請が開始されたことにより保育所関係の相談件数が減少している。

母子保健コーディネーター（保健師）による相談件数（妊娠届出数）

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7 ※12月末時点
件数（件）	1,448	1,448	1,338	1,270	1,218	858

R8節別予算額内訳(千円)

節名称	金額	節名称	金額
報酬	6,735		
職員手当等	2,611		
共済費	1,677		
旅費	200		
需用費	128		
役務費	14		
事業費計			11,365

令和8年度 総合計画実施計画

所 属		事 業 名						
こども子育て部保育所幼稚園課		子育て支援事業費 他3事業						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	地域における子育て支援の充実を図る。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）							
	地域に開かれた保育施設として、子育て講座や地域交流により、子どもたちの豊かな育ちを支援する。							
事業概要	(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合（子ども1人以上、40代まで）：2029(R11)年度							
	保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）において、島根県の「しまねすくすく子育て支援事業」交付金を受けて、次の事業を行う。（1施設あたり上限50,000円、補助率10/10） ①子育て講座事業（子育て家庭の父母、家族等を対象にした講習会、講演会） ②地域交流活動事業（異年代、異校種の子ども同士の交流活動や在宅の子育て家庭を対象にした交流活動）							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	事業実施施設数：76園/100園 事業実施施設の割合：76.0％ 市立保育所・幼保園：15園 私立保育所（認定こども園・小規模保育事業含む）：46園 市立幼稚園：14園 私立幼稚園：1園		事業実施施設数：99園/100園 事業実施施設の割合：99％		事業実施施設数：99園/100園 事業実施施設の割合：99％			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		3,220	5,000	3,800	5,000	0	
	国・県支出金		3,220	5,000	3,800	5,000	0	
	地方債						0	
	その他						0	
	一般財源		0	0	0	0	0	
歳入合計		3,220	5,000	3,800	5,000	0		
課題	より多くの人に参加いただくため、各園の取り組みを地域にPRしていく必要がある。			方向性	各園の取り組みの周知を図り、子どもたちの豊かな育ちを支援するため事業を継続する。			

こども子育て部保育所幼稚園課

子育て支援事業費 他3事業

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	保育所・幼稚園地域交流活動促進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	9月	県交付金 交付決定		
	9～2月	事業実施		
	3月	実績報告		

本事業に関する主要データ

事業実施施設数

年度	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7 (見込)
公立保育所・幼稚園	16	16	12	8	6	12	14	15
私立保育所等	56	55	38	33	33	44	51	46
公立幼稚園	22	19	12	11	13	17	14	14
私立幼稚園（こども園含む）	2	2	2	2	2	2	1	1
合計施設数	96	92	64	54	54	75	80	76
事業実施の割合	92.3%	88.5%	60.4%	50.5%	50.9%	78.9%	77.7%	76.0%

R8節別予算額内訳(千円)

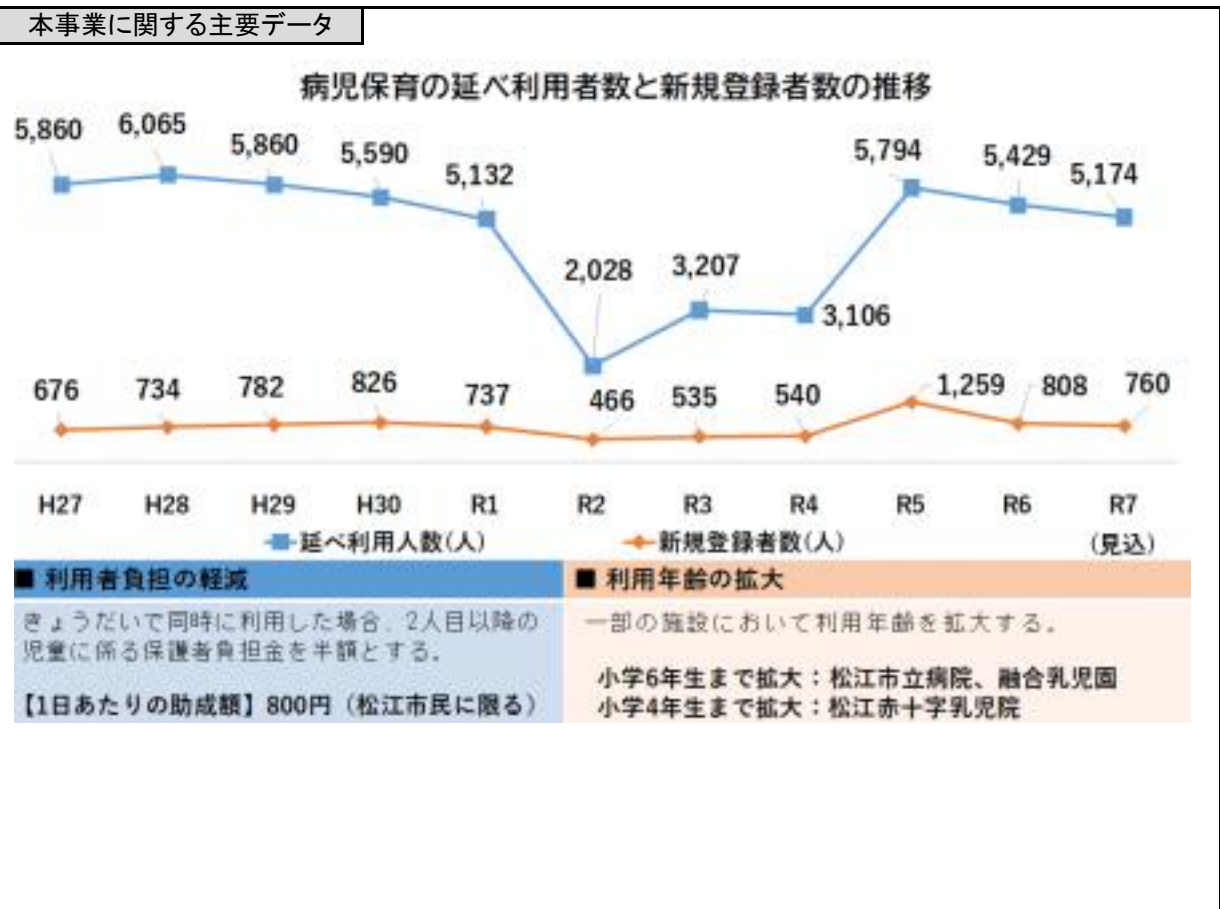
節名称	金額	節名称	金額
報償費	120		
需用費	1,127		
使用料及び賃借料	3		
負担金補助及び交付金	3,750		
事業費計			5,000

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部保育所幼稚園課		病児保育事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	こどもが病気または病気回復期に保護者が家庭での保育が困難な場合、病院・保育所等において、児童を一時的に預かることで、安心して子育てができる環境を整える		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
			新規病児保育登録者数（人）	808	760	1,400	1,400	1,400
	目標（何を達成するのか）		病児保育施設延べ利用者数（人）	5,429	5,174	6,400	6,400	6,400
病気または病気回復期のこどもたちが、安心して過ごすことができる環境を提供するとともに、子育て世帯の負担軽減を図る。								
事業概要	子育て支援策の満足割合（子ども1人以上、40代まで）：2029（R11）年度、新規病児保育登録者数：2029（R11）年度、病児保育施設延べ利用者数：2029（R11）年度							
	保護者が、就労などにより家庭で病気または病気回復期の児童を育児できない場合に、一時的に児童を預かる病児保育を行う。 病児保育施設の利用にかかる登録、予約及びキャンセルが24時間可能となるシステムを継続して活用する。 ■令和8年度から、利用者負担の軽減及び利用年齢の拡大を行う。							
	＜病児保育事業 実施施設＞ 松江赤十字乳児院、松江市立病院すこやか保育室、融合乳児園、つわぶきこども園のぎ、つわぶきこども園やましろ							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	新規登録者数：760人 延べ利用者数：5,174人 委託料：95,392千円 ・7月から、オンライン申請による利用料の免除申請を可能とした。 （財源） 子ども・子育て支援交付金 子ども・子育て支援県交付金		新規登録者数：1,400人 延べ利用者数：6,400人 委託料：108,742千円 ・4月から、きょうだい同時利用の際、2人目以降の利用料を半額とする。 ・4月から、一部の施設において利用年齢を拡大する。 （財源） 子ども・子育て支援交付金 子ども・子育て支援県交付金		新規登録者数：1,400人 延べ利用者数：6,400人 ・利便性の向上を目的に、引き続きサービスや機能を追加・改良する。 （財源） 子ども・子育て支援交付金 子ども・子育て支援県交付金			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6		R7		R8	
			決算		予算		決算見込	
	事業費		90,222		95,901		98,098	
	国・県支出金		56,932		60,688		62,152	
	地方債		0		0		0	
	その他		0		0		0	
	一般財源		33,290		35,213		35,946	
歳入合計		90,222		95,901		98,098		
課題	・きょうだいで同時に利用する場合、利用料は人数分必要となるため、長期間利用の場合などの負担が大きくなる。 ・利用年齢は各施設とも小学3年生までとなっている。		方向性		・きょうだいで同時に利用する場合、2人目以降の児童に係る利用料を半額とする。 ・一部の施設において利用年齢を拡大する。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった　ここで育ててよかった
	主要施策	病児保育事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	利用料の軽減及び利用年齢の拡大		
	4月～3月	病児保育支援システム運用		
	4月～3月	周知・啓発		



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	108,742		
使用料及び賃借料	2,706		
事業費計			111,448

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
こども子育て部こども家庭支援課		地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業）					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	子育て中の保護者の孤立化を防止するとともに、育児の悩みや不安を緩和し、安心してこどもを産み育てられる環境づくりを進めることで、こどもの健やかな育ちを支える。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		市内全支援センター延利用者数（人）	75,050	75,900	73,000	73,000	73,000
	目標（何を達成するのか）	子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
	子育てに関する不安や負担を緩和し、子育て中の親子が気軽に集い交流や仲間づくりを行うことができる場を提供する。						
（数値目標の目標年度） 市内全支援センター延利用者数、子育て支援策の満足割合（こども1人以上、40代まで）：2029（R11）年度 「あいあい」及び8か所のサテライトの計9か所で事業を実施している。 ・子育てに関する不安や悩みの相談、援助の実施 ・親子の交流の場と遊びの場の提供及び仲間づくりの援助の実施 ・子育てサークルやボランティア等の支援団体の育成 ・子育て支援に関する情報の収集及び子育て支援に関する企画及び調整							
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画				
	・各地域の特色を取り入れた事業（地域の公民館、団体、人材と連携）を行った。 ・交流事業（つどい）、子育て学習会、子育て＆子育て支援のための講座、相談事業を実施した。 ・子育ての日キャンペーンの一環として、子育て自主サークルや子育てを応援する民間事業者と連携したイベント等を実施した。 ・サテライト間で安全・円滑に情報共有を行うネットワークシステムを整備した。 ・民間団体が実施する子育て世帯向けの事業を取り組むための情報発信を行う	・地域の特色を取り入れた事業、交流事業（つどい）、子育て学習会や講座、各種相談事業を実施。 ・子育ての日キャンペーンとして、自主サークルや民間団体と連携し、イベントを実施。 ・「たまゆつどいの広場」の照明のLED化を実施。 ・子育て支援にかかわる民間団体が実施する事業や取り組みなどの情報発信を行うとともに、相互補完的に課題を解決する仕組みを研究する。 ・わいわいルームの利用日を拡大し、夏季、冬季に月に1回程度（年6回）、日曜日に開所する。					
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		95,400	117,197	122,713	123,465	6,268	
財源内訳	国・県支出金	49,646	55,646	49,646	57,376	1,730	
	地方債	0	0	0	1,300	1,300	
	その他	0	28,946	28,946	23,059	-5,887	
	一般財源	45,754	32,605	44,121	41,730	9,125	
歳入合計		95,400	117,197	122,713	123,465	6,268	
課題	共働き世帯の増加等によるライフスタイルの変化から、土日・祝日のあそび場に対するニーズが高まっている。	令和8年度からわいわいルームの利用日を拡大し、繁忙期である夏季、冬季に月に1回程度（年6回）、日曜日に開所する。					
		方向性					

こども子育て部こども家庭支援課 地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業）

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	地域子育て支援拠点事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	相談事業実施、遊び場運営、つどい、学習会開催		

本事業に関する主要データ

子育て支援センターの概要

支援センター名	運営	場所	通開所日数	利用人数（人）				
				R2	R3	R4	R5	R6
あいあい	運営	伊達福祉総合センター	4日 休所：日曜	15,998	16,717	14,461	30,280	30,877
わいわいルーム	運営	伊達福祉総合センター	土、祝のみ開所	—	—	—	1,895	2,328
おもちやの広場	運営	市民運動センター	4日 休所：水曜	8,229	8,218	8,583	13,426	15,167
熊鷹子育て支援センター	指定管理 かしま福社会	熊鷹福祉センター	4日 休所：木曜	4,995	7,350	4,796	2,169	9,807
熊鷹子育て支援センター	運営	熊鷹支所	3日 休所：火、金、土、日	781	1,362	1,149	3,383	2,346
たまゆつどいの広場	運営	民生通小学校グラウンド内	5日 休所：土、日、祝	4,362	4,262	3,849	2,924	3,371
市民子育て支援センター	運営	市民会館	5日 休所：土、日、祝	1,391	2,322	1,962	4,382	2,251
やくも子育て支援センター	委託 たけのこ福祉会	たけのこ館	5日 休所：土、日、祝	2,682	2,374	2,261	8,372	3,212
松江赤十字乳児院 （寛見サロン）	委託 松江赤十字乳児院	松江赤十字乳児院	5日（施設休所は3日） 休所：土、日、祝	51	218	36	3,136	1,918
東山園子育て支援センター	運営	コリアイーナ東山園	5日 休所：土、日、祝	2,074	2,820	1,318	1,093	3,978
計				38,561	45,741	38,415	71,029	75,050
				前年度比	118.62%	-79.42%	195.68%	105.67%

★主な地方債：こども・子育て支援事業債 1,300千円（たまゆつどいの広場照明LED化 1,480千円）

R8節別予算額内訳（千円）			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	52,811	委託料	31,799
職員手当等	19,124	使用料及び賃借料	969
共済費	11,705	工事請負費	1,480
報償費	1,284	備品購入費	160
旅費	1,164	負担金補助及び交付金	730
需用費	1,806		
役務費	433		
事業費計		123,465	

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部子育て給付課		母子家庭等対策総合支援事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	ひとり親が安定した生活(就労等)を行うための自立支援を行うことにより、児童を健全に育成する環境を確保する。		項目(成果指標)	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			子育て支援策の満足割合(%)	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）							
	貧困状態にあるこどもや保護者を早期に発見し、確実な支援につなげていく。							
事業概要	(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合(こども1人以上、40代まで):2029(R11)年度 ・母子・父子自立支援員を配置し、様々な問題を抱えるひとり親の相談を受け、関係部署・機関との連携を図りながら、その生活の自立支援を行う。 ・どこに相談すればよいのか、どのような制度があるのかを分かりやすく周知する。 ・母子・父子自立支援プログラム(個々の児童扶養手当受給者の状況・ニーズ等に対応した自立目標や支援内容を設定した計画票)を策定し、継続的な自立・就業支援を実施する。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	母子・父子自立支援員の継続配置 相談件数 3,829件		母子・父子自立支援員の継続配置 相談件数(計画) 4,000件		母子・父子自立支援員の継続配置 相談件数(計画) 4,000件			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		9,252	10,698	11,301	11,329	631	
	国・県支出金		0	168	168	356	188	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		9,252	10,530	11,133	10,973	443	
歳入合計		9,252	10,698	11,301	11,329	631		
課題	ひとり親の貧困率は高い状況にあり、生活状況も様々であるので、一人ひとりに合った支援が必要である。		関係部署や他機関と連携し、ひとり親家庭の経済的自立に向け支援体制を充実させるとともに、こどもの貧困や生活上の問題を抱えた家庭に必要な支援を行えるよう、保育所や学校等へ制度の周知を図る。					
			方向性					

こども子育て部子育て給付課

母子家庭等対策総合支援事業費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	ひとり親家庭総合相談コーナー

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	随時	相談受付		

本事業に関する主要データ

母子・父子自立支援員相談受付件数

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
母子父子自立支援員数		4人	4人	4人	4人
母子父子自立支援員への相談件数		4,062	4,192	4,431	3,352
(上記のうち父子相談)		206	170	273	228
主 な も の	就労に関すること・資格取得	215	169	139	131
	こどもの養育に関すること	237	233	185	102
	経済的な支援に関すること	1,995	2,162	2,440	1,793
	養育費に関すること	166	128	111	85
	DV等に関すること	14	10	7	5
前年度比		100%	103%	106%	76%

※母子・父子自立支援員4人中1人は母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計で予算措置。

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	6,843		
職員手当等	2,652		
共済費	1,660		
旅費	174		
事業費計			11,329

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
こども子育て部子育て給付課		母子父子寡婦福祉資金貸付事業					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	母子家庭及び父子家庭並びに寡婦の経済的自立と生活意欲の助長を図り、あわせて児童の福祉を推進する。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）						
	ひとり親家庭の親や児童に対し修学資金等を貸し付けることにより、ひとり親家庭等の自立促進に寄与する。						
事業概要	(数値目標の目標年度)子育て支援策の満足度(子ども1人以上、40代まで):2029年(R11)年度 【母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計】 中核市移行に伴う県からの事務移譲事業。 母子寡婦家庭の母、父子家庭の父や寡婦などを対象とし、必要な資金を低利子又は無利子で貸し付ける。 <貸付資金の種類> 修学資金、就学支度資金、修業資金、就職支度資金、技能習得資金 等						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	貸付事業実施 貸付金額(見込) 116,387千円 母子・父子自立支援員1名雇用 債権回収業務委託	貸付事業実施 母子・父子自立支援員1名雇用 債権回収業務委託		貸付事業実施 母子・父子自立支援員1名雇用 債権回収業務委託			
	達成度						
計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)	R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費	99,225	156,653	145,053	124,418	-32,235	
	国・県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	99,225	156,653	145,053	124,418	-32,235	
	一般財源	0	0	0	0	0	
歳入合計		99,225	156,653	145,053	124,418	-32,235	
課題	制度上、低所得者層に対する貸付であることや、子が卒業後就職できない、親が失業・病気などの事情により償還が困難となるケースが多く、貸付償還金が滞納となるケースが多い。		方向性	滞納初期段階における償還指導が重要であることから、電話や窓口での分納相談など、きめ細やかな償還指導を行う。 債権回収業者委託を引き続き実施し、効率的な回収を目指す。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	母子父子寡婦福祉資金貸付事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	申請受付・貸付		
	随時	貸付金償還指導		

本事業に関する主要データ

母子父子寡婦福祉資金 貸付状況

(単位：件)

資金種別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
修学	146	140	124	126	131
技能習得	2	1	1	0	1
修業	2	6	3	9	7
就学支度	70	43	56	65	42
その他	3	3	0	3	5
合計件数	223	193	184	203	186
貸付金額（千円）	128,950	105,147	89,002	101,386	91,177

償還金収納率推移

(単位：%)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
現年	91.0	89.8	88.1	87.5	88.2
滞納繰越	7.3	4.6	5.0	11.8	10.6
全体	45.2	44.6	42.9	47.3	45.8

R8節別予算額内訳(千円)

節名称	金額	節名称	金額
貸付金	115,303	委託料	4,081
報酬	2,281	備品購入費	281
職員手当等	884	負担金補助及び交付金	11
共済費	557		
旅費	41		
需用費	132		
役務費	847		
事業費計			124,418

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部こども家庭支援課		5歳児健診事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	就学を見据えた4歳後期に健診を実施することで、保護者が発達過程を意識できる機会を提供するとともに、就学に向けての適切な支援を行い、こどもの心身の健全な発育・発達につなげる。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			一次健診（アンケート）受診率（%）	99.4	98	100	100	100
			二次健診（診察・相談）受診率（%）	79.8	71	80	80	80
			子育て支援策の満足割合（%）	61.95	63.7	80	80	80
目標（何を達成するのか）								
こどもとその保護者が、安心して就学を迎えることができる。								
事業概要	（数値目標の目標年度） 一次健診（アンケート）受診率、二次健診（医師の診察等）受診率、子育て支援策の満足割合（こども1人以上、40代まで）：2029（R11）年度							
	・一次健診（年度内5歳になる児全員を対象としたアンケート）の実施 ・二次健診（一次健診結果から抽出された対象者及び受診希望者への診察、相談）の実施 ・乳幼児期からの一貫した支援体制づくりのため、教育（エスコ）・保健・福祉の連携を図り、情報を共有しながら必要な支援につなぐ。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	1.一次健診（保護者及び所属園・所へのアンケート） 《実施回数》年3回実施 2.二次健診（医師の診察等） 《実施回数》年13回実施 （2診体制年8回、3診体制年5回）		1.一次健診（保護者及び所属園・所へのアンケート） 《実施回数》年3回実施 2.二次健診（医師の診察等） 《実施回数》年18回実施 （2診体制） 3.医師等従事者を対象とした5歳児健診研修会を開催		1.一次健診（保護者及び所属園・所へのアンケート） 《実施回数》年3回実施 2.二次健診（医師の診察等） 《実施回数》年18回実施 ※二次健診の対象者基準を変更			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移（単位：千円）		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		4,873	5,661	5,867	6,388	727	
	国・県支出金		2,429	2,830	2,933	3,194	364	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		2,444	2,831	2,934	3,194	363	
歳入合計		4,873	5,661	5,867	6,388	727		
課題	二次健診の結果を就学校へ伝えることが十分にできていない。		エスコや関係課と連携し、5歳児健診の結果を就学校へ伝え活用する仕組みを検討する。					
			方向性					

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	5歳児健診

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	R8.4	健診案内文及び結果通知文の改訂	R9.3	5歳児健康診査事業検討会議
	R8.5	一次健診(アンケート送付)開始		
	R8.8	二次健診(医師の診察等)開始		
	R8.10	5歳児健康診査研修会開催		

本事業に関する主要データ

松江市の5歳児健康診査は母子保健部門(こども家庭支援課)と教育委員会(発達・教育相談支援センター)が共催で実施している全国でも珍しい取組である。教育部門と共催していることにより、就学に向けての支援をよりスムーズに行なうことができている。

また、発達障がいを早期に発見し、適切な支援を提供することで、こどもたちの健全な発達と保護者の育児不安の軽減を図り、安心して就学が迎えられるようにする。

○5歳児健診受診者数

	R4年度			R5年度			R6年度		
	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率
一次健診	1,607	1,569	97.6%	1,550	1,530	98.7%	1,493	1,484	99.4%
二次健診	194	132	68.0%	220	152	69.1%	208	166	79.8%

※受診希望者を除く

- ・一次健診:4歳9か月ごろに全員を対象に、アンケート方式による一次健診を行う。
保護者と入所入園の場合保育士、幼稚園教諭に実施。
- ・二次健診:一次健診で二次健診の該当になった児に対して、集団健診方式による二次健診を行なう。
さらに、フォローの必要な児には、エスコと連携して就学に向けての適切な支援を行う。

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	3,074	委託料	774
職員手当等	864		
共済費	551		
報償費	817		
旅費	41		
需用費	35		
役務費	232		
事業費計			6,388

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
こども子育て部保育所幼稚園課		業務効率化推進事業費(公立保育所)					
事業の目的と目標	目的 (何のために)	数値目標					
	公立保育所・幼稚園・幼保園の保育士、幼稚園教諭の業務負担を軽減し、保育・教育の質を向上する。同時に、園と保護者双方のコミュニケーションを円滑化し、保護者の負担を軽減する。	項目(成果指標)	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		子育て支援策の満足割合(%)	61.95	63.7	80	80	80
	目標 (何を達成するのか)						
	・保護者の利便性向上 ・保育士等の事務作業時間の短縮						
事業概要							
(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合(子ども1人以上、40代まで):2029(R11)年度 保護者との連絡、保育の計画・記録等を管理する保育支援システムを導入 ・令和4年3月に3園に導入、令和5年3月に残り全園(8園)に導入完了 ・令和5年4月からお知らせ配信機能、5月からは登降園管理、保護者連絡機能の稼働を開始 ・令和7年3月からキャッシュレス決済を3園にて開始、4月から残り全園(8園)にて開始 (私立保育所等には別途補助事業によりシステム導入経費を助成)							
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・全園で給食費等のキャッシュレス化開始	・引き続きシステムを利用し業務効率化、保護者の利便性向上を図る		・引き続きシステムを利用し業務効率化、保護者の利便性向上を図る			
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		7,647	10,581	10,581	9,740	-841	
財源内訳	国・県支出金	0	0		0	0	
	地方債	0	0		0	0	
	その他	0	0		0	0	
	一般財源	7,647	10,581	10,581	9,740	-841	
歳入合計		7,647	10,581	10,581	9,740	-841	
課題	今後、タブレット端末の更新等が必要となる。			端末更新については必要台数を精査しながら、利用する機能の追加を検討しシステムの活用を図る。			
				方向性			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	保育業務ICT化推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	システム利用		
	8月	職員・保護者アンケート実施		

本事業に関する主要データ

● システム導入前

登降園管理

- 職員の目視で確認し、手書きで記録

保護者への連絡

- 口頭、電話、手紙や連絡帳

園児に関する記録

- 手書きまたはパソコンで管理

集金（給食費など）

- 現金で徴収



● システム導入後



施設側：
システムで管理



保護者側：スマートフォンなどで連絡
登降園はタブレットにタッチ
支払もキャッシュレスOK

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	212		
役務費	2,249		
委託料	6,807		
使用料及び賃借料	472		
事業費計			9,740

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
こども子育て部保育所幼稚園課		業務効率化推進事業費(公立幼稚園)					
事業の目的と目標	目的 (何のために)	数値目標					
	公立保育所・幼稚園・幼保園の保育士、幼稚園教諭の業務負担を軽減し、保育・教育の質を向上する。同時に、園と保護者双方のコミュニケーションを円滑化し、保護者の負担を軽減する。	項目(成果指標)	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		子育て支援策の満足割合(%)	61.95	63.7	80	80	80
	目標 (何を達成するのか)						
	・保護者の利便性向上 ・保育士等の事務作業時間の短縮						
事業概要							
(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合(子ども1人以上、40代まで):2029(R11)年度 保護者との連絡、保育の計画・記録等を管理する保育支援システムを導入 ・令和4年3月に1園に導入、令和5年3月に残り全園(18園)に導入完了。 ・令和5年4月からお知らせ配信機能、5月からは登降園管理、保護者連絡機能の稼働を開始。 ・令和7年2月からキャッシュレス決済を全園(14園)にて開始							
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	引き続きシステムを利用し業務効率化、保護者の利便性向上を図った	引き続きシステムを利用し業務効率化、保護者の利便性向上を図る		引き続きシステムを利用し業務効率化、保護者の利便性向上を図る			
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		5,808	7,027	7,027	6,989	-38	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	5,808	7,027	7,027	6,989	-38	
歳入合計		5,808	7,027	7,027	6,989	-38	
課題	今後、タブレット端末の更新等が必要となる。			端末更新については必要台数を精査しながら、利用する機能の追加を検討しシステムの活用を図る。			
				方向性			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	保育業務ICT化推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	システム利用		
	8月	職員・保護者アンケート実施		

本事業に関する主要データ

● システム導入前

登降園管理

- 職員の目視で確認し、手書きで記録

保護者への連絡

- 口頭、電話、手紙や連絡帳

園児に関する記録

- 手書きまたはパソコンで管理

集金（給食費など）

- 現金で徴収



● システム導入後



施設側：
システムで管理



保護者側：スマートフォンなどで連絡
登降園はタブレットにタッチ
支払もキャッシュレスOK

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	408		
役務費	937		
委託料	5,526		
使用料及び賃借料	118		
事業費計			6,989

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部保育所幼稚園課		業務効率化推進事業費(私立保育所)						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	私立保育所等における職員の事務負担軽減を図り、これにより、保育の質を向上する。		項目(成果指標)	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			システム満足度(5段階)			3	3.5	4
	目標（何を達成するのか）							
	市内私立保育所等に運営費等を管理するためのシステムを導入し、保育所等の事務作業時間の短縮を図る。							
事業概要	システム満足度(5段階):2028(R10)年度							
	市内の私立保育所等とメールや郵送等で行っている運営費等の申請、算定等に係る事務処理を、クラウド型システムでデジタル化し、データの一括管理と各施設の事務の効率化を図る。これにより、施設職員が保育に専念できる時間を増やし、保育の質の向上を目指す。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
			事業者選定 システム構築 施設への利用説明 システム導入 (財源:地域未来交付金 国1/2)		本格利用開始			
	達成度							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費					8,800	8,800	
	国・県支出金					4,400	4,400	
	地方債						0	
	その他						0	
	一般財源		0	0	0	4,400	4,400	
歳入合計					8,800	8,800		
課題	現在は運営費の申請等を市と私立保育所等の間でメールや書面などで複数回やり取りを行っている。 制度が複雑なこともあり、確認や修正等に時間がかかり、施設、市双方の負担となっている。		方向性	事務負担軽減のため、申請内容のエラー判定等の機能やコールセンターを備えたシステムを導入する。				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	保育業務ICT化推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	～5月	仕様検討		
	6～7月	プロポーザル実施		
	9～3月	システム導入		
	3月	施設向け満足度アンケート		

本事業に関する主要データ

事業概要	現在、市内の民間教育・保育施設とメールや郵送等で行っている教育・保育施設の給付費等の申請、算定等に係る事務処理を、クラウド型システムでデジタル化し、データの一括管理と各施設の事務の効率化を図る。これにより、施設職員が保育に専念できる時間を増やすと共に、運営状況や職員配置状況を施設がより把握しやすくすることで保育の質の向上を図り、市民サービスの向上を目指す。		
具体サービス	【導入システム概要】 ・民間教育・保育施設とのメールや郵送、持参による教育・保育給付申請や補助金申請等をクラウド型システムによりデジタル化 ・事務効率化による業務負担軽減により、保育に専念できる時間を増やすことで、保育の質の向上や、保護者からの連絡・相談に対してより迅速な対応が可能 ・園児・職員・施設情報等に基づく給付・補助金手続き等の一元化を図ることで、質の高い保育の提供を目指す。 【期待される導入効果】 ・安定雇用の確保に伴う民間の教育・保育施設の利用希望児童の受け皿確保・維持 ・子育て世代の安心した社会参加の実現	民間保育所等 自治体 ヘルプデスク システムとヘルプデスクで保育所等をサポート！ 保育の充実	

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	8,800		
事業費計			8,800

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
こども子育て部こども政策課		子育ての日イベント事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	・市全体で子育てを応援する機運の醸成を図る。 ・市などが行う子育て支援施策の認知度の向上を図る。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			子育て支援策の満足割合（％）	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）		子育ての日イベント来場者の満足割合	97.6	98.5	98	98	98
	企業・団体等と連携したキャンペーンや親子で楽しめるイベントを通じて、行政の子育て支援施策や企業・団体等の子育て応援事業の情報発信を行い、社会全体で子育てを応援する機運を醸成する。							
事業概要	(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合（子ども1人以上、40代まで）：2029(R11)年度 子育ての日イベント来場者の満足割合：2029(R11)年度							
	・毎年11月19日を本市独自の「子育ての日」として設定。（※令和5年度に設定済） ・「子育ての日」の前1週間に社会全体で子育てを応援するキャンペーンを実施。 ・親子で楽しめるイベントを開催。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・11月9日に親子で楽しめるイベントを開催した。（来場者数：約2,000人） ※開催時間を短縮 ・こども家庭庁、島根県立大学との共催で「こどもまんなかアクション」リレーションポジウムを同時開催した。 ・子育ての日（11月19日）を含む前1週間（11月13日から11月19日）に企業と連携し、子育てを応援する機運の醸成を図るキャンペーンを実施した。		・子育ての日を含む前1週間に企業と連携し、子育てを応援する機運の醸成を図るキャンペーンを実施する。 ・親子で楽しめるイベントを開催する。		・子育ての日の前1週間に企業と連携し、子育てを応援する機運の醸成を図るキャンペーンを実施する。 ・親子で楽しめるイベントを開催する。			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6		R7		R8	
			決算		予算		決算見込	
	事業費		6,204		6,394		6,394	
	国・県支出金		1,602		3,197		3,197	
	地方債		0		0		0	
	その他		4,598		1,598		1,598	
	一般財源		4		1,599		1,599	
歳入合計		6,204		6,394		6,394		
課題	・キャンペーンは、認知度が低かったことも一つの要因となり、参画事業所数は目標の200社に対して26社と低い結果となった。		方向性		・「子育ての日」を象徴するイベントとキャンペーンを実施し、社会全体で子育てを応援する機運の醸成及び意識の定着を図る。 ・キャンペーン参画による企業側のメリット等を明示するなど、より丁寧な説明や呼びかけを行うことでキャンペーン参画企業の拡大を図る。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった　ここで育ててよかった
	主要施策	子育ての日イベント事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～6月	イベント・キャンペーン実施運営業務委託プロポーザル、契約		
	4月～11月	企業・団体等へキャンペーンへの参画を呼びかけ		
	11月	子育ての日イベント開催		
	11月	子育ての日キャンペーン実施		

本事業に関する主要データ

11月19日は松江市の「子育ての日」

まち全体で子育て応援の機運を高めるイベントとキャンペーンを実施します

子育ての日ファミリーイベント開催

【実施日】令和8年11月上旬
【対象】就学前～小学生低学年のこどもとその保護者
【概要】親子で参加できるイベントを開催
楽しみながら子育て支援情報を得られる機会の提供



子育ての日キャンペーン週間

【実施期間】子育ての日を含む前1週間
【対象】市内の企業・団体
【概要】子育てを応援する取組の実施を呼びかけ、社会全体で子育てを応援する機運を醸成

キャンペーン取組例

A社：ノー残業ウィーク
B社：社員のこどもの行事への参加推進
C社：家族向け特典・割引

行政、地域、企業、NPO など様々な立場の個人や組織、コミュニティ等が、こどもや子育て世代の視点に立って、その最善の利益を第一に考えながら、一体感を持ってアクションを起こしていくことで、社会全体で子育てを応援する機運の醸成を図ります。

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	54		
委託料	6,359		
使用料及び賃借料	150		
事業費計			6,563

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会発達・教育相談支援センター		発達・教育相談支援センター運営費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	障がい等によるこどもたちの生活や学習上の困難さに早期に気づき、切れ目のない相談体制のもと適切な支援につなげる。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		就学支援に対する保護者の納得度割合（％）	76.3	74.4	90	90	92
	目標（何を達成するのか）	進路選択に対する生徒の満足割合（％）	88.4	87.9	90	90	90
	①異なる専門性（教育・保健・福祉・医療）の高度な連携【連携強化】 ②選択可能な学びの場や支援体制の整備の充実【支援拡充】 ③まわりの大人のこども理解力の向上と共生社会意識の醸成【意識転換】	交流学习計画授業時数の割合（％）	38.3	36.2	43	43	47
事業概要	（数値目標の達成目標年度） 項目名 就学支援の納得度の割合【発達・教育相談支援センターが就学支援に関わった保護者へのアンケート】：2029（R11）年度 項目名 中学校3年生特別支援学級在籍生徒の進路選択に対する満足割合【対象生徒へのアンケート】：2029（R11）年度 項目名 年間授業時数のうち特別支援学級と通常の学級の児童生徒の交流学习計画授業時数の割合【各年5月1日時点】：2029（R11）年度 ・発達・教育相談支援センター「エスコ」は、教育を中心に保健・福祉・医療等との連携を深め、乳幼児期から一貫した相談支援を実施している。幅広い発達段階や多様な障がいの状況等を有するケースに対応しており、適切な実態把握や丁寧で継続した相談対応、効果的な療育を実施すること等が求められている。 ・専門スタッフの人件費、電話代等、センター運営にかかる諸経費。						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画				
	・読み書きに困難を抱えるこどもの相談支援体制の充実を図るため、教育指導講師（会計年度任用職員）を1人増。 ・教育・保健・福祉・医療等の関係機関と連携し、早期からの切れ目のない相談支援体制を充実させた。 【評価】早期からの一貫した支援の充実に向け、保護者や所属からの相談に丁寧かつ迅速に対応を行った。複雑化する相談では、関係機関と連携し、組織的に対応することで、保護者の安心、学校・園等において適切な支援が実現した。	・読み書きに困難を抱えるこどもの相談支援体制の充実を図る。 ・教育・保健・福祉・医療等の関係機関と連携し、早期からの切れ目のない相談支援体制を充実させる。 ・「松江市特別支援教育推進計画」のこれまでの取組の振り返りを行い、見直しを図る。 島根県子ども発達支援事業費補助金1/2（事業費上限5,000千円）	・読み書きに困難を抱えるこどもの相談支援体制の充実を図る。 ・教育・保健・福祉・医療等の関係機関と連携し、早期からの切れ目のない相談支援体制を充実させる。 ・「松江市特別支援教育推進計画」のこれまでの取組の振り返りを行い、見直しを図る。 島根県子ども発達支援事業費補助金1/2（事業費上限5,000千円）				
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		49,883	56,563	51,317	60,487	3,924	
財源内訳	国・県支出金	2,500	2,500	1,918	2,500	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	47,383	54,063	49,399	57,987	3,924	
歳入合計		49,883	56,563	51,317	60,487	3,924	
課題	・相談件数は増加傾向で、内容も複雑化しており、支援ニーズも多様化している。今後も教育だけでは対応が困難なケースの増加が予想される。 ・困難なケースへの対応、関係機関との連携、早期の気づきに応じた適切な助言指導及び効果的な療育等が求められており、スタッフの高い専門性の維持が必要である。			・困難なケースの増加に対応するため、教育・保健・福祉・医療等との連携強化を図り支援にあたる。 ・学校、園等現場の支援力の向上とそれを支える体制の充実に向けて、計画的な研修や訪問指導等を進める。			
				方向性			

教育委員会発達・教育相談支援センター 発達・教育相談支援センター運営費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	発達・教育相談支援センターの運営

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	特別支援教育コーディネーター説明会	6月、9月	特別支援教育コーディネーター研修会
	4月	専門巡回相談、就学相談の申込受付開始	11月初旬	就学相談申込受付締切
	5～3月	専門巡回相談、就学相談の実施	12月中旬	専門巡回相談申込受付締切
	6～3月	特別支援教育就学審議会(月1回、10回開催)	2～3月	次年度の各種相談、特別支援教育コーディネーター研修等検討

本事業に関する主要データ

幼児児童生徒等別相談件数の状況

単位: 件

	幼 児		小学生		中学生		高校生	成人	合 計
	～4歳	5歳	通常	特学	通常	特学			
R1	1,036	1,602	1,127	160	182	58	8	3	4,176
	2,638		1,287		240		11		
R2	950	1,300	1,038	303	155	72	3	1	3,822
	2,250		1,341		227		4		
R3	832	1,241	1,146	273	171	43	2	3	3,711
	2,073		1,419		214		5		
R4	755	1,157	904	313	168	72	5	1	3,375
	1,912		1,217		240		6		
R5	768	1,274	1,037	394	152	74	6	2	3,707
	2,042		1,431		226		8		
R6	865	1,503	886	339	206	134	2	1	3,836
	2,368		1,225		340		3		
R7	888	1,477	690	330	131	85	0	2	3,603
	2,365		1,020		216		2		

【通常】通常の学級に在籍する児童生徒、【特学】特別支援学級に在籍する児童生徒の相談件数

R8節別予算額内訳(千円)

節名称	金額	節名称	金額
報酬	33,025		
職員手当等	12,669		
共済費	8,104		
旅費	992		
需用費	117		
役務費	230		
負担金補助及び交付金	5,350		
事業費計			60,487

令和8年度 総合計画実施計画

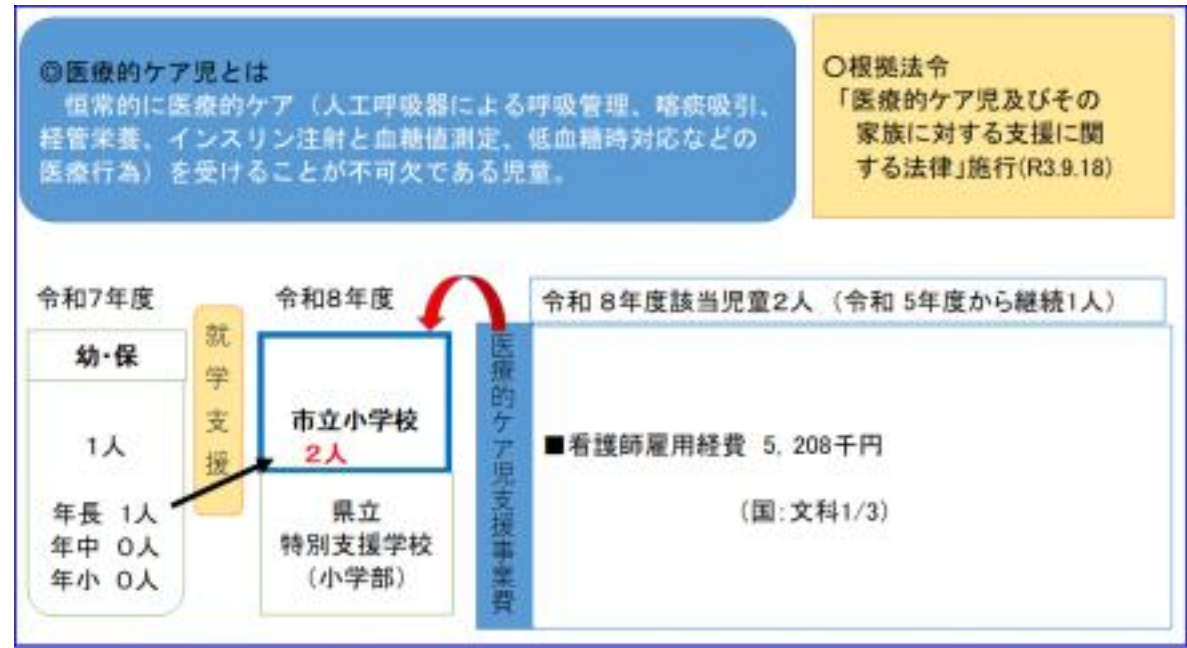
所属		事業名						
教育委員会発達・教育相談支援センター		医療的ケア児支援事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	医療的ケア児の健やかな成長を図るとともに、その家族の離職の防止に資し、もって安心して子どもを生み、育てることができる社会の実現に寄与することを目的としている。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			就学支援に対する保護者の納得度割合（％）	76.3	88	90	90	92
	目標（何を達成するのか）							
	医療的ケア児が医療的ケア児でない児童生徒等と共に教育を受けられるよう最大限に配慮しつつ適切に支援を行うことで、医療的ケア児の可能性を最大限に発揮させ、将来の自立や社会参加のための必要な力を培う。							
事業概要	(数値目標の達成目標年度)							
	項目名 就学支援の納得度の割合【発達・教育相談支援センターが就学支援に関わった保護者へのアンケート】:2029(R11)年度							
・「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され(R3.6.18公布、R3.9.18施行)、医療的ケア児に対して教育を行う体制の拡充が図られるよう、医療的ケア児が在籍する学校に対して必要な支援措置を講じる。								
・令和5年度から継続して医療的ケア児が在籍する市立小学校へ看護師を配置する。								
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・市立小学校1校で医療的ケア児を受入れるため看護師を配置。		市立小学校2校で医療的ケア児を受入れるため看護師を配置。		・市立小・中・義務教育学校で医療的ケアを必要とする児童生徒の情報を収集し、必要に応じて受け入れ準備を行う。			
	教育支援体制整備事業費補助金 1/3 (切れ目ない支援体制整備充実事業)		教育支援体制整備事業費補助金 1/3 (切れ目ない支援体制整備充実事業)		・こども子育て部等と連携して就学前の医療的ケア児に関する情報共有を行い、必要に応じて市立学校での受け入れ準備を行う。			
	達成度							
		計画目標に向けて順調に推移						
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		1,322	1,649	1,649	5,208	3,559	
	国・県支出金		427	549	439	1,736	1,187	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		895	1,100	1,210	3,472	2,372	
歳入合計		1,322	1,649	1,649	5,208	3,559		
課題	・支援体制の整備に向けた、看護師の安定的な確保が必要である。				・適切な就学に向けて、医療的ケア児及び保護者との相談を早期から丁寧に進める。			
	・医療的ケアを実施する学校内での協力体制の構築、仕組みづくりが必要である。				・医療的ケア児を安心・安全に受け入れるための支援体制を整備する。			
課題	・全ての教職員へ学校における医療的ケアの教育的意義等の理解啓発を図る必要がある。				・こども子育て部や健康福祉部との連携による早期からの切れ目ない支援体制の充実を図る。			
					・共生社会に向けた理解促進を図る。			

教育委員会発達・教育相談支援センター 医療的ケア児支援事業費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	医療的ケア児支援事業(市立小・中・義務教育学校)

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	小学校2校へ看護師配置	4月以降	次年度以降の医療的ケア児受入体制の検討
	4月	学校内での支援体制整備		
	4月以降	国への補助金申請		
	4月以降	次年度以降の医療的ケア児についてこども子育て部等との情報共有		

本事業に関する主要データ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	3,367		
職員手当等	1,197		
共済費	494		
旅費	150		
事業費計			5,208

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会生涯学習課		児童クラブ運営委託費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	・放課後児童の健全育成	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		児童クラブ待機児童数(人)	46	49	0	0	0
	目標（何を達成するのか）	※5/1時点 公設民設合計					
	・小学校区の地域特性やニーズに応じたきめ細かな運営の実施 ・待機児童の解消 ・基準条例に即した施設や運営体制の整備 ・放課後児童支援員の育成、人材確保						
事業概要	(数値目標の達成目標年度) 項目名 児童クラブ待機児童数(人):2029(R11)年度 【公設児童クラブ運営】 保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に対し、適切な遊び及び生活の場の提供、児童の自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立など、その健全な育成を図ることを目的とした放課後児童健全育成事業を実施している公設児童クラブに対して指定管理料を支出する。 平成5年事業開始後、令和8年度には42クラブ57室で実施予定。条例で定める設備運営基準に基づき、各クラブのニーズに対応しながら、待機児童の解消や受入数の適正化などを順次進めている。 ・指定管理者:27運営委員会、1社会福祉法人、1民間事業者 ・国庫補助基準額に対する負担割合 国1／3・県1／3・市1／3						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・地域の運営委員会から民間事業者等へ移行した4クラブについて、3か月ごとに定例会を開催し、内容を各公設児童クラブへ共有した。また移行に伴う課題を整理し、検証を行った。 ・鹿島東児童クラブの運営について、公募により民間事業者を指定管理者として指定した。 【評価】 運営主体移行に向け、引継ぎ期間を約6か月確保するスケジュールに改善した。他の課題も継続して検討を進める。	・4月～ 鹿島東児童クラブ供用開始 ・地域の運営委員会から民間事業者等へ運営を移行した4クラブの定例会の内容について、各公設児童クラブへ引き続き情報提供を行いながら、各運営委員会への運営主体移行にかかる意向確認および民間事業者へのサウンディング調査を行う。 ・運営主体を移行する運営委員会について、円滑な移行の実現のため、労務・会計管理関連の状況確認・整備を行う。					
	達成度 計画目標に向けて進捗はやや遅れている						
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)	R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費	420,996	481,581	420,996	492,079	10,498	
	国・県支出金	217,310	270,090	217,310	279,808	9,718	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	115,565	96,465	115,565	91,501	-4,964	
	一般財源	88,121	115,026	88,121	120,770	5,744	
歳入合計		420,996	481,581	420,996	492,079	10,498	
課題	・年度によっては待機児童が発生する校区がある。 ・現指定管理者である運営委員会は任意団体であり、責任の所在が不明確などの構造的な問題が顕在化してきている。		方向性	・民間事業者等への運営主体の移行について、令和7年度から令和9年度の3年間の指定期間において検証を行う。 ・その検証結果や地域の実情を踏まえ、市の提案に賛同した児童クラブについては、順次、令和10年度からの民間事業者等への運営主体の移行を進める。			

教育委員会生涯学習課

児童クラブ運営委託費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	放課後児童健全育成事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	指定管理年度協定書締結		
	7月～2月	市と指定管理者(民間事業者等)の定例会の開催		
	8月、3月	児童クラブ連絡協議会の開催		
	12月～1月	新年度入会児童募集		

本事業に関する主要データ								
児童クラブ入会状況(毎年5月1日現在)								
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
公設児童クラブ	開設箇所数	41箇所57室	41箇所58室	40箇所61室	40箇所60室	41箇所59室	41箇所58室	41箇所58室
	定員	2,212	2,150	2,235	2,211	2,204	2,170	2,160
	入会児童数	1,864人	1,893人 (1,886人)	1,877人 (1,868人)	1,875人 (1,867人)	1,815人 (1,800人)	1,718人 (1,701人)	1,646人 (1,623人)
民間児童クラブ	開所箇所数	27箇所	31箇所	33箇所	41箇所	42箇所	45箇所	44箇所
	定員	952	1,084	1,147	1,513	1,571	1,691	1,656
	入会児童数	961人 (788人)	1,093人 (859人)	1,155人 (884人)	1,436人 (1,039人)	1,548人 (1,131人)	1,664人 (1,200人)	1,723人 (1,182人)
合 計	入会児童数	2,825人 (2,652人)	2,986人 (2,745人)	3,032人 (2,752人)	3,311人 (2,906人)	3,363人 (2,931人)	3,382人 (2,901人)	3,369人 (2,805人)
	入会率	25.8% (48.3%)	27.3% (50.2%)	27.7% (50.7%)	30.4% (53.2%)	31.2% (55.0%)	32.2% (56.7%)	35.5% (58.8%)
※令和2年度から子どもが徒歩移動できる距離に民設児童クラブがない、児童数が少なく帰宅後は子ども同士で遊ぶことができないなど、地域への配慮すべき事由がある校区においては、4年生以上の入会を認める。								
※()は入会児童数のうち1～3年生								
※島根大学教育学部附属義務教育学校の児童も含む								

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	492,079		
事業費計			492,079

令和8年度 総合計画実施計画

所 属		事 業 名						
教育委員会生涯学習課		児童クラブ施設整備事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	児童クラブの適正な維持管理		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			数値目標になじまない。					
	目標（何を達成するのか）							
	施設の状況に応じて、計画的に改修等を行う。							
事業概要	公設児童クラブの施設・設備等の整備を行う。施設・設備の耐用年数を踏まえ、優先度の高いものから実施する。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・美保関児童クラブ空調更新工事 ・川津児童クラブ空調更新工事 ・秋鹿児童クラブ空調更新工事 ・大庭地区第2児童クラブ空調修繕 ・持田児童クラブ空調修繕 【評価】老朽化している空調設備の更新により、環境改善を図ることができた。		・しまね潮風児童クラブ空調更新設計委託、工事		・引続き、施設や設備が老朽化している児童クラブの、改修等を行い環境改善を図る。			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		4,646	20,896	20,896	6,857	-14,039	
	国・県支出金		0	10,298	10,298	4,496	-5,802	
	地方債		0	9,200	9,200	1,800	-7,400	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		4,646	1,398	1,398	561	-837	
歳入合計		4,646	20,896	20,896	6,857	-14,039		
課題	・施設の老朽化が進行している。		方向性	・特定建築物定期点検等を通じて、施設の状況を把握し、計画的に改修等を行う。				

松江市総合計画	基本目標	ひとつづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった　ここで育ててよかった
	主要施策	放課後児童健全育成事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～6月	設計		
	8月～11月	工事		

本事業に関する主要データ			
公設児童クラブ一覧表(令和7年5月1日現在)			
NO	校区	クラブ名	開設年度
1	古志原	古志原地区児童クラブ	H5
2		古志原地区児童クラブ分室	H22
3		古志原地区第2児童クラブ	H19
4	大庭	大庭地区児童クラブ	H5
5		大庭地区第2児童クラブ	H19
6	城北	城北児童クラブ	H5
7		城北児童クラブ分室1	H21
8	母衣	城北児童クラブ分室2	R2
9		城東地区児童クラブ	H6
10	川津	川津児童クラブ	H6
11		川津児童クラブ分室	H28
12	竹矢	川津第2児童クラブ	H16
13		竹矢児童クラブ	H6
14	津田	竹矢第2児童クラブ	H26
15		津田児童クラブ(第1)	H6
16	内中原	津田児童クラブ(第2)	H14
17		津田児童クラブ(第3)	H20
18	城西区	城西区児童クラブ	H7
19		城西区第2児童クラブ	H21
20		城西区第3児童クラブ	H26
21		城西区第3児童クラブ分室	H26
22	乃木	乃木児童クラブ	H7
23		乃木児童クラブ分室1	H31
24	吉江	乃木児童クラブ分室2	H31
25		乃木第2児童クラブ	H15
26	神田	吉江地区児童クラブ	H8
27		吉江地区児童クラブ分室	H23
28	神田	神田児童クラブ	H9
29		神田第2児童クラブ	R5
30	生馬	神賀児童クラブ	H10
31		生馬児童クラブ	H11
32	中央	中央児童クラブ	H11
33		中央第2児童クラブ	H20
34	徳吉	比津児童クラブ	H13
35		比津児童クラブ分室	H20
36	朝酌	朝酌児童クラブ	H17
37		玉湯児童クラブ	H10
38	玉湯	玉湯児童クラブ分室1	H25
39		玉湯児童クラブ分室2	R3
40	六道	しんじつクラブ	H12
41		しんじつクラブ分室	H30
42	高待	きざみちくさクラブ	H12
43		やぐも児童クラブ	H4
44	八束	八束っ子児童クラブ	H11
45		秋産児童クラブ	H17
46	東島	東島児童クラブ	H17
47		本庄児童クラブ	H18
48	大野	大野児童クラブ	H18
49		新保児童クラブ	H21
50	掛屋	掛屋児童クラブ	H11
51		掛屋児童クラブ分室	H29
52	出雲町	出雲町児童クラブ	H13
53		出雲町児童クラブ分室	H23
54	豊東	豊東児童クラブ	H14
55		豊東児童クラブ分室	R3
56	三好	いんべ児童クラブ	H24
57		しまね潮風児童クラブ	H27
58	佐太	佐太児童クラブ	H27
59			

41児童クラブ 58室

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	1,025		
工事請負費	5,832		
事業費計			6,857

令和8年度 総合計画実施計画

所属	事業名
教育委員会生涯学習課	児童クラブ運営補助金

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	多様なニーズに対応し、柔軟な受け入れが可能である民設民営児童クラブの運営を支援する。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		児童クラブ待機児童数（人）	46	49	0	0	0
		※5/1時点 公設民設合計					
		- 待機児童解消 - 多様なニーズへの対応					

事業概要	(数値目標の達成目標年度)
	項目名 児童クラブ待機児童数(人):2029(R11)年度 【民間児童クラブ補助】 ・待機児童解消や利用者のニーズに応じた選択肢を増やすため、児童福祉法に基づく放課後児童健全育成事業を実施する社会福祉法人等の団体に対し補助金を交付する。 ・国庫補助基準額に対する負担割合 国1/3・県1/3・市1/3

	R7実績見込	R8計画	R9計画
事業の成果及び実績	○44児童クラブ(5/1時点) ○新規開設2箇所 ・こそけん学園津田校第4ルーム ・フレア児童クラブ ○閉所2箇所 ・学童保育たわやまこクラブ・学童保育施設ウイズキッズMT-M校 ○休所1箇所 ・ひよしサンサンクラブ 【評価】新規開設される児童クラブはあるものの、完全な待機児童解消には至っていない	○46児童クラブ(5/1時点) ○新規開設予定3箇所 ○閉所1箇所 ・学童保育みつきこクラブ ○休所1箇所 ・ひよしサンサンクラブ	○47児童クラブ ○引続き運営補助を行っていく。
	達成度		
	計画目標に向けて進捗はやや遅れている		

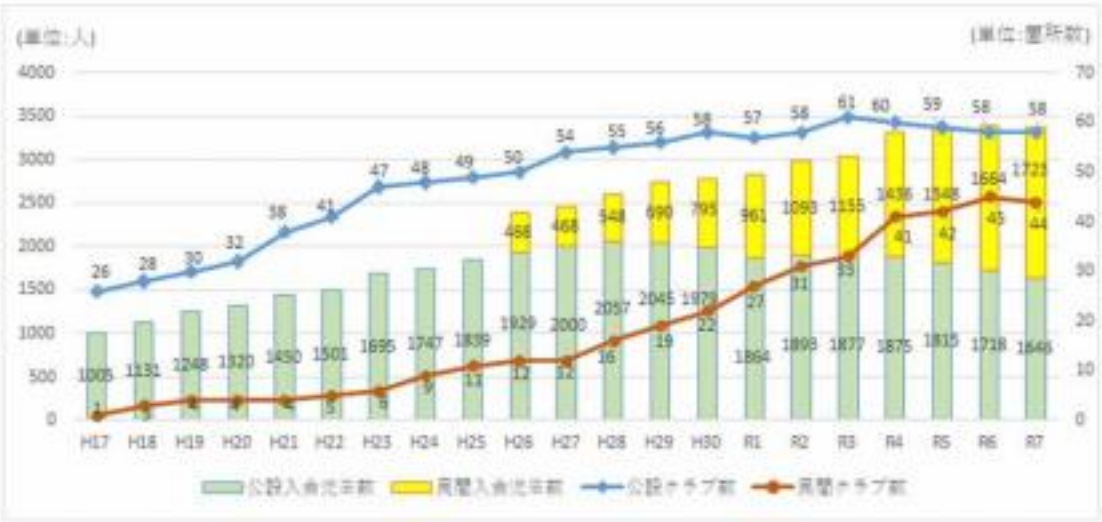
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		380,051	459,461	459,461	489,828	30,367
財 源 内 訳	国・県支出金	252,474	306,306	306,306	326,552	20,246
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	127,577	153,155	153,155	163,276	10,121
歳入合計		380,051	459,461	459,461	489,828	30,367

課題	方向性
・クラブ数や受入れ人数が増えているが、待機児童の目標達成にはいたらなかった。引き続き待機児童解消に向けた取組の継続が必要である。	・待機児童対策や利用者ニーズに応じた選択肢を増やすため、民設民営児童クラブへの運営支援を継続して行う。また、国の制度を注視し、補助対象事業の拡充を検討する。

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった　ここで育ててよかった
	主要施策	放課後児童健全育成事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	補助金交付申請、交付決定	3月	実績報告、精算
	6月	補助金支払い(1回目)		
	1月	変更交付申請、交付決定		
	2月	補助金支払い(2回目)		

本事業に関する主要データ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
負担金補助及び交付金	489,828		
事業費計			489,828

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
教育委員会生涯学習課		放課後こども教室事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	学校を核として地域全体で地域の将来を担うこどもたちを育成するとともに地域のコミュニティの活性化を図る。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			放課後こども教室実施数(室)	32	32	32	33	33
	目標（何を達成するのか）		校内交流型こども教室・児童クラブ実施数(室)	21	21	22	21	22
	放課後等における地域のこどもたちの安全・安心な活動場所を確保し、様々な体験活動の機会を提供することにより、こどもたちの豊かな人間性を養う。							
事業概要	(数値目標の達成目標年度)							
	項目名 放課後こども教室実施数(室):2029(R11)年度 * 実際の運営単位である「室数」へ変更 項目名 校内交流型こども教室・児童クラブ実施数(室):2029(R11)年度 * 国の名称変更に伴い変更 (「令和8年度当初予算説明資料」においては、変更前の項目名を記載していたため、正しくは上記の項目名となるもの。) ・「放課後児童対策パッケージ2026」に基づき、地域のこどものために放課後等に安全・安心な活動場所を確保し、地域の方々の参画を得て、自由遊びや体験・交流活動等の様々な活動を体験する機会を提供する。 ・地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりの推進を図る。 ・国庫補助基準額に対する負担割合 国1/3							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画			R9計画		
	・放課後こども教室と児童クラブの校内交流型実施数21 ・活動の充実のためスタッフの要望に沿った研修を10回開催 ・情報誌「Tweet」を4回発行 【評価】 前年度と比べて安全管理員の人数が増加している。引き続き、児童の安全確保のため、より一層の安全管理体制の強化を図る。		・放課後こども教室と児童クラブの校内交流型実施数22 ・活動の充実のためスタッフの要望に沿った研修を10回程度開催 ・情報誌「Tweet」の発行					
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		25,694	28,831	28,831	45,461	16,630	
	国・県支出金		8,185	9,167	9,167	14,767	5,600	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		9,888	10,482	10,482	1,160	-9,322	
	一般財源		7,621	9,182	9,182	29,534	20,352	
歳入合計		25,694	28,831	28,831	45,461	16,630		
課題	・児童クラブ及び地域や小学校と更なる連携が必要である。 ・コーディネーターやスタッフが不足している。				・継続運営、内容の充実に向け、スタッフ等への研修の充実や情報交換の場を設ける。 ・児童クラブや地域、小学校との横のつながりの強化に向け、引き続き支援を行っていく。			
	方向性							

教育委員会生涯学習課

放課後子ども教室事業費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった　ここで育ててよかった
	主要施策	放課後子ども教室事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	コーディネーター委嘱式、事務説明会、情報交換会		
	4月～	事業実施		
	5月～	スタッフ研修会実施		
	6月～	情報誌「Tweet」の発行		

本事業に関する主要データ					
令和7年度　こどものための学びあい支えあい講座一覧					
No.	講　座　名	開催回数	参加者数(人)	内　容	講　師
1	救命講習　5/7. 8.9.15.16	5	103	・応急手当の基礎知識や止血法について ・AEDを用いた心臓蘇生法等の救命処置について	松江市消防本部　松江北消防署 救命救急士
2	支援の必要なこどもの理解と接し方支援Ⅰ　6/5	1	42	支援の必要な子どもの基本的な対応について	発達・教育相談支援センター(エスコ) 教育指導講師
3	こどもたちと遊びを創る ～身近な物で工作遊び～　6/27	1	48	身近なものを使った工作遊びの体験	古志原子ども広場 コーディネーター　北原　剛夫　氏
4 ※	こどもの人権を考える ～「子どもの権利条約」と「いじめ防止対策推進法」～　7/16	1	33	・「子どもの権利条約」や「いじめ防止対策推進法」について ・昨今の学校や児童クラブ等でのいじめの状況について	人権施策推進課　教育指導講師 生徒指導推進室　教育指導講師
5	知って安心！食物アレルギー&応急手当 ～現状と対応のポイント～　9/26	1	58	・食物アレルギーの現状と対策、応急手当について ・エビペンの使用方法の確認・実技演習	松江市教育委員会　学校教育課 保健体育係長
6 ※	みんながつながり楽しむ ～すぐできるレクリエーション～　10/14	1	45	様々なレクリエーションの体験	島根県レクリエーション協会 出雲市立塩谷小学校講師　日野　好香　氏
7	安全管理研修 ～こども達の安心・安全な放課後のために～　11/18.20	2	100	・非常災害時の対応の仕方や防災について ・児童の帰宅時の安全確保や防犯対策について	松江南消防署 島根県松江警察署
8	支援の必要なこどもの理解と接し方Ⅱ　12/3	1	36	・支援の必要な子どもについてのグループ別対話・意見交換 ・支援が必要な子どもの具体的な対応の仕方について	発達・教育相談支援センター(エスコ) 教育指導講師
9 ※	みんなで伝える本の楽しさ ～心に響くストーリーテリング～　1/23	1	32	・ストーリーテリングの体験 ・「おはなし出前」や「語り手養成」について	松江市立中央図書館 司書、読書普及指導員
10	実践に学ぶ！ 「児童クラブ・こども教室の取組紹介」　2/20	1	(開催予定)	他のクラブや教室の取組紹介	各広場・児童クラブ 松江市教育委員会　生涯学習課
※　放課後等デイサービスのスタッフ参加（障がい者福祉課）					
放課後子ども教室実施状況					
年度	R3	R4	R5	R6	R7（見込）
登録児童	1,741人	1,522人	1,456人	1,422人	1,395人
安全管理者数	461人	451人	444人	435人	472人

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報償費	9,703		
需用費	10		
役務費	2,618		
委託料	33,113		
使用料及び賃借料	17		
事業費計		45,461	

令和8年度 総合計画実施計画

所属	事業名
こども子育て部こども家庭支援課	乳幼児健診問診票等デジタル化事業

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	乳幼児健診におけるデジタル化を進めることで利便性を高め、子育てしやすい環境を整備する。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		子育て支援策の満足割合（%）	61.95	63.7	80	80	80
	目標（何を達成するのか）	乳幼児健診受診者のWeb問診利用率（%）	0	0	70	80	85
	乳幼児集団健診へのシステム導入により、スマホでの日時変更の連絡や問診票（アンケート用紙を含む）の記入を可能にし、子育て世帯の利便性向上を図る。						

事業概要	(数値目標の目標年度) 子育て支援策の満足割合(こども1人以上、40代まで)、乳幼児健診受診者のWeb問診利用率:2029(R11)年度
	インターネット上でサイトにアクセス・ログインすることで、これまで手書きしていた乳幼児集団健診の問診票の回答や、健診日時の変更連絡をWebで行えるサービスを導入する。

事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
		・令和8年4月～7月：契約 ・令和8年8月～12月：問診票の検討、端末の準備 ・令和9年1月～3月：運用テスト、マニュアル作成、スタッフへの説明、市民への周知 ・令和9年3月：運用開始	Web問診の利用割合を確認する。
	達成度		

歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		0	0	0	14,981	14,981
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	7,490	7,490
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	7,491	7,491
歳入合計		0	0	0	14,981	14,981

課題	こどもの保護者から「問診票の記入に手間がかかる」、「健診の日程の変更を連絡する時間がない」、「閉庁日に対応してもらえない」などの声があり、乳幼児健診にかかる負担感が見受けられる。	方向性	年度内に運用開始できるよう、関係課やサービス事業者と綿密に連携しシステム導入を進める。
----	--	-----	--

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	乳幼児健診問診票等デジタル化事業

	時期	実施内容	時期	実施内容
R8スケジュール	R8.4月	契約		
	R8.7月	問診票の検討、端末の準備		
	R8.12月	運用テスト、マニュアルの作成、スタッフ説明、市民への周知		
	R9.3月	運用スタート		

本事業に関する主要データ

乳幼児集団健診へのシステム導入により、スマホでの日時変更の連絡や問診票（アンケート用紙含む）の記入を可能にし、子育て世帯の利便性向上を図る。

受診者の声

「問診票の記入に手間がかかる」
「平日の日中に健診の日程変更を電話連絡する時間がとれない」

デジタル化の効果

Webサイトから「いつでも」「どこでも」問診の回答や健診予定日の変更ができる
問診票の紛失リスクがない
指定した月齢になると健診受診のお知らせが届くため、**受診忘れのリスクが減る**
問診票（アンケート含む）等の内容がデータ化されるため、市の**データ入力業務を削減**できる

対象の乳幼児健診

4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診
※いずれも集団健診

システム利用の流れ

健診日時及びシステムのアカウントが記載された案内文を市から自宅にお届け

アカウント登録後、受診者のアドレスに届く「ID」でログイン

問診項目（アンケート）をスマホやPCで入力し、市に送信する。健診日時の変更を希望される場合は、システムのアカウントにログインし、空いている日程を指定し変更する。

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	97		
役務費	12,666		
使用料及び賃借料	2,218		
事業費計			14,981

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
こども子育て部保育所幼稚園課		乳児等通園支援事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらずない形での支援を強化する。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		実施施設数			5	6	8
	目標（何を達成するのか）	のべ利用者数			400	900	1,200
	就労要件等に関わらず、すべてのこどもが通園の機会を得られるようにする。						
事業概要		実施施設数:2029(R11)年度 ふだんは保育所等に在園しない乳児等を短時間受入れる制度。 児童福祉法に新たに「乳児等通園支援事業」が規定され、令和8年度から子ども・子育て支援法に基づく新たな給付として全自治体で実施することとされている。（通称「こども誰でも通園制度」。） 利用時間枠の設定、定期利用の導入が可能。 対象:生後6ヶ月～満3歳未満のこども(保育所等に在籍するこどもを除く) 利用時間:1人あたり月10時間まで 利用料:300円/時間(減免制度あり) 給付費:0歳児 1,700円/時間、1・2歳児 1,400円/時間					
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
		・新たに事業を開始する ・5施設で実施予定 ・子育て世帯への事業PRを図る ・実施施設の増加に向け保育所等事業者へ制度周知を図る		・引き続き事業を実施する ・実施状況の検証を行う			
	達成度						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		0	0	0	25,270	25,270	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	22,110	22,110	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	0	0	0	3,160	3,160	
歳入合計		0	0	0	25,270	25,270	
課題	・実施予定施設があるエリアに偏りがある ・一時預かり等、他事業との違いが分かりにくい		・実施を検討する事業者向けに制度説明会等を行う				
			方向性				

こども子育て部保育所幼稚園課

乳児等通園支援事業費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	ここに生まれてよかった ここで育ててよかった
	主要施策	乳児等通園支援事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	事業開始		
	通年	子育て世帯への事業PR		
	8月頃	実施施設への実施状況等聞き取り調査		
	9月頃	実施検討事業者向け説明会		

本事業に関する主要データ

小学校就学前の児童が利用できる施設等

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
就労要件あり	保育所・認定こども園等						
就労要件なし	こども誰でも通園制度 ・就労要件を問わない ・月一定時間までの利用可能枠 ・時間単位の柔軟な利用 ※0歳6か月から満3歳未満を想定						小学校
	その他の子育て支援事業(一時預かり事業等)						

R7.4.1 対象児童(未入所児童)数 (人、割合)

	児童数	入所者数	対象者数	入所率	未入所率
0歳6ヶ月～	658	293	365	0.45	0.55
1歳	1,260	1,038	222	0.82	0.18
2歳	1,361	1,196	165	0.88	0.12
計	3,279	2,527	752	0.77	0.23

* 入所者数には企業主導型保育施設含む・6ヶ月未満除く

R8節別予算額内訳(千円)

節名称	金額	節名称	金額
負担金補助及び交付金	25,270		
事業費計			25,270

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
教育委員会学校教育課		「夢☆未来」ふるさと・キャリア教育推進事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	ふるさとを愛し、主体的に自己の将来を考えるこどもの育成		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			職業人出前授業小5～中3の受講割合（％）	42.3	50.3	51	52	55
	目標（何を達成するのか）		将来の夢や目標を持つ小6の割合（％）	81.6	83.6	84	86	87
	・松江城などの地域資源を活用したふるさと松江に愛着と誇りを持つ教育を推進する。 ・こどもたちがふるさとに誇りと豊かさを感じ、主体的に社会人としての進路を選択する能力開発を推進する。		将来の夢や目標を持つ中3の割合（％）	64.1	65.5	68	70	72
事業概要	(数値目標の達成目標年度) 項目名 職業人出前授業(「まつえ『こども夢☆未来』塾」)小5～中3の受講割合:2029(R11)年度 項目名 将来の夢や目標を持つ小6、中3の割合:2029(R11)年度 ※R7年度より、本事業費に「キャリア・パスポート推進事業費」を統合することに伴い、目標項目を「地域や社会に関心のある小6、中3の割合」から「将来の夢や目標を持つ小6、中3の割合」に変更 ・「まつえ『こども夢☆未来』塾」(職業人出前授業)や中学生の社会体験(職場体験)学習の支援、キャリア・パスポートの活用等を通して、学校・家庭・地域が連携したキャリア教育の推進を図る。(「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのこと。) ・ふるさと教育の充実を図るため、国宝松江城を小・義務教育学校6年生の共通教材とした学習「松江城授業」を実施する。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・「まつえ『こども夢☆未来』塾」を35校(小20校、中15校)で実施 ・小6を対象とした「松江城授業」の実施。 児童向けハンドブックの配付 ・職場体験学習受入れ事業所の取りまとめと学校への情報提供 ・小1を対象に「キャリア・パスポート用ファイル」を配付 【評価】多くの児童生徒に松江の良さを感じ取らせることができた。		・「まつえ『こども夢☆未来』塾」の拡充・実施 ・小6を対象とした「松江城授業」の実施。 児童向けハンドブックの配付 ・職場体験学習受入れ事業所の取りまとめと学校への情報提供 ・小1を対象に「キャリア・パスポート用ファイル」を配付		・「まつえ『こども夢☆未来』塾」の拡充・実施 ・小6を対象とした「松江城授業」の実施。 児童向けハンドブックの配付 ・職場体験学習受入れ事業所の取りまとめと学校への情報提供 ・小1を対象に「キャリア・パスポート用ファイル」を配付			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8			
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較		
事業費		3,153	3,351	3,165	3,876	525		
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0		
	地方債	0	0	0	0	0		
	その他	3,153	1,700	0	1,938	238		
	一般財源	0	1,651	3,165	1,938	287		
歳入合計		3,153	3,351	3,165	3,876	525		
課題	・グローバル社会の中で自立した生活ができる人材を育成するためには、キャリア教育・ふるさと教育を推進し、社会人になるための基礎的な力を育てることが必要である。 ・引き続き、ふるさとにある「ひと・もの・こと」といった教育資源を活用した体験活動の充実を図っていくことが必要である。			・発達の段階に応じた系統的なキャリア教育・ふるさと教育を展開し、地域の教育力を生かした学校教育活動を引き続き推進する。 ・児童生徒だけでなく、保護者を含めたキャリア・パスポートの活用を進める。 ・「まつえ『こども夢☆未来』塾」において、多様な職種や価値に触れさせるために、時代や学校、こどものニーズに応じたプレゼンター(講師)を拡充していく。				
	方向性							

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	「夢☆未来」ふるさと・キャリア教育推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	6月～12月	「松江城授業」の実施		
	6月～2月	「まつえ『こども夢☆未来』塾」の実施		
	4月～3月	各校において「キャリア・パスポート」を活用		

本事業に関する主要データ

○まつえ「こども夢☆未来」塾

・H26年度より、小5～中3を対象に実施。

R4年度 33校（小20校・中13校）

R5年度 34校（小20校・中14校）

R6年度 31校（小16校・中15校）

R7年度 35校（小20校・中15校）

○松江城授業

・H28年度より、全市立小・義務教育学校6年生を対象に実施。

○職場体験学習

・主に中3（義務教育学校9年生）を対象に実施。

R4年度 11校において実施。新型コロナウイルス感染症の影響から6校が中止。
(内5校は事業所を呼び、就業についての講話を聞く。)

R5年度 17校において実施。中止校はなし。

R6年度 17校において実施。中止校はなし。

R7年度 17校において実施。中止校はなし。

児童生徒の「キャリア・パスポート」募集のイメージ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報償費	210		
需用費	614		
委託料	77		
使用料及び賃借料	2,975		
事業費計			3,876

令和8年度 総合計画実施計画

所属	事業名
教育委員会学校教育課	コミュニティ・スクール推進事業費

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	こどもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を推進する。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		地域や社会に関心のある小6の割合（％）	83.9	77.9	87	88	90
		地域や社会に関心のある中3の割合（％）	74.3	70.1	77	78	80
	目標（何を達成するのか）						
	市立小・中・義務教育学校において、学校運営協議会制度を導入する。						

事業概要	(数値目標の達成目標年度) 項目名 地域や社会に関心のある小6、中3の割合(%) : 2029(R11)年度 ※当該項目の実績は全国学力調査における類似の質問事項に対する結果を引用している。 ・各学校における学校運営の改善や児童生徒の健全育成を進めることができる「地域とともにある学校づくり」や学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす。 ・市立各小・中・義務教育学校・高校に学校運営及び学校運営への必要な支援に関して協議する機関として「学校運営協議会」を設置する。 ※コミュニティ・スクール…学校運営協議会を設置した学校のこと。同時に、学校運営協議会制度そのものも「コミュニティ・スクール」と呼ばれる。

事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
	・各校の学校運営協議会の充実や地域学校協働本部との連携を図るために、会長や校長を対象にした「コミュニティ・スクール連絡協議会」と「地域学校協働本部連絡会」を同時開催。 ・小・中・義務教育学校は地域学校協働本部と連携して実施	・各校の学校運営協議会の充実や地域学校協働本部との連携を図るため、会長や校長を対象にした「コミュニティ・スクール連絡協議会」と「地域学校協働本部連絡会」を同時開催。 ・小・中・義務教育学校は地域学校協働本部と連携して実施	・各校の学校運営協議会の充実や地域学校協働本部との連携を図るため、会長や校長を対象にした「コミュニティ・スクール連絡協議会」と「地域学校協働本部連絡会」を同時開催 ・小・中・義務教育学校は地域学校協働本部と連携して実施
	【評価】「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」の連携についての理解が図られた。		
	達成度		
	計画目標に向けて順調に推移		

歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		1,641	2,293	1,981	2,243	-50
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,641	2,293	1,981	2,243	-50
歳入合計		1,641	2,293	1,981	2,243	-50

課題	・学校運営協議会委員を対象に、制度に関する理解を更に図っていく必要がある。 ・この制度が有効に機能するために、地域学校協働本部との連携を強化していく必要がある。 ・校内や地域に対してコミュニティ・スクールに関する理解を更に深めていく必要がある。	方向性	・学校運営協議会会長や校長を対象とした連絡協議会を実施し、制度の効果的な運用に対する理解をさらに図っていく。 ・地域学校協働本部との連携を図るため、地域学校コーディネーターの学校運営協議会への参画を進める。 ・市内全校に設置したことにより、校内を含め地域に対してコミュニティ・スクールに関する理解を深めていく。 ・学校運営協議会で学校の課題について共有し、議論できるようにしていく。
----	--	-----	--

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	コミュニティ・スクール推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	学校運営協議会委員の任命	2月～3月	学校運営協議会の開催(各校)
	5月～6月	学校運営協議会の開催(各校)		
	6月	コミュニティ・スクール連絡協議会の開催		
	10月～11月	学校運営協議会の開催(各校)		

本事業に関する主要データ

【令和7年度】

- 学校運営協議会委員アンケート結果

学校経営に当事者意識をもって参加することができた	96.3%
学校運営協議会の役割や運営について、協議会で協議・確認されている	99.5%
学校運営協議会において、学校や地域、子どもたちが抱える課題が共有されている	98.4%
学校・家庭・地域全体で育てたいことも書について、学校運営協議会で協議・共有されている	98.4%
協議では、より良くしていくための前向きな意見や改善案の提案が出されている	98.0%
地域学校協働本部（コーディネーター、ボランティア等）と連携・協働した取り組みが進められている	92.9%
学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	89.4%

・「学校運営協議会研修会（コミュニティ・スクール連絡協議会）」「地域学校協働本部連絡協議会」合同開催

目 的： 学校運営協議会、学園教育推進会議と地域学校協働本部が連携した効果的な運営、運用について理解を深めるとともに、地域と学校のそれぞれの立場での役割を自覚し情報共有を図ることで、双方向の連携・協働を推進していくための機会とする。

内 容：

- (1) 事例紹介「古江小学校（南北白鳥学園）での取組について」
古江小学校 校長 青山 巧 氏
- (2) 講話「学校運営協議会と地域学校協働本部の連携について」
鳥取大学大学院教育学研究科 講師 大野 公寛 氏
- (3) グループ協議（情報交換）ーグループニングについては未定
テーマ「学校運営協議会と学園教育推進会議と地域学校協働本部の連携」について



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	2,016		
需用費	168		
役務費	59		
事業費計			2,243

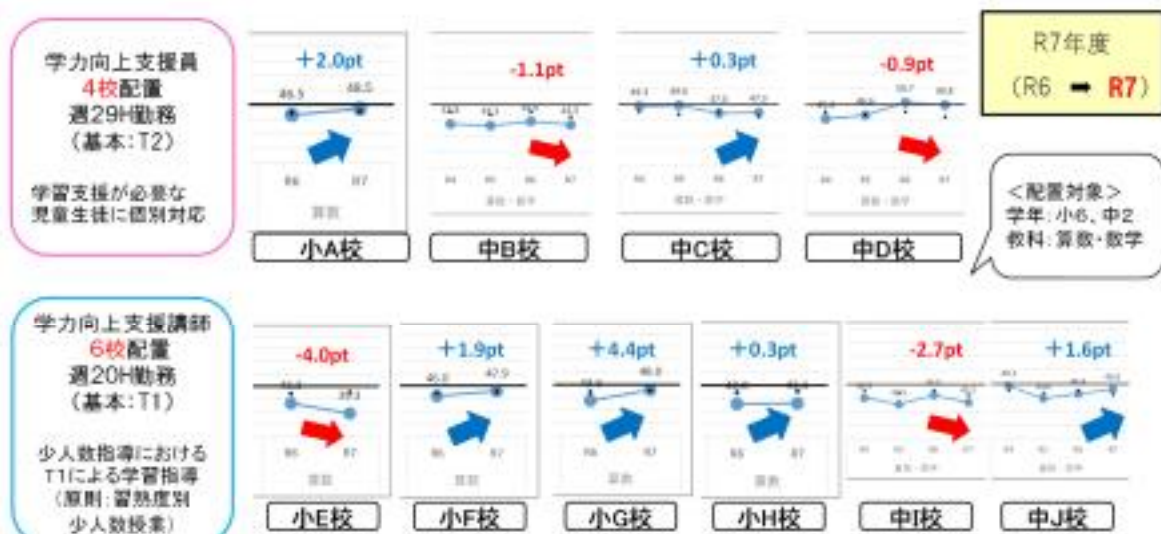
令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
教育委員会学校教育課		「夢☆未来」学力育成推進事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	ふるさと松江を愛し、確かな学力と豊かな人間性を持ち、力強く未来を切り拓く児童生徒を育成する。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			全国学調 全国値を上回る小学校割合（％）	30.3	48.5	60	65	75
	目標（何を達成するのか）		全国学調 全国値を上回る中学校割合（％）	37.5	43.8	70	73	80
	・学力向上対策を充実し、こどもたちの確かな学力の伸長を図る。 ・研修を充実し、教員の指導力・授業力の向上を図るとともに、こどもたちの学習意欲の向上を図る。							
事業概要	（数値目標の達成目標年度） 項目名 全国学力調査 全国値を上回る小中学校の割合（％）：2029（R11）年度 ・児童生徒の「確かな学力」を育成するために、次の人員を配置する。 〔学力向上支援員〕授業補助や補充学習サポートを行う。【配置校】4校程度 〔学力向上支援講師〕授業を主担当で実施することが可能。教育的効果の高い少人数授業の充実をめざす。【配置校】8校程度 ・各校の教育力や教員の授業力の向上のため、指導主事等の訪問の充実を図る。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	(1)学力向上支援員・支援講師の活用 ・支援員4人／支援講師 8人 (2)松江市学力調査の実施(小5～6:国語・算数／中1～2:国語・数学・英語) (3)たつじんテスト実施(小3) (4)指導主事による学校訪問指導の実施 (5)「算数・数学」テスト・プリントの配信 (全国学調過去問や市独自プリント・テスト等) ・指導講師3人配置 【評価】各校の取組(同一集団の経年比較)について市全体で共通理解を図り、成果を共有し、向上成果が得られた。		(1)学力向上支援員・支援講師の活用 ・支援員4人／支援講師 8人 (2)松江市学力調査の実施(小5～6:国語・算数／中1～2:国語・数学・英語) (3)たつじんテスト実施(小3) (4)指導主事による学校訪問指導の実施 (5)「算数・数学」テスト・プリントの配信 (全国学調過去問や市独自プリント・テスト等) ・指導講師3人配置		(1)学力向上支援員・支援講師の活用 ・支援員4人／支援講師 8人 (2)松江市学力調査の実施(小5～6:国語・算数／中1～2:国語・数学・英語) (3)たつじんテスト実施(小3) (4)指導主事による学校訪問指導の実施 (5)「算数・数学」テスト・プリントの配信 (全国学調過去問や市独自プリント・テスト等) ・指導講師3人配置			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		41,715	60,443	61,878	61,136	693	
	国・県支出金		0	23,212	0	23,212	0	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	10,000	0	0	
	一般財源		41,715	37,231	51,878	37,924	693	
歳入合計		41,715	60,443	61,878	61,136	693		
課題	・全国学調(小6国算／中3国数)の結果は±2ptの差で全国同等の結果だが、全教科で全国値を下回る結果であった。 ・家庭学習1時間以上の児童生徒の割合は小中共に5割程度で全国値を下回る状況が続いている。 ・学力調査の結果分析や授業改善に向けた取組についての各校における情報共有が十分にできていない。			方向性	・授業補助を行う学力向上支援員や少人数授業を主担当で受け持つ学力向上支援講師の効果的な活用方法について検証し、個別最適な学びの充実を図る。 ・市学調を活用し、個々の児童生徒の結果に基づいた復習に取り組み学力の定着を図る。 ・市学調による経年比較をもとに各校の取組の成果と課題を確認し、次年度に向けた検証改善サイクルを回す。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	「夢☆未来」学力育成推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	学力向上支援員・支援講師配置	12月	松江市学力調査
	5月	学力向上担当者会	1月	松江市学力調査結果分析
	6月	学力向上支援員・支援講師配置校訪問	3月	次年度の学力向上支援員・支援講師配置準備
	10月～11月	学力向上支援員・支援講師配置校訪問	4月～7月	たつじんテストの実施

本事業に関する主要データ



※TT:複数の教師が協力して行う授業形式

※T1:全体の授業を進める教師/T2:集団全体を見ながら支援が必要な児童生徒を中心に支援する教師

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	30,392		
職員手当等	11,781		
共済費	8,943		
旅費	550		
委託料	8,749		
使用料及び賃借料	36		
負担金補助及び交付金	685		
事業費計			61,136

令和8年度 総合計画実施計画

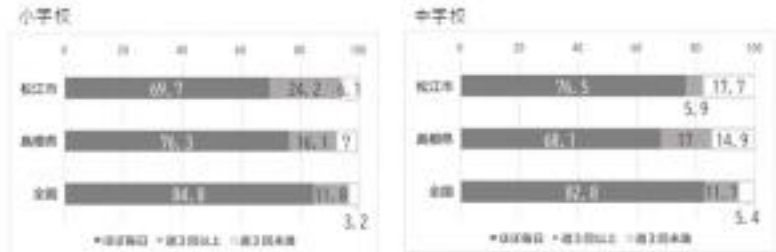
所属		事業名					
教育委員会学校教育課		ICT活用教育推進事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	情報化社会に対応できる能力育成を図るため、「松江市版GIGAスクール構想」に基づき、市立小・中・義務教育学校におけるICT活用の環境を整え、情報活用教育を推進していく。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		全国学調 全国値を上回る小学校割合（％）	30.3	48.5	60	65	75
	目標（何を達成するのか）	全国学調 全国値を上回る中学校割合（％）	37.5	43.8	70	70	80
	児童生徒に1人1台端末や市立小・中・義務教育学校の全クラスにICT教育機器を配備し、授業の質の向上や児童生徒の学力の育成を図る。						
（数値目標の達成目標年度） 項目名 全国学力調査 全国値を上回る小中学校の割合（％）：2029（R11）年度 H26年度から、各小・中・義務教育学校にICT教育機器（書画カメラ・プロジェクター・スクリーン等）の整備を行い、R2年度からは新学習指導要領に対応したICT教育機器整備を新ICT3点セット（電子黒板、1人1台端末、ネット環境）に切り替え、整備済みの旧3点セットは理科室以外の特別教室で活用する。また、児童生徒1人1台端末の環境を整備する。 R3年度末に松江市GIGAスクール構想を策定。R4年度にICT教育推進係を新設。R5年度にICT教育整備係を新設。 教育指導講師2人をICT活用教育専任（ICT支援員）で配置。 R7年度に松江市GIGAスクール構想を第2期へ更新。また、児童生徒用1人1台端末をクロームブックへ更新し、クラウドを活用したさらなるICT活用教育の推進を図る。							
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・継続:電子黒板、タブレットリース ・ICT研修会：49回、リーダー研修2回、ICT訪問DAY49校、Chromebook操作研修1回 ・児童生徒用1人1台端末の調達 ・著作物の授業利用手続き（授業目的公衆送信補償金） 【評価】児童生徒用1人1台端末を調達。段階的な運用開始と、活用研修を実施し、円滑な更新を行った。	・継続:電子黒板、児童生徒用1人1台端末リース ・ICT研修会の開催、授業支援の実施 ・ICT活用事例発表会の開催 ・著作物の授業利用手続き（授業目的公衆送信補償金）		・継続:電子黒板、児童生徒用1人1台端末リース ・ICT研修会の開催、授業支援の実施 ・ICT活用事例発表会の開催 ・著作物の授業利用手続き（授業目的公衆送信補償金）			
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		212,225	243,823	250,751	280,370	36,547	
財源内訳	国・県支出金	329	152,000	40,000	40,000	-112,000	
	地方債	0	0	48,300	154,300	154,300	
	その他	20,410	28,937	28,937	40,410	11,473	
	一般財源	191,486	62,886	133,514	45,660	-17,226	
歳入合計		212,225	243,823	250,751	280,370	36,547	
課題	・ICT機器を効果的に活用した、主体的な「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実践が十分ではない。 ・活用事例などの情報共有が不足しており、活用頻度が十分ではない。 ・活用ニーズに対応した、ソフトとハード両面での継続的な環境整備を進める必要がある。 ・最新の活用事例やICT機器情報を把握しながら将来的な展望や計画を策定していく必要がある。	方向性		・ICTを活用した様々な形態の授業を実践し、学習効果と学習への主体性を向上させる。また、機器活用の知識と技術、情報を正しく収集、評価、伝える能力を育成する。 ・教員へ、研修や情報提供、訪問支援を行い、日常的なICT活用を一層推進する。校務DXを進め業務負担を軽減し、本質的な教育活動を一層進める。 ・生成AIの活用検討。 ・機器やネットワークなどICTを十分に活用できる環境の継続的整備。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	ICT活用教育推進事業

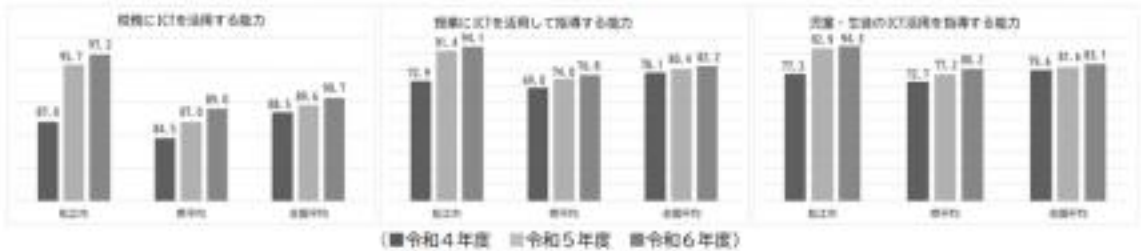
R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	電子黒板・児童生徒用1人1台端末リース料支払い		
	4月～3月	Googleworkspaceの活用		
	5月	授業目的公衆送信補償申請		
	5月～12月	ICT活用推進リーダー教員・全教員対象研修		

本事業に関する主要データ

■児童・生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたタブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか
(出典：令和7年度 全国学力・学習状況調査、回答：学校)



■教員のICT活用指導力の状況 ※複数回のアンケートで「できる」「ややできる」と回答した割合を下記の項目ごとに平均して算出した値
(出典：令和6年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査、回答：教員)



★主な地方債：デジタル活用推進事業

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	4,647	備品購入費	154,958
職員手当等	1,801	補償補填及び賠償金	2,171
共済費	1,182		
旅費	362		
需用費	16,972		
委託料	6,958		
使用料及び賃借料	91,319		
事業費計		280,370	

令和8年度 総合計画実施計画

所属	事業名
教育委員会学校教育課	メディア教育推進事業費

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標				
	児童生徒へのメディア教育の推進を図るとともに、基本的生活習慣の確立と正しい活用能力を育成するための各校における取組の啓発・支援を行う。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
		数値目標になじまない				
	目標（何を達成するのか）					
	メディアルールやメディア学習の実践を中心とした学校(学園)体制でのメディア教育の充実					

事業概要	電子メディア(スマホ、携帯、ゲーム、テレビなど)への長時間接触による健康や心身発達への悪影響、SNSの普及に伴うトラブルや事件の増加、乳幼児期からの電子メディア接触等の課題に対し、継続的なメディア教育は必須である。 電子メディアが生活に及ぼす影響や問題を踏まえ、児童生徒が自身の生活習慣や電子メディアとの望ましい付き合い方を考え、見直すことができるよう発達段階に応じた取組を行う。あわせて、メディアルールの実践をはじめとした、学校(児童生徒、教職員)、保護者、地域が連携した継続的な取組の推進と啓発を行う。 教育指導講師1人をメディア教育専任で配置し、指導の充実を図る。 ※旧事業名「メディア漬けから子どもを守る健全育成事業費」(～R5年度)
------	---

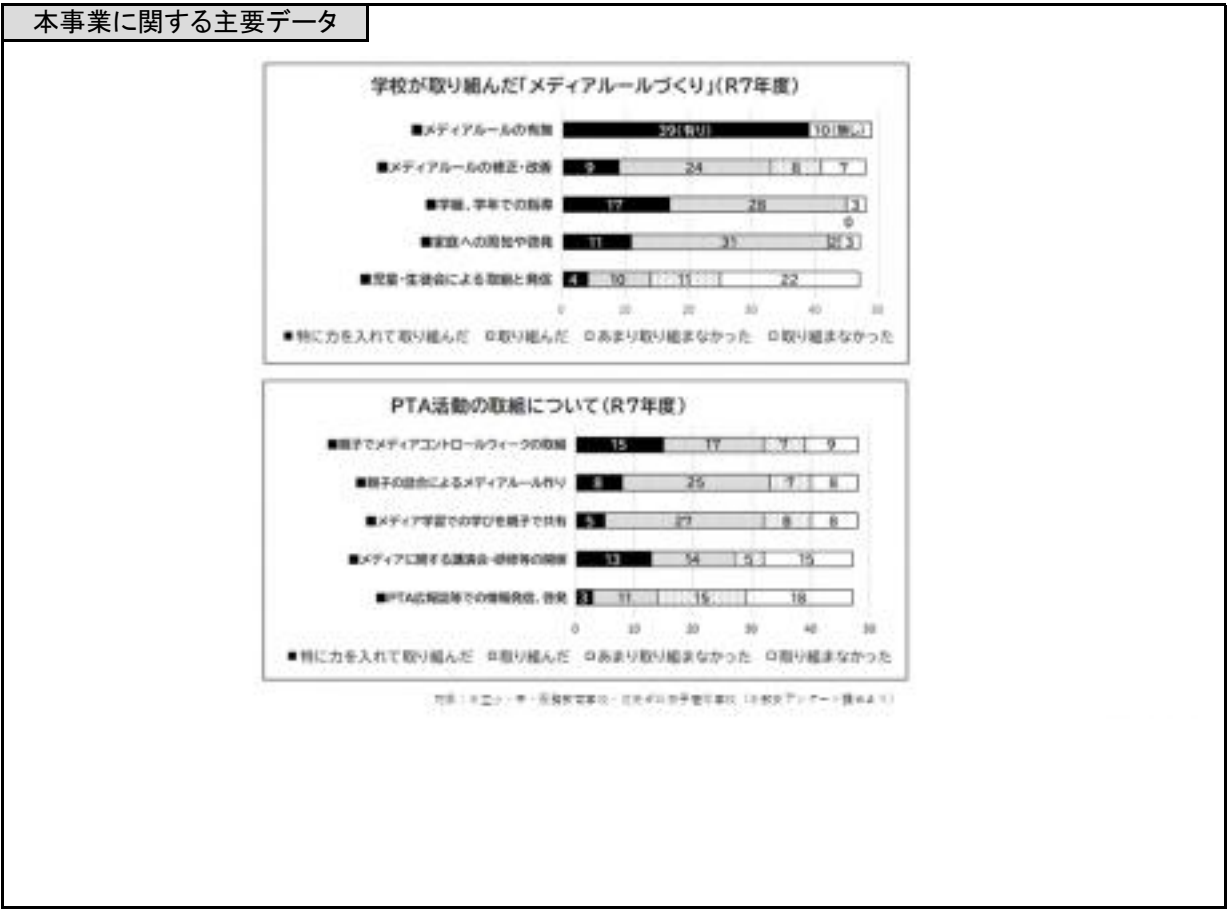
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
	・推進員派遣による授業支援(小学校): 179回 ・教材「GIGAワークブック」活用 ・メディア利用実態アンケート調査(6月) ・教職員、保護者対象の研修会及び講演会(6月20日・21日) ・松江市「こどもとメディア」に関する協議会(9月3日・2月18日) ・スマホサミットの実施(第三中、湖東中、美保関中) 【評価】各校の実情に合わせたメディア教育に加え、既存事業の拡充を目的とし、実験的運用も実施した。	・継続したメディアルール・メディア教育の取組と実態把握 ・メディア学習推進員派遣による授業支援(小学校) ・情報モラル授業の実施(中学校) ・「GIGAワークブック」を活用したメディア授業の展開 ・教職員メディア研修、保護者対象の研修会及び講演会 ・松江市「こどもとメディア」に関する協議会及び事務局会の開催(2回) ・市報による啓発(2月号) ・スマホサミットの実施	・継続したメディアルール・メディア教育の取組と実態把握 ・メディア学習推進員派遣による授業支援(小学校) ・情報モラル授業の実施(中学校) ・「GIGAワークブック」を活用したメディア授業の展開 ・教職員メディア研修、保護者対象の研修会及び講演会 ・松江市「こどもとメディア」に関する協議会及び事務局会の開催(2回) ・市報による啓発(2月号) ・スマホサミットの実施
	達成度		
	計画目標に向けて順調に推移		

歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		3,764	4,252	4,252	4,456	204
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	3,764	4,252	4,252	4,456	204
歳入合計		3,764	4,252	4,252	4,456	204

課題	・メディアへの長時間接触による健康や心身発達への悪影響、依存傾向、SNSを要因とするトラブル等、課題が多様化複雑化している。 ・児童生徒用1人1台端末の活用推進とともにリテラシー教育を行う必要がある。 ・電子メディアに関する様々な課題が低年齢化している。 ・メディアに対する保護者の意識に大きな差がある。 ・生成AIの活用が進み、正しく扱う能力が必要となっている。	方向性	・「GIGAワークブック」の活用推進。 ・こどもが主体的にSNS等の正しい使い方を考える取組の実施。 ・担任と共に授業を行う「メディア学習推進員」を派遣。 ・「こどもとメディア」に関する協議会を開催し各団体の連携した取組を推進。 ・PTAと連携し、教職員研修会や保護者向け講演会を実施。 ・各校PTAによるメディアに関する活動の推進。 ・生成AIの正しい活用を学ぶ取組の推進。
----	--	-----	--

松江市総合計画	基本目標	ひとつづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	メディア教育推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	GIGAワークブック活用支援	9月	第1回松江市「こどもとメディア」に関する協議会
	6月～10月	情報モラル授業実施	1月	スマホサミット開催
	6月～2月	メディア学習推進員派遣	2月	第2回松江市「こどもとメディア」に関する協議会
	6月末	メディア研修会(教員向け、保護者向け)	2月	市報松江に啓発記事掲載



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	2,324		
職員手当等	901		
共済費	565		
報償費	589		
旅費	61		
需用費	10		
役務費	6		
事業費計			4,456

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会学校教育課		学校ネットワーク運用事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	学校専用のネットワークの適切な運用により、情報の共有やICTの利活用を安全かつ安定的に行える環境を整える。また、校務支援システムの利用により学校運営の効率化を図る。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		情報漏洩発生件数（件）	0	1	0	0	0
	目標（何を達成するのか）	重大ウイルス感染件数（件）	0	0	0	0	0
	セキュリティの維持向上 学校ネットワークの安定した運用 ICTを活用した校務の効率化 管理運用の効率化						
事業概要	（数値目標の達成目標年度） 項目名 情報漏洩発生件数（件）：2026（R8）年度、項目名 重大ウイルス感染件数（件）：2026（R8）年度 ICTを活用した校務・学習のためには安全で強固なセキュリティに守られたネットワーク環境が必要なことから、教育委員会と各学校間を結ぶ学校ネットワークを構築し運用を行っている。情報共有を安全かつ円滑に行うためのネットワークの維持と接続環境の改善を目指して適切な運用管理を行う。また、ICTを活用した校務の効率化を目的に整備した教職員用校務パソコン（2in1パソコン）や校務支援システムの円滑な運用管理を行う。						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画				
	・学校ネットワークの円滑な運用管理 ・教職員用校務パソコンの円滑な運用管理 ・校務支援システムの円滑な運用管理 ・ネットワーク機器（認証サーバ、DHCPサーバ等）の機器更新の実施 ・ネットワークアクセスメントの実施 ・新庁舎移転に伴うネットワーク機器の移設対応の実施 【評価】 ネットワーク機器更新、ネットワークアクセスメント、新庁舎移転に伴う移設対応等	・学校ネットワークの円滑な運用管理 ・教職員用校務パソコンの円滑な運用管理 ・校務支援システムの円滑な運用管理 ・ネットワーク環境の改善（Wi-Fiアクセスポイント増設等）の実施 ・ネットワーク機器（UTM）の更新の実施	・学校ネットワークの円滑な運用管理。 ・教職員用校務パソコンの円滑な運用管理。 ・校務支援システムの円滑な運用管理。				
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		224,867	233,983	233,983	253,881	19,898	
財源内訳	国・県支出金	3,872	916	916	4,397	3,481	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	220,995	233,067	233,067	249,484	16,417	
歳入合計		224,867	233,983	233,983	253,881	19,898	
課題	・インターネット上の脅威は常に変化していくことから、それらに対応していくため最新のセキュリティ対策を施していく必要がある。 ・1人1台端末の整備に伴い、多端末からのアクセスが快適にできるネットワーク環境を検討・整備していく必要がある。 ・ネットワーク環境の整備に合わせICTを活用した業務の効率化を検討していく必要がある。			・強固なセキュリティと快適な接続環境の両立とコスト面を勘案した最適な設計と運用体制を検討する。 ・上記に併せて、GIGAスクール構想で導入したICT機器が快適かつ活発に利用できるようWi-Fiアクセスポイントを増設するなどネットワーク環境の改善を行っていく。 ・教職員の業務負担軽減、教育の高度化に資するICT導入・活用を進める。			
				方向性			

松江市総合計画	基本目標	ひとつづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	学校ネットワーク推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	学校ネットワーク、校務支援システム運用管理		
	4月	教員PC・システム人事異動対応		
	7月～	ネットワーク機器(Wi-Fiアクセスポイント・UTM)の調達及び設置		
	9月	ネットワーク機器(UTM)切替		

本事業に関する主要データ

■学校ネットワークについて

拠点数:52箇所(教育委員会、各学校、データセンター等の各拠点間をネットワークで結んで運用)

利用目的:校務及び学習における情報共有とICTの利活用

【教職員用校務パソコン】



【ネットワークとICTを活用した学習の様子】



【直近のネットワーク重大事象発生状況】

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
情報漏洩発生件数	0件	0件	0件
重大ウイルス感染件数	0件	0件	0件

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
旅費	304		
役務費	15,199		
委託料	27,715		
使用料及び賃借料	203,602		
備品購入費	7,061		
事業費計			253,881

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
教育委員会学校教育課		外国語教育推進事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	学習指導要領実施における外国語教育の拡充及び重点化により、今後さらに外国語教育を推進する。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			全国学調 全国値を上回る中学校割合（％）	37.5	43.8	70	73	80
	目標（何を達成するのか）		市学調 前年偏差を上回る中学校割合（％）		6.3	73		80
	・市立小・中・義務教育学校における外国語教育を推進し、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力や外国語の学習への意欲を高める。 ・外国語教育における小中学校の連携を円滑にすすめる。							
事業概要	(数値目標の達成目標年度) 項目名 全国学力調査 全国値を上回る中学校割合（％）：2029（R11）年度 ・英語の専門性を有する専任スタッフを配置し、教員の指導力向上と児童生徒の英語力向上を図るために、次の取組みを行う。（外国語教育に関する指導・助言、外国語教育指導協力員や外国語指導助手（ALT）の派遣調整、イングリッシュキャンプ（児童とALTによる英語を通じた交流会）・松江市長杯小中学生イングリッシュコンテストの実施、教材・ICT機器・ALT等の活用状況調査）							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・専任スタッフ 1人配置 ・松江市長杯小中学生イングリッシュコンテスト実施 ・教材の有効活用 ・イングリッシュキャンプ実施 【評価】イングリッシュコンテストを実施したことにより、参加児童生徒の92.3%が「もっと英語を勉強したい」と回答するなど、英語に関する興味関心を高めることができた。		・専任スタッフ 1人配置 ・松江市長杯小中学生イングリッシュコンテスト実施 ・教材の有効活用 ・イングリッシュキャンプ実施		・専任スタッフ 1人配置 ・松江市長杯小中学生イングリッシュコンテスト実施 ・教材の有効活用 ・イングリッシュキャンプ実施			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		3,398	3,718	3,921	3,919	201	
	国・県支出金		0	0	0	0	0	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		3,398	3,718	3,921	3,919	201	
歳入合計		3,398	3,718	3,921	3,919	201		
課題	・各校における外国語・外国語活動や英語科への取組や整備に差がある。 ・外国語教育指導協力員やALTをさらに有効に活用するための研修及び配置の工夫等が必要である。 ・学習指導要領についての相互理解や指導において小中学校の連携が十分とは言えない。				方向性	・学習指導要領における外国語教育について、市立小・中・義務教育学校の教員へ研修や授業改善のための指導を行う。 ・ICT機器や教材を効果的に活用するための研究を推進し、継続的な授業改善につなげる。 ・外国語教育指導協力員やALTがより効果的に活用されるよう、人材確保や配置の工夫、研修に努める。		

松江市総合計画	基本目標	ひとつづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	外国語教育推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	専任スタッフ配置		
	5月～	学校訪問指導		
	7月	イングリッシュキャンプ		
	11月	イングリッシュコンテスト		

本事業に関する主要データ

1. イングリッシュキャンプ・松江市イングリッシュコンテスト参加状況

	イングリッシュキャンプ	松江市イングリッシュコンテスト
R5	65名	11組22名
R6	61名	21組33名
R7	73名	17組24名

2. 外国語教育に係る学校訪問回数(令和7年度実績) 19回

内訳: 小学校10、中学校6、フォローアップ研修1、その他2(市教研授業研修会、MEXCBT研修会)

3. 外国語教育に係る研修(令和7年度実績)

研修名(開催時期または回数)	主な対象(参加人数)	主な研修内容
中学校外国語教育研修(7月)	中学校教員(27名)	音読・暗唱を取り入れた英語授業デザイン
小学校外国語専科加配教員研修(3回)	該当教員(8名)	タブレットを活用した授業アイデア

R8節別予算額内訳(千円)

節名称	金額	節名称	金額
報酬	2,256		
職員手当等	875		
共済費	547		
報償費	20		
旅費	20		
需用費	191		
役務費	10		
事業費計			3,919

令和8年度 総合計画実施計画

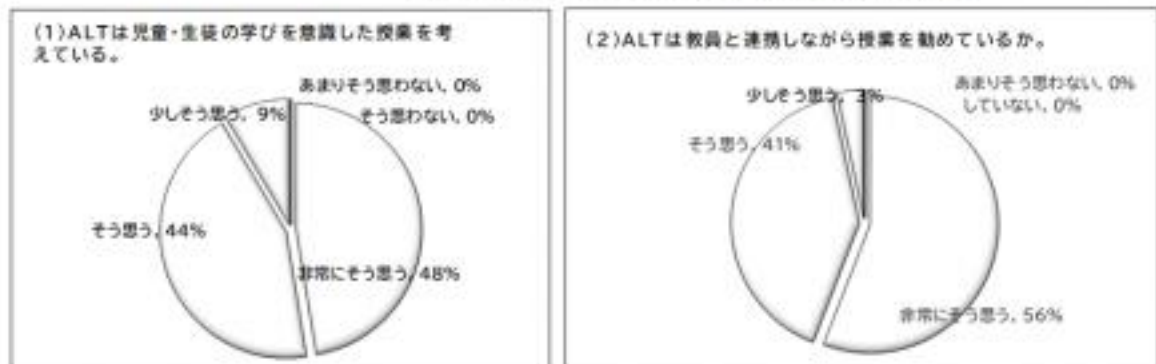
所属		事業名					
教育委員会学校教育課		外国語指導助手(ALT)配置事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	市立小・中・義務教育学校及び皆美が丘女子高等学校での外国語教育の充実を図るため、英語を母語とする外国人を外国語指導助手(ALT)として配置する。	項目(成果指標)	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		全国学調 全国値を上回る中学校割合(%)	37.5	43.8	70	73	80
	目標（何を達成するのか）	市学調 前年偏差を上回る中学校割合(%)		6.3	73		80
	国際文化観光都市松江を担う国際感覚を身に付けた人づくりをめざし、ネイティブスピーカーの生きた英語や文化に触れる機会を増やすことによって、児童生徒の興味・関心や英語でのコミュニケーション能力を高める。						
事業概要	(数値目標の達成目標年度) 項目名 全国学力調査 全国値を上回る中学校割合(%) : 2029(R11)年度 ・外国語教育を充実させ、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力を伸ばすことを目的に、16人の外国語指導助手(ALT)を市立小・中・義務教育学校及び皆美が丘女子高に配置する。(学級数に応じた日数、原則学園毎に同ALTを配置) ・児童生徒の英語や外国への興味・関心を高め、国際文化観光都市松江を担う国際感覚を身に付けた人づくりを行う。						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・外国語指導助手配置 16人 ・ALTの有効活用に向けた学校訪問及び研修等による指導の実施 ・令和8年度～10年度の契約に向けたプロポーザルの実施 【評価】イングリッシュキャンプで、ALTによるワークショップ形式の活動を行ったことで、事後アンケートにおいて「以前より英語に興味をもてるようになった」児童が85%であるなど、児童の興味関心を高めることができた。	・外国語指導助手配置 16人 ・ALTの有効活用に向けた学校訪問及び研修等による指導の実施		・外国語指導助手配置 16人 ・ALTの有効活用に向けた学校訪問及び研修等による指導の実施			
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		73,709	73,709	73,709	75,399	1,690	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	60,000	0	0	0	0	
	一般財源	13,709	73,709	73,709	75,399	1,690	
歳入合計		73,709	73,709	73,709	75,399	1,690	
課題	・現在松江市ではALTを学園(中学校区)ごとに配置している。外国語教育における小中学校の円滑な接続が行われるよう一層の工夫や研修が必要である。			・学習指導要領における「外部人材の活用」の在り方について、学校訪問や研修会の際に指導助言を行う。 ・派遣契約におけるALT活用について、学校訪問等の機会に周知・指導を行う。			
				方向性			

松江市総合計画	基本目標	ひとつづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	外国語指導助手(ALT)配置事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	ALT配置		
	5月～	ALT研修(年間3回)・・・契約事務所による		
	12月	学校による評価		
	2月	次年度計画作成		

本事業に関する主要データ

「令和7年度松江市外国語指導助手(ALT)の配置に係る調査」(R8.2月実施)
※各学校(小・中・義務教育学校・皆美が丘女子高校)より回答



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	75,399		
事業費計			75,399

令和8年度 総合計画実施計画

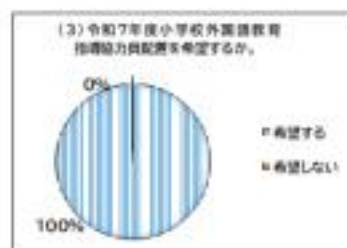
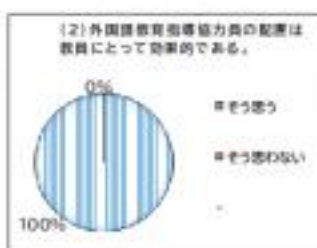
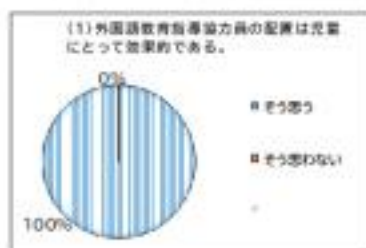
所属		事業名					
教育委員会学校教育課		小学校外国語教育指導協力員派遣事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	市立小・義務教育学校(前期課程)での外国語・外国語活動の授業及び国際理解教育の充実を図るため、英語の指導力を有する外国語教育指導協力員を配置する。	項目(成果指標)	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		授業や指導がより充実する肯定的回答(%)	88	91	100	100	100
	目標（何を達成するのか）	※小学校外国語教育指導協力員配置調査					
	国際文化観光都市松江を担う国際感覚を身に付けた人づくりをめざし、英語によるコミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を身に付けたことを育てる。						
事業概要		(数値目標の達成目標年度) 項目名 授業や指導がより充実する肯定的回答(%) : 2029(R11)年度 ・学習指導要領における小学校3・4年生の「外国語活動」及び5・6年生の教科「外国語」の必修化を受け、本事業の充実を図る。 ・小学生が英語に慣れ親しみながら意欲的に学べるよう、英語の専門性と多様な知識や経験を持つ外国語教育指導協力員が、担当教員と協力して授業でのモデルを示したり、言語活動や授業準備等を行ったりする。 ・専科加配のあった学校を除く市立小・義務教育学校(前期課程)に、外国語教育指導協力員を配置することを原則とする。					
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・外国語教育指導協力員配置 9人(小学校23校、義務教育学校2校) ・派遣回数 960回 【評価】協力員派遣により、令和7年度松江市小学校外国語教育指導協力員配置に係る調査において学校から「児童の外国語(英語)への関心・意欲が高まる」(75%)、「授業や指導がより充実する」(91.7%)との回答を得るなどの成果が見られた。	・外国語教育指導協力員配置 8人(小学校22校、義務教育学校2校) ・派遣回数 960回		・外国語教育指導協力員配置 9人(小学校22校、義務教育学校2校) ・派遣回数 960回			
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		5,606	5,684	5,684	5,684	0	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	5,606	5,684	5,684	5,684	0	
	歳入合計	5,606	5,684	5,684	5,684	0	
課題	・各校での需要や要望が高まっているが十分な配置ができていない。 ・外国語教育を推進するためには、外国語教育指導協力員の派遣回数を増やしていくとともに、より有効な活用についての検討や研修等を進める必要がある。			・小学校外国語教育が中学校での教育に繋がるよう、外国語教育指導協力員のより良い活用について検討する。 ・十分な指導力を有する外国語教育指導協力員の確保と派遣回数の増加に向けた体制を整備する。			
	方向性						

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	小学校外国語教育指導協力員派遣事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	外国語教育指導協力員配置		
	1月	学校による評価		
	2月	次年度配置計画		

本事業に関する主要データ

「令和7年度松江市小学校外国語教育指導協力員配置に係る調査」(R8.2月実施) ※外国語教育指導協力員配置校回答



[(1) 児童にとって] 特にどのような点で効果的か。(複数回答可)

1. 児童に標準的な英語を聞かせることができる。 95 %
2. 学習活動や教材等が工夫されている。 59 %
3. 異文化理解・国際交流 50 %
4. その他 (・繰り返し指導による基本の定着、小中の橋渡し)

[(2) 教員にとって] 特にどのような点で効果的か。(複数回答可)

1. 授業や指導がより充実する。 91 %
2. 教員の準備等の負担が軽減される。 54 %
3. 指導方法が参考になる。 64 %
4. その他 (・タブレット活用法の普及、ALTとの連携など)

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報償費	5,684		
事業費計			5,684

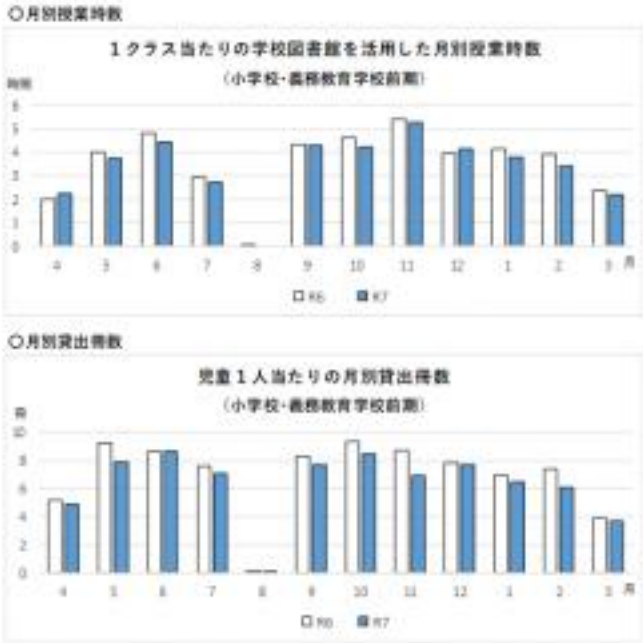
令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会学校教育課		学校図書館司書配置事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	・図書の貸出や返却業務、図書館環境整備により、読書活動や学習活動の活性化を図る。 ・児童の読書や学習に関する図書の選定等の相談や指導を行うことにより、読書活動の意欲向上と充実を図る。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		全国学調 全国値を上回る小学校割合（％）	30.3	48.5	60	65	75
	目標（何を達成するのか）	市学調 前年偏差を上回る小学校割合（％）		51.5	73		80
	児童の読書意欲を高めるとともに授業での学習資料の提供や探究的な学習の補助をするなど、教職員と共に学校図書館活用教育の充実を図る。						
事業概要	（数値目標の達成目標年度） 項目名 全国学力調査 全国値を上回る小学校割合（％）：2029（R11）年度 市立小学校（義務教育学校前期課程を含む）専任司書を配置し、司書教諭ならびに教職員と連携をとりながら、こどもたちの読書活動や学習等への支援を行い、情報リテラシーの習得をめざす。						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・市立全小学校31校と義務教育学校2校（八束学園、玉湯学園前期課程）へ33人配置（週27時間18人、週23時間15人） 【評価】各種研修会を通じて市としての取組の方向性等を積極的に周知したことにより、学校司書による授業への資料提供や児童への読書啓発が活発になり、学校図書館活用教育の推進に一定の成果が見られた。	・市立全小学校31校と義務教育学校2校（八束学園、玉湯学園前期課程）へ33人配置（週27時間18人、週23時間15人）		・市立全小学校31校と義務教育学校2校（八束学園、玉湯学園前期課程）へ33人配置（週27時間18人、週23時間15人）			
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位：千円)	R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費	80,411	89,278	94,650	95,335	6,057	
	国・県支出金	20,346	22,963	22,963	23,371	408	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	60,065	66,315	71,687	71,964	5,649	
	歳入合計	80,411	89,278	94,650	95,335	6,057	
課題	・学校図書館を活用した授業の実施時数は前年度並みであるが、児童一人あたりの貸出冊数が減少傾向にある。 ・情報リテラシーの習得をめざし、学校司書と教職員が協働し、様々な教科での実践に取り組む必要がある。 ・児童の読書意欲を高めるために、年間貸出冊数を増加させるための工夫が必要である。		方向性	・学校司書全校配置を継続して校内体制の充実を図り、司書教諭や授業担当教員との連携を強化し、学校図書館を活用した授業時数を増やす。 ・学校司書・司書教諭の資質・能力の向上を図るための研修を充実させる。 ・児童一人あたりの年間貸出冊数を伸ばし、本や資料との出会いの機会を増やすことで、読書活動を活性化させる。			

松江市総合計画	基本目標	ひとつづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	学校図書館司書配置事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	全小学校・義務教育学校へ学校司書配置		
	4月～12月	学校司書対象研修会実施		
	2月～3月	次年度の学校司書配置準備		

本事業に関する主要データ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	56,798		
職員手当等	22,003		
共済費	14,300		
旅費	2,234		
事業費計			95,335

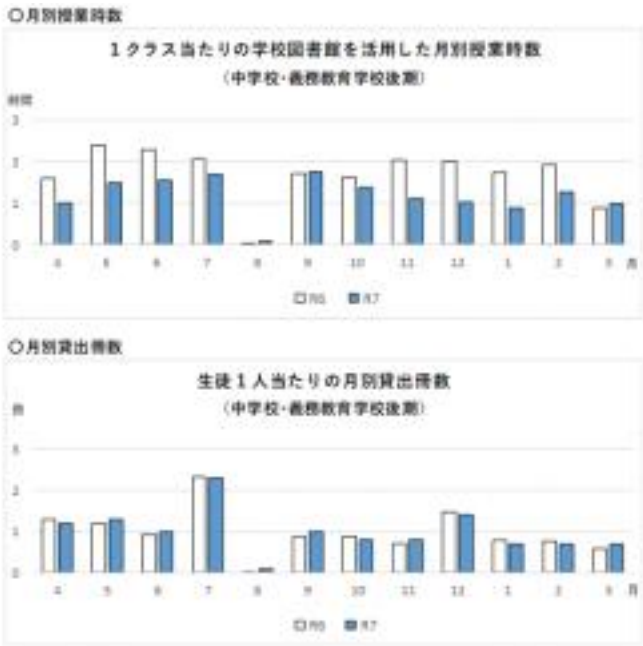
令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会学校教育課		学校図書館司書配置事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	・図書の貸出や返却、図書館環境整備により、読書活動の活性化を図る。 ・生徒や教員へ資料選定等の相談、効果的な資料の提供等、学習活動をサポートすることにより、生徒の学習内容の理解と意欲向上を図る。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		全国学調 全国値を上回る中学校割合（％）	37.5	43.8	70	73	80
	目標（何を達成するのか）	市学調 前年偏差を上回る中学校割合（％）		6.3	73		80
	生徒の読書意欲を高めるとともに、生徒や教職員から授業で使う学習資料の相談や提供、探究的な学習の補助をするなど、教職員と共に学校図書館活用教育の充実を図る。						
事業概要		（数値目標の達成目標年度） 項目名 全国学力調査 全国値を上回る中学校割合（％）：2029（R11）年度 市立中学校（義務教育学校後期課程を含む）に専任司書を配置し、司書教諭ならびに教職員との連携をとりながら、こどもたちの読書活動や学習等への支援を行い、情報リテラシーの向上をめざす。					
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	市立全中学校、義務教育学校玉湯学園後期課程15校へ15人配置（週27時間勤務7人、週23時間勤務8人） 【評価】各種研修会を通じて市としての取組の方向性等を積極的に周知したことにより、学校司書による授業への資料提供や生徒への読書啓発が活発になり、学校図書館活用教育の推進に一定の成果が見られた。	市立全中学校、義務教育学校玉湯学園後期課程15校へ15人配置（週27時間勤務7人、週23時間勤務8人）		市立全中学校、義務教育学校玉湯学園後期課程15校へ15人配置（週27時間勤務7人、週23時間勤務8人）			
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		37,731	40,863	41,820	42,124	1,261	
財源内訳	国・県支出金	9,248	10,511	10,511	10,697	186	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	28,483	30,352	31,309	31,427	1,075	
歳入合計		37,731	40,863	41,820	42,124	1,261	
課題	・生徒一人あたりの貸出冊数は前年度並みであるが、学校図書館を活用した授業の実施時数が減少傾向にある。 ・情報リテラシーの向上のため、学校司書と教職員が協働して学校図書館を活用した月別授業時数の増加を目指す必要がある。 ・小学校に比べて年間貸出冊数が少ない中学校では、その冊数の増加を図る工夫が必要である。			・学校司書全校配置を継続して校内体制の充実を図り、司書教諭や授業担当教員との連携を強化し、学校図書館を活用した授業時数を増やす。 ・学校司書・司書教諭の資質・能力の向上を図るための研修を充実させる。 ・生徒一人あたりの年間貸出冊数を伸ばし、本や資料との出会いの機会を増やすことで、読書活動を活性化させる。			
	方向性						

松江市総合計画	基本目標	ひとつづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	学校図書館司書配置事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	全中学校・義務教育学校へ学校司書配置		
	4月～12月	学校司書対象研修会実施		
	2月～3月	次年度の学校司書配置準備		

本事業に関する主要データ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	25,184		
職員手当等	9,756		
共済費	6,321		
旅費	863		
事業費計			42,124

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会発達・教育相談支援センター		特別支援学級介助員配置事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	特別支援学級に在籍する児童生徒に対する安全確保や介助を行い、学校生活への適応や学習活動の充実を図る。特にインクルーシブ教育システムの構築に向け、特別支援学級児童生徒の交流及び共同学習の充実を図る。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		進路選択に対する生徒の満足割合（％）	88.4	87.9	90	90	90
	目標（何を達成するのか）	交流学习計画授業時数の割合（％）	38.3	36.2	43	43	47
	①特別支援学級に在籍する児童生徒の安全確保と必要な介助・支援を行う。 ②5人以上在籍する特別支援学級に配置する。 ③障がいの程度が重度な児童生徒の地域の学校への就学ニーズに応じる。	就学支援に対する保護者の納得度割合（％）	76.3	74.4	90	90	92
事業概要 （数値目標の達成目標年度） 項目名 中学校3年生特別支援学級に在籍生徒の進路選択に対する満足割合【対象生徒へのアンケート】：2029（R11）年度 項目名 年間授業時数のうち特別支援学級と通常の学級の児童生徒の交流学习計画授業時数の割合【各年5月1日時点】：2029（R11）年度 項目名 就学支援の納得度の割合【発達・教育相談支援センターが就学支援に関わった保護者へのアンケート】：2029（R11）年度 ・特別支援学級に在籍する児童生徒の安全確保や必要な介助、交流及び共同学習の充実のため「特別支援学級介助員」を配置する。 ・配置にあたっては、各学級に在籍する児童生徒の人数や実態を踏まえた上で、人的支援の必要性を精査して行う。 ・事業開始：平成7年度							
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画				
	・小学校 15校18人、中学校 6校10人 計28人配置 ・週19時間以内の勤務 ・報酬@1,425円／時間 ・校外教育活動旅費：年間4,000円 ・研修：年3回 ・説明会：オンデマンドで全配置校参加 【評価】説明会を年度当初、管理職とともに視聴することで、介助員の校内での位置づけや職務を校内で共通理解することができた。年3回の研修を通して、児童生徒の学習活動の充実を図ることができた。	・小中学校（義務教育学校含む） 計28人配置 ・週19時間以内の勤務 ・報酬@1,425円／時間 ・校外教育活動旅費：年間4,000円 ・研修：年3回 ・説明会：オンデマンドで全配置校参加で実施	・特別支援学級に在籍する児童生徒数の増加と教育的ニーズの多様化が進んでおり、配置の必要性の高い学級が増えているため、配置を拡充し基礎的環境整備を整える。 ・週19時間以内の勤務 ・研修：年3回				
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		35,958	41,127	42,031	43,446	2,319	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	35,958	41,127	42,031	43,446	2,319	
歳入合計		35,958	41,127	42,031	43,446	2,319	
課題	・特別支援学級に在籍児童生徒数の増加と障がいの多様化が進んでおり、担任1人での対応が難しい学級が増加している。 ・障がいの程度が重度であっても、地域の学校で育てたい保護者が増えていること、通常の学級での交流及び共同学習を必要とする児童生徒が増えていること等から、特別支援学級介助員の配置のニーズが高まってきている。 ・通常の学級での介助が必要な児童が増えている。			・一人一人の教育的ニーズに応じた指導や介助のために、特別支援学級介助員の配置基準の見直しを行い、基礎的環境を整える。 ・管理職、通常の学級担任、特別支援学級担任、特別支援教育コーディネーター等との連携を図り、学校全体で特別支援学級児童生徒の教育を推進する。			
				方向性			

教育委員会発達・教育相談支援センター 特別支援学級介助員配置事業費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	特別支援学級介助員配置事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	任用、説明会	3月	次年度配置校決定
	6、9、12月	研修、配置校訪問		
	7、12、3月	配置校から「支援状況報告書」提出		
	8月～	次年度に向け配置の在り方等の検討		

本事業に関する主要データ

特別支援学級設置数の推移（小・中学校合計）									
令和8年5月1日現在 単位：学級									
学級種別	年度	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8
学級種別	知的障がい	47	49	47	49	50	51	54	48
	肢体不自由	10	11	13	13	13	10	9	11
	病 弱	8	10	11	8	7	15	16	19
	弱 視	5	6	4	4	4	4	3	3
	難 聴	8	9	8	5	4	4	4	5
	自閉症・情緒障がい	58	60	62	67	73	74	76	77
	合 計	136	145	145	146	151	158	162	163

特別支援学級在籍児童生徒数の推移（小・中学校合計）									
令和8年5月1日現在 単位：人									
学級種別	年度	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8
学級種別	知的障がい	150	170	174	177	185	187	196	180
	肢体不自由	11	12	15	14	15	12	11	13
	病 弱	10	11	14	10	11	19	22	27
	弱 視	5	6	4	4	4	4	3	3
	難 聴	10	11	10	7	6	5	6	6
	自閉症・情緒障がい	215	238	268	307	339	361	374	392
	合 計	401	448	485	519	560	588	612	621

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	30,324		
職員手当等	11,751		
共済費	131		
旅費	1,240		
事業費計			43,446

令和8年度 総合計画実施計画

所 属		事 業 名						
教育委員会青少年支援室		青少年支援センター運営費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	様々な困難を抱えるこども・若者から相談を受け、悩みを解決するための必要な支援を行う。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			就労等体験協力事業所数	51	55	57	57	57
	目標（何を達成するのか）							
	様々な困難を抱えるこども・若者の円滑な社会生活及び自立							
事業概要	(数値目標の達成目標年度) 項目名 就労等体験協力事業所数:2029(R11)年度							
	様々な困難を抱えるこども・若者やその家族から気軽に相談できるセンターとして運営する。 支援については、居場所支援(学び・生活支援)、就労支援など相談者の要望を踏まえ、相談者に寄り添いきめ細やかな支援を継続的に実施する。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	○こども・若者に関する相談・支援 ・相談支援 延べ件数 3,809件 ・相談支援 実数145人 ・社会体験事業参加者 延べ45人 ○関係機関との連携 ・青少年支援連絡会(7月) ・セミナー(10月・2月) ・事例検討会(1月) ・就労等体験協力事業所の開拓 4か所 【評価】関係機関と連携し、相談者に寄り添った支援を行うことができた。		○こども・若者に関する相談・支援 ・相談支援活動の実施 ・継続的な居場所支援(学び・生活支援)、就労支援等の実施 ・社会体験事業の実施 ○関係機関との連携 ・青少年支援連絡会、青少年支援セミナー及び事例検討会の開催		○こども・若者に関する相談・支援 ・相談支援活動の実施 ・継続的な居場所支援(学び・生活支援)、就労支援等の実施 ・社会体験事業の実施 ○関係機関との連携 ・青少年支援連絡会、青少年支援セミナー及び事例検討会の開催			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		2,004	2,482	2,482	2,466	-16	
	国・県支出金		336	449	449	451	2	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		1,668	2,033	2,033	2,015	-18	
	歳入合計		2,004	2,482	2,482	2,466	-16	
課題	・引き続き関係機関とのネットワークを強化し、切れ目ない支援体制の構築を行っていく必要がある。 ・支援者の困難特性が複雑化しており、これに対応できる指導員のスキル向上を図る必要がある。			方向性	・誰もが気軽に相談できる環境づくりを行う。 ・相談者の実情に合わせ、寄り添いながらきめ細やかな支援を行い、最終的には社会人としての自立ができるよう導く。 ・相談者の要望等を踏まえながら関係機関との連絡・協議の機会を増やすなど、ネットワークを強化し、切れ目ない支援体制の構築を行っていく。 ・複雑化する相談・支援に対応するため、各種研修に積極的に参加し、指導員のスキルアップを図っていく。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	青少年支援事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	相談・支援業務		
	7月	青少年支援連絡会の開催(年1回)		
	随時	青少年支援セミナーの開催		
	随時	事例検討会の開催		

本事業に関する主要データ

令和7年度 青少年支援センター相談・支援件数内訳

(令和8年3月末現在)

就学前～学校に所属する者			学校などに所属しない者		
年齢	件数 (延べ数)	対象者数 (人数)	年齢	件数 (延べ数)	対象者数 (人数)
就学前(6～5歳)	0	0	15歳以上	有職 2	7
小学生 (7～12歳)	1年	0	18歳未満	無職 102	4
	2年	64	18歳以上	有職 41	1
	3年	166	20歳未満	無職 57	1
	4年	149	20歳以上	有職 131	5
	5年	100	30歳未満	無職 336	10
	6年	186	30歳以上	有職 20	2
中学生 (11～15歳)	小計	665	無職	427	6
	1年	49	有職	194	9
	2年	464	小計	無職 922	21
	3年	750	年齢・職不明	7	6
高校生 (16～18歳)	小計	1,265	合計	1123	36
	1年	22			
	2年	35			
	3年	8			
定時制・通信制 高校課程、短大、大学	小計	65			
	1年	22			
	2年	35			
合計	合計	2,686			
		199			



青少年支援連絡会



青少年支援セミナー

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報償費	430		
旅費	18		
需用費	180		
役務費	193		
使用料及び賃借料	1,645		
事業費計			2,466

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会青少年支援室		青少年自立支援事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	様々な人との交流や体験を通して、松江市の将来を担う子ども・若者たちの自立を支援する。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		主催講座参加者数(人)	234	206	230	260	300
	目標（何を達成するのか）						
	・主催講座への参加者数の増加 ・スタジオ利用者数の増加						
事業概要	(数値目標の達成目標年度) 項目名 主催講座参加者数(人):2029(R11)年度						
	様々な困難を抱えることも・若者が自立に向かうきっかけとなる事業を実施する。 市民活動センター内の「音楽スタジオ」及び「ものづくりスタジオ」を活用した居場所・文化創造の各事業 ・主催講座 音楽講座(ドラム、ボーカル、ピアノ) ものづくり講座(レザークラフト、クッキング、軽スポーツ) ・スタジオの貸出						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・主催講座では、講座内容や講師との会話を楽しみにしている受講生の様子が見られた。 ・青少年支援センター通所者以外にも困難を抱えることも・若者の居場所として、主催講座の利用があった。 ・貸出の周知により、スタジオ利用者が増加した。利用者数(延べ) 520人 【評価】困難を抱えることも・若者の社会的自立を促す効果が得られた。	・困難を抱えることも・若者が参加しやすい主催講座を企画し、青少年支援センターに通所する相談者の参加を促す。 ・困難を抱えることも・若者が安心して主催講座に参加できるよう、講師と指導員との連携を密にしていく。 ・スタジオの貸出については、青少年を優先しながら、一般の方への貸出も開始する。		・困難を抱えることも・若者が参加しやすい主催講座を企画し、青少年支援センターに通所する相談者の参加を促す。 ・困難を抱えることも・若者が安心して主催講座に参加できるよう、講師と指導員との連携を密にしていく。 ・スタジオの貸出については、引き続き青少年の利用を優先しながら、一般の方へも貸出をする。			
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		4,954	5,495	5,495	5,727	232	
財源内訳	国・県支出金	880	1,000	1,000	2,213	1,213	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	4,074	4,495	4,495	3,514	-981	
	歳入合計	4,954	5,495	5,495	5,727	232	
課題	・市内の居場所に通っている困難を抱えることも・若者の主催講座への参加について、受入れ体制などが課題である。 ・音楽スタジオの楽器や音響機材などが老朽化してきており、今後更新のための経費がかかってくる。			・主催講座を中心とした事業を展開し、より多くの居場所を作っていく。 ・子ども・若者の居場所、活動の場としてスタジオの利用促進を図る。			
				方向性			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	青少年支援事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	主催講座、スタジオ貸出		

本事業に関する主要データ

令和7年度 音楽&ものづくりスタジオ運営委員会 主催講座活動実績

スティックビル内にある音楽スタジオ、ものづくりスタジオを活用し、各種主催講座を開催。

《定期講座》

- ・音楽スタジオ
ドラム、ピアノ、ボーカル 3講座
 - ・ものづくりスタジオ
レーザークラフト、クッキング、軽スポーツ 3講座
- 《体験講座（1回のみ）》
レジン講座、木工講座

講座受講者感想

- ・失敗したけど、先生にアドバイスをもらったので、家でも練習したい。（ドラム）
- ・苦手だと思っていたけど、だんだん弾けるようになり、ピアノが好きになった。（ピアノ）
- ・思いっきり動いて汗かいた！（軽スポーツ）
- ・自分の好きな素材を選ぶことができてうれしい。作るのが楽しい。（クッキング）

■音楽講座の様子



ボーカル講座

■ものづくり講座



クッキング講座



レーザー講座

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	2,249	使用料及び賃借料	98
職員手当等	864	備品購入費	250
共済費	548		
報償費	1,296		
旅費	87		
需用費	195		
役務費	140		
事業費計			5,727

令和8年度 総合計画実施計画

所 属		事 業 名						
教育委員会青少年支援室		青少年居場所事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	困難を抱えるこども・若者の自立を促すため、こども・若者の居場所の設置、運営を行う団体を支援する。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			支援団体数(団体)	4	2	4	4	6
	目標（何を達成するのか）							
	困難を抱えるこども・若者の自立							
事業概要	(数値目標の達成目標年度) 項目名 支援団体数(団体)：2029(R11)年度							
	島根県「子ども・若者自立支援総合推進事業補助金」(R2年度～R8年度、補助率1/2)を活用し、NPO法人が困難を抱えるこども・若者の自立につなげるために行っている居場所の提供や就労支援事業を支援する。 補助率2/3(1団体当たり限度額2,000千円) 事業費8,000千円(市4,000千円 県4,000千円)							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・NPO法人が困難を抱えるこども・若者の自立につなげるために行っている居場所の設置や運営、就労支援事業を支援することができた。 ・支援団体の活動の視察や事業進捗状況の確認、意見交換を行い、連携を図ることができた。 ・R8年度の支援に向けて、市内NPO法人へ当該事業の周知を行った。		・NPO法人が困難を抱えるこども・若者の自立につなげるために行っている居場所の設置や運営、就労支援事業を支援する。 ・より多くの団体が制度を利活用できるよう、市内の居場所事業を行うNPO法人に対してPRIに努める。		・NPO法人が困難を抱えるこども・若者の自立につなげるために行っている居場所の設置や運営、就労支援事業を支援する。 ・より多くの団体が制度を利活用できるよう、市内の居場所事業を行うNPO法人に対してPRIに努める。			
	【評価】居場所を提供しているNPO法人を支援することにより、困難を抱えるこども・若者の社会的自立を促す効果が期待できる。							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		7,000	8,000	3,900	8,000	0	
	国・県支出金		3,500	4,000	1,950	4,000	0	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		3,500	4,000	1,950	4,000	0	
歳入合計		7,000	8,000	3,900	8,000	0		
課題	より多くの困難を抱えるこども・若者を支援することが可能となるよう、今後も多くの団体への支援ができる方法を検討する必要がある。		居場所事業を行っている団体との連携を密にして、困難を抱えるこども・若者を支援するとともに、より多くの団体への支援を行っていく。					
課題		方向性						

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	青少年支援事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	補助事業者(NPO法人)公募		
	5月	補助事業者選考委員会開催、結果通知		
	6月	補助金交付申請受付、交付決定		
	3月	事業完了		

本事業に関する主要データ

[令和7年度]

補助団体	事業内容
特定非営利活動法人 プロジェクトゆうあい	① 中間就労の場としての吉本店「本町堂」の運営 ② 居場所（読書や交流できる場）としての活用 ③ 地域とつながる外出イベントの開催
特定非営利活動法人 スペース	① 不登校のこどもを対象としたフリースクール事業 ② 小学生を対象とした体験事業 ③ 中学生を対象とした受験対策の学習支援 ④ 小学生を対象とした学校の長期休暇期間中の居場所事業

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
負担金補助及び交付金	8,000		
事業費計			8,000

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
教育委員会中央図書館		中央図書館運営費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	図書や記録などの資料を適正に収集・整理・保存し、一般公衆が利用できるように提供することで、市民の教養や調査研究、レクリエーションなどに役立ててもらふ。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			中央図書館貸出冊数(冊)	415,321	408,537	420,000	445,000	500,000
			中央図書館来館者数(人)	243,557	245,073	252,000	268,000	300,000
	目標（何を達成するのか）		高校生1人あたりの年間貸出冊数(冊)	0.8	0.8	0.8	0.9	1
市民が利用しやすい図書館づくり								
事業概要	(数値目標の達成目標年度)							
	項目名 中央図書館貸出冊数(冊): 2029(R11)年度							
	項目名 中央図書館来館者数(人): 2029(R11)年度							
	項目名 高校生1人あたりの年間貸出冊数(冊): 2029(R11)年度							
	松江市立中央図書館の管理運営費。 運営は、公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団に委託。 ・市民の意見を取り入れながら、ニーズに応じた資料の収集やレファレンス、情報の発信を行う。 ・市立図書館の核となる中央図書館は、2つの地域館(島根・東出雲)、移動図書館車及び配本事業との連携、並びに地域や学校図書館、大学等とのネットワークにより市全域に良質な図書サービスを提供する。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・「よるの図書館」や「読書バリアフリー関連の講演会」等の実施 ・プラバホールの事業とのコラボ企画の実施		・プラバホールの事業とのコラボ企画等の実施。 ・電子図書館の導入 ・開館40周年記念事業 ・「第3次松江市子どもの読書活動推進計画」に係る読書についてのアンケート調査の実施。		・プラバホールの事業とのコラボ企画等の実施。			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8			
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較		
事業費		31,538	31,996	31,996	31,149	-847		
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0		
	地方債	0	0	0	0	0		
	その他	21,978	260	260	261	1		
	一般財源	9,560	31,736	31,736	30,888	-848		
	歳入合計	31,538	31,996	31,996	31,149	-847		
課題	・利用者の新規拡大 ・中高生世代の読書活動推進 ・読書バリアフリー対応 ・電子図書館の導入に向けた検討 ・他部局等との連携強化			・中高生への本に関するPR方法などを工夫し、貸出冊数の増加をめざす。 ・民間の書店や福祉関係施設との連携を強化し、本に親しむ環境の醸成を図る。 ・電子図書館の導入にあたり、学校図書館との連携を強化する。				
				方向性				

松江市総合計画	基本目標	ひとつづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	図書館の運営

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	月水金土曜日	移動図書館車の運行	5月～2月	語り手養成講座
	木土曜日	おはなし会の実施	年3回	「よるの図書館」の開催
	各月1回土曜日	定期講座（古文書・小泉八雲）の開催	2月	中央図書館蔵書点検
	年7回	語り手のための講座		

本事業に関する主要データ

市民一人あたりの蔵書数推移
（千冊当り）

都府県	人口 （千人）	個人蔵書数 （千冊）	公共蔵書数 （千冊）	一人あたりの 蔵書数（冊）
1 北海道	361	3,692	88	10.42
2 青森	366	3,875	86	9.95
3 岩手	400	3,536	113	8.85
4 秋田	349	3,812	111	8.29
5 山形	370	3,265	178	7.63
6 福島	517	3,596	0	6.95
7 茨城	362	2,058	80	6.86
8 栃木	385	2,481	43	6.59
9 群馬	417	2,681	35	6.51
10 千葉	262	1,603	99	6.46
11 埼玉	286	1,501	23	6.46
12 東京	483	3,091	11	6.42
13 神奈川	402	2,406	27	6.04
14 新潟	422	2,271	39	5.47
15 富山	322	1,749	19	5.33
16 石川	324	1,680	31	5.29
17 福井	369	1,922	11	5.24
18 岐阜	461	2,046	68	5.24
19 山梨	384	1,904	98	5.22
20 長野	476	2,323	181	5.07
21 群馬	371	1,730	25	4.73
22 山口	602	2,842	12	4.72
23 徳島	270	1,230	34	4.69
24 高松	162	763	74	4.57
25 香川	302	1,352	42	4.55

出典：日本図書館協会「日本の図書館 統計と展望2024」

※2024年3月末（令和6年度）のデータ
※大規模改修工事のため、令和4年4月1日から令和5年3月31日まで閉館、中央図書館は臨時営業。
※中央図書館が閉館中だった、令和4年4月2日から令和5年7月31日の期間は、イオン松山とスターバックス代わりサービスを実施。
※令和5年4月1日は図書館システム更新のため、中央図書館の一切の図書館サービスは停止。
※隣接道のセブンイレブンは、各都府県一環ではあるが、

都府県別

都府県	人口 （千人）	個人蔵書数 （千冊）	公共蔵書数 （千冊）	一人あたりの 蔵書数（冊）
26 福井	344	1,476	32	4.39
27 滋賀	228	951	20	4.32
28 京都	255	1,883	70	4.27
29 大阪	409	1,229	19	4.27
30 兵庫	345	1,390	81	4.26
31 徳島	406	1,681	16	4.22
32 香川	447	1,833	49	4.21
33 鳥取	434	1,747	29	4.09
34 和歌山	353	1,481	22	4.03
35 奈良	244	979	3	4.02
36 和歌山	362	2,265	32	3.91
37 徳島	647	2,525	3	3.91
38 長野	269	1,410	10	3.86
39 山梨	311	1,887	105	3.80
40 山梨	209	779	11	3.76
41 徳島	271	838	86	3.76
42 徳島	528	1,879	15	3.76
43 奈良	351	1,331	3	3.72
44 徳島	238	887	58	3.70
45 徳島	480	1,882	27	3.56
46 徳島	272	868	93	3.50
47 徳島	368	1,244	2	3.47
48 徳島	598	2,802	44	3.42
49 徳島	504	1,690	22	3.40
50 徳島	248	783	48	3.36

出典：日本図書館協会「日本の図書館 統計と展望2024」

心斎橋

都府県	人口 （千人）	個人蔵書数 （千冊）	公共蔵書数 （千冊）	一人あたりの 蔵書数（冊）
1 徳島	28	233	28	7.87
2 徳島	174	1,882	80	6.95
3 徳島	21	122	37	5.12
4 徳島	24	248	10	5.08
5 徳島	38	118	19	3.81
6 徳島	44	113	12	2.84
7 徳島	188	381	97	2.81
8 徳島	22	28	1	1.41
9 徳島				4.22

R8節別予算額内訳（千円）			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	42		
役務費	7		
委託料	29,946		
使用料及び賃借料	1,154		
事業費計			31,149

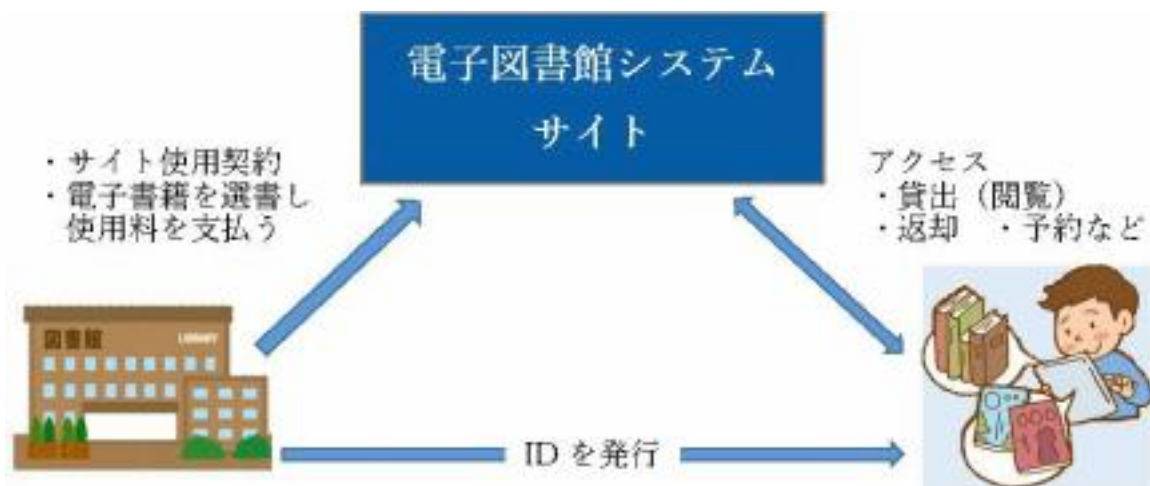
令和8年度 総合計画実施計画

所 属		事 業 名						
教育委員会中央図書館		電子図書館運営費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	視覚障がいのある方や図書館を訪れるのが難しい方を含め、すべての人が本を楽しめる環境を整備する。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			電子図書館ID登録者数(人)	0	0	20,000	34,700	34,700
	目標（何を達成するのか）		電子図書館サービスの利用満足度(%)	0	0	60	70	100
	・誰ひとり取り残さない図書館サービスを行う。 （読書バリアフリー） ・デジタルの良さを活かし、読書の普及拡大を狙う。							
事業概要	(数値目標の達成目標年度) 項目名 電子図書館ID登録者数(人)：2029(R11)年度 項目名 電子図書館サービスの利用満足度(%)：2029(R11)年度							
	・電子書籍をウェブ上で貸し出す図書館サービスを導入、運用するもの。 ・予約、貸出、返却の概念があり、基本的には1冊に対して1人ずつ利用する。(同時アクセス可の資料もあり) ・利用者は、インターネットに接続したスマートフォン、タブレット、パソコンなどで電子書籍を読むことができる。 ・松江市独自の取り組みとして、小泉八雲関連書籍、八雲資料室の貴重資料や郷土資料なども閲覧できるようにする。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	実績なし。		5月：業者決定(プロポーザル方式) 6～8月：選書、利用に関する周知 8月末：利用開始(予定)		市内小・中・義務教育学校等の児童・生徒にIDを配布。			
	達成度							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		0	0	0	9,231	9,231	
	国・県支出金		0	0	0	4,615	4,615	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		0	0	0	4,616	4,616	
歳入合計		0	0	0	9,231	9,231		
課題	・利用者にとって魅力ある選書の可否。 ・公立小・中・義務教育学校での活用		・読書困難者向けの(読書バリアフリー機能が使える)書籍の導入を優先。 ・次年度以降は、市立小・中・義務教育学校等での活用も視野に入れ選書を進める。					
			方向性					

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	図書館の運営

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	5月	業者決定(プロポーザル方式)		
	6月～8月	選書、利用に関する周知		
	8月末	利用開始(予定)		

本事業に関する主要データ



電子図書館システムの利用の流れ

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	9,231		
事業費計			9,231

令和8年度 総合計画実施計画

所属	事業名
松江市皆美が丘女子高等学校	皆美が丘女子高魅力化事業費

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	「より広く より高く」の校訓のもと、 ○地域を学び地域を愛し地域社会に活力を与え その発展を担う女性／○グローバルな感性と高い志を備えた女性／○生涯にわたって主体的に生きる女性 の育成を目指す。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		入学者一般選抜 募集定員競争率	0.63	0.87	1	1	1
		入学定員充足率	0.68	0.9	1	1	1
		中国四国地方唯一の公立女子高として他校との差別化を図り、より一層特色を明確にして魅力を高め、高等学校に進学する受験生やその保護者に選ばれる学校を目指す。					

事業概要	(数値目標の達成目標年度)
	項目名 入学者一般選抜募集定員競争率:2030(R12)年度までに1.00以上
	項目名 入学定員充足率:2030(R12)年度までに1.00
	(事業概要)
	「松江市立女子高等学校魅力化事業実施計画(H31.3策定)」に基づき、選ばれる学校を目指し魅力化に取り組んでいる。 R8年度入学生からは、学科再編(普通科と国際コミュニケーション科の統合)・単位制の導入・入学定員の変更を実施し、本校の特色を活かした更なる魅力化を進めていく。

事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
	・魅力化CNを配置(継続)※ ・高大(専)連携の推進(継続) ・学校の取組を情報発信(継続) ・ALTの常駐化(継続) ・外国語大学でのキャンパス体験(継続) ・台北市立大学との訪問交流(継続)※ほか。(※は別事業費あり。) 【評価】魅力化推進にかかる具体的な取組を実施し、本校の魅力を伸長することができた。	・魅力化CNを配置(継続)※ ・高大(専)連携の推進(継続) ・学校の取組を情報発信(継続) ・ALTの常駐化(継続) ・外国語大学でのキャンパス体験(継続) ・台北市立大学との訪問交流(継続)※ ・中国杭州との交流事業※ ・ICT教育における県立高校との連携強化(新規)※ ほか。(※は別事業費あり。)	・魅力化CNを配置(継続)※ ・高大(専)連携の推進(継続) ・学校の取組を情報発信(継続) ・ALTの常駐化(継続) ・外国語大学でのキャンパス体験(継続) ・台北市立大学との交流事業(継続)※ ・中国杭州との交流事業※ ・ICT教育における県立高校との連携強化(新規)※ ほか。(※は別事業費あり。)
	達成度		
	計画目標に向けて進捗はやや遅れている		

歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		6,569	10,321	10,321	10,660	339
財 源 内 訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	187	280	280	280	0
	一般財源	6,382	10,041	10,041	10,380	339
歳入合計		6,569	10,321	10,321	10,660	339

課題	方向性
・入学者定員割れの解消 ・他校との差別化 ・学校の魅力をPR ・独自採用した教員の資質向上のための他校との人事交流	・普通科と国際コミュニケーション科を統合し、単位制を導入することにより柔軟な科目選択を実現。 ・協定に基づく島根県立大との連携事業や外国語大学でのキャンパス体験など、高大(専)連携を推進する。 ・SNSを活用した情報発信や中学校での進路説明会への参加など積極的にPR活動を行う。 ・独自採用による教員は現行の体制を維持しつつ、県立高校からの派遣を継続する。

松江市総合計画	基本目標	ひとつづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	女子高魅力化推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	学科再編・定員数変更・単位制導入	通年	ALT常駐化
	8月	外国語大学でのキャンパス体験	通年	高大(専)連携の推進
	10月	台北市立大学を訪問	通年	学校の取組を情報発信
	3月	中国杭州との交流事業		

本事業に関する主要データ

○皆美が丘女子高等学校 入学者選抜・入学者・生徒数の推移														
普通科														
年度	入学定員	特色・選抜 選抜	一般選抜				2次募集	合格者数 (計)	入学者数	入学定員 充足率	生徒数			
		内定者数	募集定員	出願者数	競争率	合格者数	合格者数				1学年	2学年	3学年	(計)
令和3年度	90	19	71	73	1.03	71	0	90	80	1.00	90	66	85	241
令和4年度	90	21	69	68	0.84	56	0	77	77	0.86	78	68	66	212
令和5年度	90	11	79	83	1.05	79	0	90	90	1.00	90	76	84	250
令和6年度	90	14	76	54	0.71	53	1	68	68	0.76	70	65	71	206
令和7年度	90	27	63	60	0.95	55	1	83	83	0.92	83	67	82	232
国際文化観光科/国際コミュニケーション科														
年度	入学定員	特色・選抜 選抜	一般選抜				2次募集	合格者数 (計)	入学者数	入学定員 充足率	生徒数			
		内定者数	募集定員	出願者数	競争率	合格者数	合格者数				1学年	2学年	3学年	(計)
令和3年度	30	4	26	8	0.31	8	0	12	12	0.40	12	19	15	46
令和4年度	30	3	27	21	0.78	20	0	23	23	0.77	23	12	18	53
令和5年度	30	4	26	7	0.27	10	1	16	16	0.50	16	19	11	46
令和6年度	30	3	27	11	0.41	11	0	14	14	0.47	14	13	18	45
令和7年度	30	9	21	11	0.52	11	0	20	19	0.63	19	14	12	45
【合 計】														
年度	入学定員	特色・選抜 選抜	一般選抜				2次募集	合格者数 (計)	入学者数	入学定員 充足率	生徒数			
		内定者数	募集定員	出願者数	競争率	合格者数	合格者数				1学年	2学年	3学年	(計)
令和3年度	120	23	97	81	0.84	79	0	102	102	0.85	102	85	100	287
令和4年度	120	24	96	79	0.82	76	0	100	100	0.83	101	100	84	285
令和5年度	120	15	105	90	0.86	89	1	105	105	0.88	105	95	95	295
令和6年度	120	17	103	65	0.63	64	1	82	82	0.68	84	80	89	253
令和7年度	120	36	84	71	0.85	60	1	103	102	0.85	102	81	94	277
※『生徒数』は学校基本調査による各年度5月1日現在の人数。														

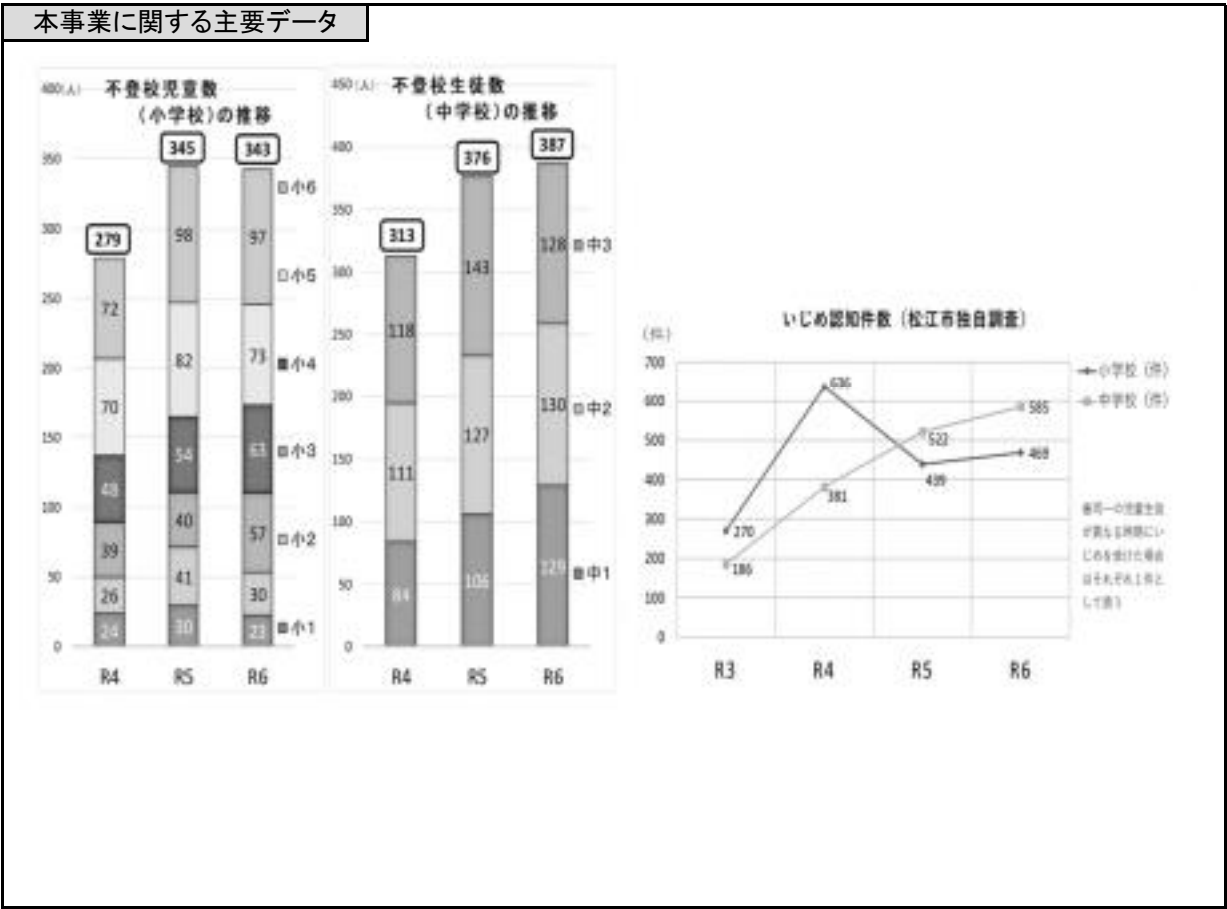
R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	6,448	負担金補助及び交付金	152
職員手当等	864		
共済費	1,276		
旅費	230		
需用費	675		
役務費	11		
使用料及び賃借料	1,004		
事業費計			10,660

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
教育委員会生徒指導推進室		サポートワーカー活用事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	・不登校や問題行動等、生徒指導上の課題を有する児童生徒への直接的な支援・指導の充実 ・学校における生徒指導体制の充実（家庭訪問等環境への働きかけ） ・家庭、関係機関等と連携したチーム支援の充実		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
	目標（何を達成するのか）		小学校不登校率（％）実績値のみ	3.38	3.72			
	・不登校率（小1～中3在籍児童生徒数のうち不登校児童生徒の占める割合）の減少。いじめ重大事態件数の減少。		中学校不登校率（％）実績値のみ	7.75	9.29			
			いじめ重大事態（件）実績値のみ	1	2			
事業概要	数値目標については、不登校率やいじめの発生件数を0にすることのみを目標とするのではなく、ケースに応じた適切な対応を行うことを事業の目的としているため、実績値のみの記載としている。 【配置時数】通常対応（1人あたり）1,028時間/年　緊急対応（全体）23時間/年 サポートワーカー（SW）活用事業は、児童生徒を取り巻く環境の調整を図ることにより、不登校をはじめとする課題を抱える児童生徒の自立と学校適応を支援することを目的とする松江市単独の支援員配置事業 ※H30から「生活困窮者就労準備支援事業費等国庫補助金（生活福祉課所管）」を充当							
	市立小・中・義務教育学校へSWを配置し、不登校、問題行動、いじめ等に対応する生徒指導体制の充実・強化を図る 【参考】R5：小学校不登校率3.31％、中学校不登校率7.58％、いじめ重大事態2件							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・SW（23人）の配置と活用 ※小学校14校、中学校10校、義務教育学校1校 ※小中兼務SW1人、小学校2校兼務SW1人 ・SWの役割等に係る研修会の開催（年4回：児童生徒支援に造詣の深い講師） 【評価】不登校や問題行動などの支援を要する児童生徒や保護者に対し、学校内外での関わりを通して有効な支援ができた。		・SW（23人）の配置と活用 ※小学校15校、中学校10校、義務教育学校1校 ※小中兼務SW2人、小学校2校兼務SW1人 ・SWの役割等に係る研修会の開催（年4回：児童生徒支援に造詣の深い講師）		・SW（23人）の配置と活用 ※小学校15校、中学校10校、義務教育学校1校 ※小中兼務SW2人、小学校2校兼務SW1人 ・SWの役割等に係る研修会の開催（年4回：児童生徒支援に造詣の深い講師）			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8			
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較		
事業費		50,678	59,167	59,152	59,725	558		
財源内訳	国・県支出金	3,853	5,295	5,295	5,344	49		
	地方債	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0		
	一般財源	46,825	53,872	53,857	54,381	509		
歳入合計		50,678	59,167	59,152	59,725	558		
課題	配置校における生徒指導体制の充実・強化に成果を上げている事業であるが、未配置校への支援の展開・充実が課題である。			不登校児童生徒数等を考慮して配置校を決定する。未配置校への支援の一つとして、SSWと補完し合って有効な支援の展開を図る。また、中学校区を単位とした活用を促進し、きめ細やかな支援を拡げる。				
				方向性 ※SSW（スクールソーシャルワーカー）・・・困難な課題を抱える児童生徒の環境に働きかけ、関係機関と連携して福祉的支援の充実を図ったり、重大事態への専門的対応を行ったりする。				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	サポートワーカー活用事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	SW配置		
	5月～2月	研修4回(不登校・特別支援ほか)		
	1月～3月	次年度SW配置準備		



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	35,856		
職員手当等	13,895		
共済費	8,950		
旅費	1,024		
事業費計			59,725

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会生徒指導推進室		不登校児童生徒オンライン支援事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	誰一人取り残されない学びの保障に向け、不登校児童生徒とオンライン学習等を通じて継続的につながる環境を整える。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		小学校不登校率（％）実績値のみ	3.38	3.72			
	目標（何を達成するのか）	中学校不登校率（％）実績値のみ	7.75	9.29			
	「どこにもつながらないこどもをなくす」「学びが止まらない」						
事業概要	数値目標については、不登校率を0にすることのみを目標とするのではなく、ケースに応じた適切な対応を行い、「どこにもつながらないこどもをなくす」「学びが止まらない」ことを事業の目的としているため、実績値のみの記載としている。 自宅に閉じこもりがちな不登校にある児童生徒を対象に、一人一台端末等を活用したオンラインによる学習支援「ボタンねっ」とを実施する。 ・当該児童生徒への参加募集 ・教育委員会（生徒指導推進室）を拠点に授業配信 ・効果や課題について定期的に検証、改善 【参考】R5：小学校不登校率3.31％、中学校不登校率7.58％						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・応募児童生徒への連絡、配信確認（申込者数72人） ・オンライン学習支援「ボタンねっ」実施（通年） ・効果等の検証、改善 【評価】不登校にあるこどもたちが自分のペースで学習に参加することができた。アンケート結果からも「楽しみながら取り組んでいる」「生活リズムが整った」等の肯定的な意見も多く、成果をあげている。	・応募児童生徒への連絡、配信確認 ・オンライン学習支援「ボタンねっ」実施（通年） ・効果等の検証、改善		・応募児童生徒への連絡、配信確認 ・オンライン学習支援「ボタンねっ」実施（通年） ・効果等の検証、改善			
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		531	622	589	543	-79	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	531	622	589	543	-79	
歳入合計		531	622	589	543	-79	
課題	不登校及び不登校傾向にある児童生徒が年々増加傾向にある。 当該児童生徒は、学習の機会や集団生活の経験が不十分であり、家族以外の人との関わりが希薄になっている。 より多くの児童生徒が参加するための工夫が必要である。		方向性	誰一人取り残さない学びの保障に向け、「どこにもつながらないこどもをなくす」「学びが止まらない」ことを目的に、不登校支援策の一つとしてオンライン学習支援「ボタンねっ」を継続実施する。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	不登校児童生徒オンライン支援事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	オンライン学習配信・参加募集		
	毎月	保護者アンケート実施		
	毎月	各学校へ接続状況を確認		

本事業に関する主要データ

松江県不登校支援センター「もしもがっさる」【おはよう 金沢編】
オンライン学習支援『ボタンねっど』

どんなことをするの？

- ・タブレット端末を用いた自主学習、や「支援員による授業」、「学習活動の支援」など
- ※スケジュールは各学年ごと（変更する場合がある）

対象は？

- ・学校で難しいと感じる児童から学年が上がる
- ・義務教育学校から卒業生まで
- ・柔軟な対応が図られ、状況改善に向けて希望者が希望と判断される児童生徒

誰が支援をするの？

指導員（指導主事）の支援スタッフ
※担任先生・担任指導員・教員・ボランティア

どんな形で支援を受けることができるの？

- ・場所…児童生徒の自宅、学校の教室等
- ・時間…平日は、平日午前～午後5時～12時
平日は、土曜・日曜の14時～18時
- ・使用ソフト…Zoom、チャット、Google Classroom
※学校では、学校指定の学習用デバイスまたは家庭用用のタブレット・パソコンを使用（家庭での利用は環境が必要）

申込みまでの流れは？

1. 家庭から希望があった場合、支援が適切かどうかを校内で検討
2. 学校から希望者委員会（生徒指導推進室）へ連絡
3. 学校から希望者へ申込みを提出
4. 指導員による希望者へのオンラインセッション
5. 支援スタート！

出席扱いになるの？

学校長が認めれば「出席」として扱うことができます

【学習内容】

10:00～10:30	30分	★おはようタイム
		参加者・今日の予定の確認、確認など
10:30～11:15	45分	★まなびタイム
		支援員による授業
11:15～11:20	5分	休憩（次のつなぎ・準備）
11:20～12:00	40分	★自主学習タイム
		自主（A1型ドリル）+解説
12:00～14:00	2時間	昼休み
14:00～14:15	15分	★こんにちはタイム
		参加者確認、確認など
14:15～14:45	30分	★ムービータイム
		学習動画の視聴
14:45～14:55	10分	★またねタイム
		お礼、今日の振り返り

R8節別予算額内訳(千円)

節名称	金額	節名称	金額
報償費	15		
需用費	35		
役務費	52		
使用料及び賃借料	441		
事業費計			543

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
教育委員会学校教育課		部活動地域展開推進事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	少子化が進む中、市立中・義務教育学校の生徒たちの豊かで幅広い活動機会を保障し、学校における教員の働き方改革を推進していくために、中学校部活動の地域展開に向けた体制整備を図る。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			令和9年度設定予定（事業構築途中のため）					
	目標（何を達成するのか）							
	学校部活動を地域クラブ活動に展開するための体制を整備し、まずは学校部活動における休日の活動を地域クラブ活動へ展開する。							
事業概要	・令和7年12月に文部科学省は「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」を策定し、令和8年度から令和13年度の改革実行期間において、原則、全ての学校部活動において休日の地域展開を実現することが示された。							
	・本市立中・義務教育学校においても学校部活動における休日の地域展開を推進していくために、地域展開推進協議会を設置してコーディネーターを配置し、体制整備を行う。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
			・部活動地域展開推進協議会の設置 ・認定クラブ制度の構築 ・生徒及び保護者のニーズの把握 ・モデル事業実施に向けて実施校・実施競技の選定		・部活動地域展開推進協議会の開催 ・認定クラブ制度の策定 ・生徒及び保護者のニーズの把握 ・モデル事業の実施			
	達成度							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		0	0	0	4,052	4,052	
	国・県支出金		0	0	0	2,701	2,701	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		0	0	0	1,351	1,351	
歳入合計		0	0	0	4,052	4,052		
課題	・現在は地域クラブ活動の実施主体となる運営団体がいないため、全体の把握や統括などの業務を行う運営主体や組織を作る必要がある。 ・地域クラブ活動実施にあたって、指導者や活動場所の確保を行う必要がある。		認定クラブ制度を構築し、地域クラブ活動団体への支援を行うとともに、人材バンクを活用した指導者の確保を行い、地域クラブ活動の受け皿となる団体を拡げていく。					
			方向性					

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	部活動地域展開推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	6月	第1回部活動地域展開推進協議会		
	10月	第2回部活動地域展開推進協議会		
	1月	第3回部活動地域展開推進協議会		

本事業に関する主要データ

本事業に関する主要データ

令和7年度 市立中・義務教育学校 部活動数一覧

	運動部				文化部	
	男子	女子	共通		共通	
卓球	6	7	5	吹奏楽	15	
フットサニス	6	8		芸術	10	
バドミントン	6	10		理科	2	
バレーボール	7	36		英語	1	
サッカー			9	音楽	3	
軟式野球(野球)			10	パソコン・メディア	1	
陸上			8	科学	1	
剣道			7	歴史	1	
柔道			3	ボランティア	1	
水泳競技			2	英語	1	
体操			3	書道	1	
合計	29	41	48	音楽	1	
	118			合計	38	

令和7年度 総部活動数	156
-------------	-----

令和7年度部活動指導員及び部活動地域指導者の学校別配置状況

		第一中	第二中	第三中	第四中	第五中	第六中	第七中	第八中	第九中	第十中	第十一中	第十二中	合計(人)
		部活動指導員	地域指導者	文化部	文化部	文化部	文化部	文化部	文化部	文化部	文化部	文化部	文化部	文化部
部活動指導員	運動部	2	1	1	0	2	0	0	2	0	0	1	0	13
	文化部	2	1	0	2	2	4	1	3	3	0	1	1	31
	文化部	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	7
合計(人)		5	2	1	2	4	5	1	6	4	0	3	2	51

※地域指導者のうち、1名が複数校兼務のため実際の人数は50名

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	2,543		
職員手当等	901		
共済費	567		
旅費	41		
事業費計			4,052

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会学校教育課		地域学校協働活動推進事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	ふるさと松江を愛し、確かな学力と豊かな人間性・健やかな体を持つ児童生徒の育成	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		地域行事に参加している小6の割合（％）	58.8	57.5	73	75	80
	目標（何を達成するのか）	地域行事に参加している中3の割合（％）	52.4	53.1	56	58	60
	保護者や地域住民が学校教育に積極的に参画し、学校・家庭・地域が協働してこどもたちの教育に取り組む学校・地域づくり（よこの一貫（環）教育）を推進する。	学校支援ボランティア延べ人数（人）	23,354	23,579	29,000	31,000	35,000
事業概要	（数値目標の達成目標年度） 項目名 地域行事に参加している小6、中3の割合（％）：2029（R11）年度 項目名 学校支援ボランティア延べ人数（人）：2029（R11）年度 ・「松江市小中一貫教育」の取組の柱である「よこの一貫（環）教育」（学校・家庭・地域が協働した地域ぐるみの教育）を推進するために、「コミュニティ・スクール推進事業」と一体的な取組を進める。 ・各学園（中学校区）に設置している「地域学校協働本部」に、「地域学校協働活動推進員（地域学校コーディネーター）」を配置し、各学園・各校における学校支援をはじめとする地域学校協働活動を推進する。 ・運営については国庫補助事業「学校を核とした地域力強化プラン」を活用する。						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・各学園において「学校運営協議会」及び「学園教育推進会議」と連携して実施 ・「地域学校協働本部連絡会議」を「学校運営協議会研修会」と同時開催 【評価】「学校運営協議会」や「学園教育推進会議」との連携を進めたことにより、地域学校協働本部の活動が充実した。	・各学園において「学校運営協議会」及び「学園教育推進会議」と連携して実施 ・「地域学校協働本部連絡会議」を「学校運営協議会研修会」と同時開催					
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		17,479	17,507	17,507	17,546	39	
財源内訳	国・県支出金	5,828	5,835	5,835	5,848	13	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	11,651	11,672	11,672	11,698	26	
	歳入合計	17,479	17,507	17,507	17,546	39	
課題	・国の方針である「学校における働き方改革を踏まえた取組」についての活動を更に広げていく必要がある。 ・地域学校協働本部と学校運営協議会や学園教育推進会議とが更に連携する必要がある。 ・国からの補助金が毎年変動するため、地域学校コーディネーターの年間活動時間が限られる。			・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）や小中一貫教育との関連も踏まえながら、学校と地域が連携・協働した「地域学校協働活動」の充実を図っていく。そのために、この活動の要となる地域学校コーディネーターの資質能力の向上や十分な活動時間を保障するための予算確保に引き続き努めていく。			
				方向性			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	地域学校協働活動推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	地域学校協働活動推進員委嘱		
	4月～	コーディネーター連絡会(年3回)		
	5月～	各学園「学園教育推進会議」(年2回)		
	6月	地域学校協働本部連絡会議		

本事業に関する主要データ

支援種別にみた学校支援ボランティアのべ人数

	支援種別ボランティアのべ人数(人)							合計(人)
	学習支援活動	環境整備支援活動	部活動支援活動	通学安全等の支援活動	調査等支援活動	学校行事支援活動	その他※	
令和元年度実績	14,173 (45.2%)	714 (2.3%)	839 (2.7%)	12,347 (39.4%)	2,016 (6.4%)	217 (0.7%)	1,038 (3.3%)	31,344 (100%)
令和2年度実績	5,090 (25.4%)	824 (4.1%)	429 (2.1%)	12,156 (60.5%)	909 (4.5%)	176 (0.9%)	498 (2.5%)	20,082 (100%)
令和3年度実績	7,604 (24.4%)	1,126 (3.6%)	530 (1.7%)	20,103 (64.5%)	906 (2.9%)	163 (0.5%)	734 (2.4%)	31,166 (100%)
令和4年度実績	8,976 (29.4%)	1,957 (6.4%)	659 (2.2%)	16,905 (55.3%)	1,156 (3.8%)	213 (0.7%)	684 (2.2%)	30,550 (100%)
令和5年度実績	10,442 (45.0%)	668 (2.9%)	665 (2.9%)	9,000 (38.7%)	1,432 (6.1%)	344 (1.5%)	673 (2.9%)	23,224 (100%)
令和6年度実績	10,861 (46.4%)	891 (3.8%)	783 (3.4%)	9,287 (39.8%)	1,133 (4.9%)	219 (0.9%)	180 (0.8%)	23,354 (100%)
令和7年度実績	10,414 (44.2%)	738 (3.1%)	771 (3.3%)	9,729 (41.3%)	1,026 (4.4%)	430 (1.8%)	471 (1.9%)	23,579 (100%)

※その他は、特別な支援が必要な子の見守り、買収浄水、白衣・制服の修繕、休み時間の対応など

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報償費	15,340		
旅費	83		
需用費	435		
役務費	1,297		
使用料及び賃借料	391		
事業費計			17,546

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会学校給食課		地域食育推進事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	児童生徒が地域住民（生産者）とともに農産物を育て、それを給食の食材として活用するまでの一連の体験を通して食育を推進する。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		数値目標になじまない					
	目標（何を達成するのか）						
	地域に根差した食育の推進。						
事業概要	地域住民（生産者）と学校、家庭が一体となり、児童生徒の農業体験、手がけた野菜などの給食使用、生産者との交流給食や調理実習を行う。						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	実施校：5校 栽培品目：大根、秋鹿ごぼう、わかめなど 地域住民、学校等と連携し、種まき等栽培、交流給食を実施。 【評価】野菜の栽培体験を行い、収穫した野菜を使用した給食を指導者と一緒に食べることにより、食育への知識や理解を高め、地域との交流を深める効果があった。	実施校：5校 栽培品目：大根、秋鹿ごぼう、わかめなど 地域住民、学校等と連携し、種まき等栽培、交流給食を実施。		実施校：6校 栽培品目：大根、秋鹿ごぼう、わかめなど 地域住民、学校等と連携し、種まき等栽培、交流給食を実施。			
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		77	417	178	366	-51	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	77	417	178	366	-51	
	歳入合計	77	417	178	366	-51	
課題	生産者の高齢化により、新たな担い手の掘り起こしが必要である。		方向性 農業体験や指導者との交流給食等により、地場農産物への理解や生産者に感謝する心を育成するなど引き続き実施していく。 また、実施校が増やせるよう、地域や関係者と連携し新たな担い手の確保に取り組む。				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	地域食育推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～6月	実施校、指導者、センターと打合せ		
	6月～3月	種まき、収穫、交流給食の実施		

本事業に関する主要データ

【令和8年度 地域食育推進事業】実施計画

管理センター	実施校	栽培品目	指導者	実施時期			交流給食	実施回数	収穫した野菜を使用した給食の献立
				種まき・苗植え・定植	採りき・観察	収穫			
1 西センター	美保間小学校 (2年生)	大根	松江市美保間町 (普通地区)	9月種まき	10月採りき	12月	12月	4	大根のみそ汁
	美保間小学校 (3年生)	わかめ	松江市美保間町 (内田地区)	11月・事前講習 12月 種づけ		2月	2月	4	わかめのみそ汁
3 西センター	秋鹿小学校 (4年生)	秋鹿ごぼう (産地10)	松江市岡本地区 清水、秋鹿 両	9月種まき	10月草取り	1月	1月 (調理実習)	4	秋鹿ごぼう、きん(10ごぼう)、ごぼうのサラダ、ごぼう+調理実習の献立
4 南センター	意部小学校 (2年生)	小松菜	松江市意部町 加太、意部 両	9月種まき	10月採りき	12月	12月	4	小松菜のじゅうごう
5 東部センター	出雲町小学校 (3年生)	大根	松江市東出雲町 (出雲町地区)	9月種まき	10月採りき	12月	12月	4	大根カレーライス
6 八雲センター	八雲小学校 (2年生)	大根	松江市八雲町 (八雲町地区グループ)	9月種まき	10月採りき	12月	12月	4	まつえおでん

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報償費	78		
需用費	288		
事業費計			366

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
健康福祉部生活福祉課		生活困窮者就学支援事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	生活困窮世帯で一般的に言われている「貧困の連鎖」を防止するため、対象世帯の中学2年生、3年生に対する学習支援を行うことにより、将来の自立促進を図るもの。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			本事業利用生徒の進学率(3年生)(%)	100	100	100	100	100
			要・準要保護生徒の進学率(3年生)(%)	97.5	98.8	98.8	98.8	99
	目標（何を達成するのか）							
「貧困の連鎖」を防止するため、対象世帯の中学2年生、3年生に対する学習支援を行うことにより、高校進学率を高める。								
事業概要	本事業は、生活保護世帯を含む生活困窮世帯(要保護世帯および準要保護世帯)の中学2年生、3年生を対象として、次に掲げる取組を、適切、公正、中立かつ効率的に実施する能力を有する事業者に委託して実施する。(国庫補助率1／2、市負担率1／2)							
	①学習支援 高校受験のための進学支援、学校の勉強の復習、学習の習慣づけ ②居場所(自習室)の提供 子どもが安心して通える場所の提供 ③進路相談等 個別の進路相談、進学に必要な奨学金などの公的支援の情報提供 ※中学2年生は、令和6年度から対象 (数値目標の目標年度) 本事業利用生徒の進学率(3年生):2029(R11)年度、要・準要保護生徒の進学率(3年生):2029(R11)年度							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	【実績見込】 本事業利用者の高校進学率:100.0% 利用人数:148名(中学2年生、3年生合計) 指導回数:生徒1人あたり全30回 中学2年生(8月から3月までの月4回)／1回90分 中学3年生(7月から2月までの月4回)／1回90分 指導形式:集団型(習熟度を加味したクラス編成:講師1人につき生徒10名まで) 指導場所:事業者が指定する場所		【事業計画】 本事業利用者の高校進学率:100.0% 利用定員:150名(中学2年生、3年生合計) 指導回数:生徒1人あたり全30回 中学2年生(8月から3月までの月4回)／1回90分 中学3年生(7月から2月までの月4回)／1回90分 指導形式:集団型(習熟度を加味したクラス編成:講師1人につき生徒10名まで) 指導場所:事業者が指定する場所		【事業計画】 本事業利用者の高校進学率:100.0% 利用定員:150名(中学2年生、3年生合計) 指導回数:生徒1人あたり全30回 中学2年生(8月から3月までの月4回)／1回90分 中学3年生(7月から2月までの月4回)／1回90分 指導形式:集団型(習熟度を加味したクラス編成:講師1人につき生徒10名まで) 指導場所:事業者が指定する場所			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6		R7		R8	
			決算		予算		決算見込	
	事業費		7,761		8,370		8,370	
	国・県支出金		3,880		4,185		4,185	
	地方債		0		0		0	
	その他		0		0		0	
	一般財源		3,881		4,185		4,185	
歳入合計		7,761		8,370		8,370		
課題	令和6年度に本事業を利用した要保護・準要保護生徒の高校進学率は、100.0%であり目標を達成している(中学3年生のうちアンケートで回答が得られた利用者のみ)。 生活困窮世帯を対象としているためプライバシー保護に万全を期す必要がある。		本事業の実施にあたっては、利用生徒のプライバシー保護に万全を期し、安心して利用できる学習支援を継続して行う。 本事業は令和6年度から中学2年生も対象として実施。令和7年度は150名の定員に対し、148名の利用があった。 多くの対象の方に利用頂けるように関係課と連携し、周知を図る。					
			方向性					

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	夢は叶うって思う
	主要施策	生活困窮世帯の学習支援

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	3月～4月	プロポーザル募集開始	8月	学習指導開始(中学2年生)
	5月	委託事業者選定・対象世帯へ事業案内送付	2月	学習指導終了(中学3年生)
	6月	利用生徒募集・利用生徒決定	3月	学習指導終了(中学2年生)・事業完了
	7月	学習指導開始(中学3年生)		

本事業に関する主要データ
【数値目標データ】 高校進学率（令和7年3月卒業生徒） 令和6年度 松江市全体 99.2%（1,871人/1,887人） ■要保護生徒① 92.9%（13人/14人） 内訳 本事業利用生徒 100%（6人/6人） 本事業未利用生徒 87.5%（7人/8人） ■準要保護生徒② 97.8%（224人/229人） 内訳 本事業利用生徒 100%（75人/75人） 本事業未利用生徒 96.2%（150人/156人） ■要保護・準要保護生徒①＋② 97.5%（237人/243人）

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	14		
役務費	134		
委託料	8,369		
事業費計		8,517	

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
観光部国際観光課		多文化共生推進事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	多様性を尊重し、誰もが心豊かに暮らし、活躍できる多文化共生のまちづくりを推進する。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		多文化理解を促進する事業への参加者数	2,320	2,300	2,600	2,800	3,000
	目標（何を達成するのか）						
	第2期松江市多文化共生推進プランに基づき、「誰もが安心して暮らし続けられるまち」「人と文化が出会い交わるまち」「多様性を価値に変えるまち」づくりを目指す。						
事業概要	外国人住民にとっても住みやすいまちをつくるために必要な生活支援を行うとともに、松江市民との交流の場をつくる。また、松江市民の国際理解を深める機会を提供する。 具体的には、令和8年3月に改定する第2期プランに基づき、以下の取組を行う。 (1)留学生・外国人住民支援(防災訓練、文化体験等) (2)多文化交流イベント(交流の場づくり) (3)国際理解講座(国際交流員や外国人住民による文化紹介講座) (4)ICT技術を活用した行政情報の多言語化 (5)日本語教室等との協働 (6)人権教育・啓発の取組 (7)外国人住民が地域活動へ参加しやすくなるような環境整備						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画				
	(1)松江市多文化共生推進プランの改定 ①検討委員会の開催(11月、1月、3月) ②外国人住民を対象としたアンケートの実施(11月) (2)出前講座、自主企画講座、動画配信による国際理解講座等を実施 (3)外国人相談窓口の設置 (4)市政情報の多言語化を実施 (5)外国人住民向け防災訓練や交通安全教室などを実施 (6)多文化共生を推進するための交流イベントを実施	(1)出前講座、自主企画講座、動画配信による国際理解講座等を実施 (2)外国人相談窓口の設置 (3)市政情報の多言語化を実施 (4)ICT技術を活用した翻訳・通訳システムの検討 (5)外国人住民向け防災訓練や交通安全教室などを実施 (6)外国人住民向けの日本文化体験の実施 (7)モデル地区を設定し、外国人住民が携わる交流イベントを実施	(1)出前講座、自主企画講座、動画配信による国際理解講座等を実施 (2)外国人相談窓口の設置 (3)市政情報の多言語化を実施 (4)ICT技術を活用した翻訳・通訳システムの検討 (5)外国人住民向け防災訓練や交通安全教室などを実施 (6)外国人住民向けの日本文化体験の実施 (7)モデル地区を設定し、外国人住民が携わる交流イベントを実施				
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		449	1,219	1,459	578	-641	
財源内訳	国・県支出金	50	128	128	97	-31	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	30	140	140	120	-20	
	一般財源	369	951	1,191	361	-590	
	歳入合計	449	1,219	1,459	578	-641	
課題	外国人住民支援については、現状の把握や、外国人コミュニティとの人脈づくりが必要である。また、支援だけでなく、外国人住民が地域で活躍できる場づくりが必要である。		現状把握や外国人コミュニティとの連携を図るとともに、令和8年3月に改定する第2期松江市多文化共生推進プランに基づき、多様性を尊重し、誰もが心豊かに暮らし、活躍できる多文化共生のまちを目指していく。				
			方向性				

観光部国際観光課

多文化共生推進事業費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	多文化共生推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	出前講座の実施	7月	多文化共生イベント実施
	通年	外国人住民相談窓口の設置	11月	多文化共生イベント実施
	6月	職員向けやさしい日本語研修実施	1月	多文化共生イベント実施
	7月	日本語教育ボランティア研修会の実施	2月	外国人住民向け防災訓練実施

本事業に関する主要データ

多文化理解を促進する事業への参加者

年度		R1 (H31)	R2	R3	R4	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	
出前講座	小学校	10件	14件	9件	12件	12件	11件	9件	
		999人	917人	816人	976人	1368人	762人	678人	
	中・高・大学等	6件	2件	9件	10件	10件	19件	6件	
		102人	231人	452人	216人	463人	524人	579人	
	公民館・自治会等	16件	6件	9件	6件	5件	6件	16件	
		320人	96人	184人	135人	138人	129人	540人	
	その他	14件	10件	15件	17件	23件	40件	11件	
		311人	140人	292人	408人	525人	687人	146人	
自主企画講座					10件	9件	9件	9件	
					174人	173人	123人	82人	
外国人住民向け事業等		9件	0件	2件	4件	2件	4件	3件	
		175人	0人	22人	147人	113人	95人	87人	
計		55件	32件	44件	59件	61件	89件	54件	
		1907人	1384人	1766人	2056人	2780人	2320人	2112人	

（左）韓国料理講座（海外文化講座）
（中央）出前講座（中国文化の紹介）
（右）外国人住民のための防災訓練

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報償費	95		
需用費	210		
役務費	198		
委託料	75		
事業費計		578	

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
観光部国際観光課		ニューオーリンズ交流事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	友好都市のニューオーリンズ市との交流促進		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			数値目標の設定になじまない					
	目標（何を達成するのか）							
	友好都市であるニューオーリンズ市との行政間の協力関係強化、文化・スポーツを通じた市民レベルの相互理解促進、経済交流の促進							
事業概要	友好都市であるニューオーリンズ市との友好関係を深めるために、次の事業を実施する。 ○ニューオーリンズフェスティバルの開催 市民にニューオーリンズへの理解を深めてもらうため、ニューオーリンズフェスティバルを市民団体が中心となり開催。実行委員会に対して補助金を支出し、実施にあたっての支援を行う。 ○公式訪問団の派遣 ニューオーリンズ市へ公式訪問団を派遣し、今後の都市間交流について、ニューオーリンズ新市長や市民団体と会談を行うとともに、小泉八雲に関する講演会を行う。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	ニューオーリンズフェスティバルを開催し、リトルマルディグラやジャズライブ、飲食店の出展等を行う。		○ニューオーリンズフェスティバルの開催 リトルマルディグラやジャズライブ等を行い、市民に対して、ニューオーリンズ文化の発信を行う。 ○公式訪問団の派遣 令和8年1月に就任した新市長及び市民団体との会談、交流のきっかけとなった「小泉八雲」に関する講演会を現地で開催し、ニューオーリンズ市との交流の深化を図る。		ニューオーリンズフェスティバルの開催 リトルマルディグラやジャズライブ等を行い、市民に対して、ニューオーリンズ文化の発信を行う。			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		680	760	760	7,997	7,237	
	国・県支出金		0	0	0	0	0	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		680	760	760	7,997	7,237	
歳入合計		680	760	760	7,997	7,237		
課題	ニューオーリンズ市政府や市民団体との連携及び情報交換がしやすい環境をつくり、より多くの分野の市民が参画できるようにしていく必要がある。		方向性	・周年事業等の定期的な訪問団派遣を通じた行政間の協力関係強化 ・ニューオーリンズ市と文化・教育・経済などの分野での連携 以上をとおして、友好交流を図っていく。				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	多文化共生推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	10月	ニューオーリンズフェスティバル		
	2月(予定)	ニューオーリンズ市へ公式訪問団の派遣		

本事業に関する主要データ



同市の記念品交換（友好都市提携35周年記念式典）



市立皆美が丘女子高での交流



青年交流団の日本文化体験（茶道体験）

青年訪問団とホストファミリーとの交流
（友好都市提携35周年記念式典）

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
旅費	97		
役務費	500		
委託料	6,742		
負担金補助及び交付金	658		
事業費計			7,997

令和8年度 総合計画実施計画

所属	事業名
市民部人権男女共同参画課	男女共同参画総務費、男女共同参画計画策定事業費、男女共同参画計画推進事業費、運営費

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	「市民一人ひとりが性別にかかわらず、ともに支えあい、いきいきと暮らしていける松江」の実現をめざす。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		固定的な性別役割分担意識の否定割合（%）	78.9	82	82		82
	目標（何を達成するのか）	市の審議会等への女性の参画率（%）	36.6	36.9	40		40
	○「第4次松江市男女共同参画計画」を策定する。						
	○性別による固定的役割分担意識の解消や男女の地位の平等感向上など意識改革を図る。 ○DVや各種ハラスメントなどあらゆる暴力の根絶に向けた啓発活動と相談体制の充実を図る。						

事業概要	令和7年度に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」の結果や近年における社会情勢の変化、国、県等の動向等を踏まえ、「第4次松江市男女共同参画計画（計画期間：令和9年度～13年度、以下「第4次計画」という。）」を策定する。また、第3次松江市男女共同参画計画（計画期間：令和4年度～8年度、以下「第3次計画」という。）に掲げる施策に取り組む。※R9目標値は「第4次松江市男女共同参画計画」策定時に設定予定 ※固定的な性別役割分担意識の否定割合の実績値は「松江市まちづくりのための市民アンケート」によるもの ＜「第4次計画」の策定＞ ①男女共同参画審議会の開催（年4回）②庁内連絡会議の開催 ＜主な施策＞ ①様々なライフステージに応じた各種講座や出前講座を中心とした意識啓発事業 ②市民や事業所に向けたワーク・ライフ・バランスについての意識啓発事業 ③あらゆる暴力（DV、性暴力、ストーカー行為、ハラスメントなど）の防止に向けた啓発や相談体制の充実
------	---

事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
	○男女共同参画週間（6月）や女性に対する暴力をなくす運動期間（11月）にあわせてパネル展示やセミナー等による啓発を行った。 ○出前講座を実施した。 ○女性相談や法律相談、カウンセリングを実施した。 ○男女共同参画に関する市民意識調査を実施した。	○第4次計画の策定 ・男女共同参画審議会の開催 ・庁内連絡会の開催 ○松江市審議会等における女性登用率向上に向けた取り組み ○パネル展示やセミナー等による啓発 ○出前講座等の実施 ○女性相談や法律相談、カウンセリングの実施	○松江市審議会等における女性登用率向上に向けた取り組み ○パネル展示やセミナー等による啓発 ○出前講座等の実施 ○女性相談や法律相談、カウンセリングの実施
	達成度		
	計画目標に向かって概ね順調		

歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		11,621	15,341	15,824	17,262	1,921
財源内訳	国・県支出金	1,517	1,653	1,653	1,757	104
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	10,104	13,688	14,171	15,505	1,817
歳入合計		11,621	15,341	15,824	17,262	1,921

課題	○第3次計画が終期を迎えるにあたり、男女共同参画にかかる施策をさらに推し進めるために次期計画の策定が必要である。 ○性別による固定的役割分担意識の解消や、あらゆる暴力の根絶など男女共同参画社会を実現するためには、幼少期から各年代に応じたきめ細やかな教育や啓発活動を行う必要がある。 ○政策決定の場における女性の参画率が不十分である。	方向性	○市民意識調査や近年における社会情勢の変化、国、県等の動向を踏まえて次期計画を策定する。 ○地域ごとに選出されている男女共同参画サポーターと連携し、男女共同参画への意識浸透を図る。 ○DV等の啓発については、DV講座の開催などにあわせて相談機関・窓口の周知を行うなど、関係団体等と連携して啓発を行う。あわせて、中学生や高校生など若い世代への啓発活動を強化していく。
----	---	-----	---

市民部人権男女共同参画課

男女共同参画総務費、男女共同参画計画策定事業費、男女共同参画計画推進事業費、運営費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	男女共同参画の推進

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	出前講座	11月	女性に対する暴力をなくす運動期間事業
	通年	女性相談、法律相談、カウンセリング	3月	第4次計画の公表
	年4回	男女共同参画審議会		
	6月	男女共同参画週間事業		

本事業に関する主要データ

1 松江市男女共同参画推進条例(抜粋)

第9条 市は、男女共同参画社会基本法(平成11年法律第78号)第14条第3項の男女共同参画社会の形成の促進に関する施策についての基本的な計画を策定しなければならない。

2 令和7年度「男女共同参画に関する市民意識調査」

①調査対象 松江市内に在住する満18歳以上の市民から層化二段無作為抽出により2,000人を抽出

②調査期間 令和7年7月25日(金)～令和7年8月31日(日)

③調査方法 配布:郵送、回収:郵送又はインターネット回答

④回収結果 回収数:724件(総回収率36.2%)

3 第4次計画の策定スケジュール

4～11月 庁内連絡会議

7月 第1回審議会(諮問、審議)

9月 第2回審議会(審議)

11月 第3回審議会(素案審議(計画全体))

12月 パブリックコメント募集

1月 第4回審議会(計画案審議)

答申

3月 計画の公表

(参考)「松江市まちづくりのための市民アンケート調査」結果

同『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、あなたはどのように思いますか。

調査年度	①そう思う	②どちらかと言えばそう思う	③どちらかと言えばそう思わない	④そう思わない	⑤分からない
R7	10.5	15.4	66.6	4.5	3.0
R6	12.1	14.7	64.2	6.3	2.6
R5	11.5	18.2	61.6	6.1	2.6

■ ①そう思う
■ ②どちらかと言えばそう思う
■ ③どちらかと言えばそう思わない
■ ④そう思わない
■ ⑤分からない

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	7,030	委託料	3,654
職員手当等	2,443	使用料及び賃借料	189
共済費	1,572	負担金補助及び交付金	235
報償費	1,190		
旅費	282		
需用費	383		
役務費	284		
事業費計		17,262	

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
教育委員会発達・教育相談支援センター		特別支援教育支援員配置事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	通常の学級に在籍する児童生徒のうち、発達障がい等、学習や行動上特別な支援を必要とするこどもたちに対して、学校生活への適応や学習活動の充実を図る。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		交流学习計画授業時数の割合（％）	38.3	36.2	43	43	47
	目標（何を達成するのか）						
	①きめ細かな対応と校内支援体制の強化 ②学習意欲の維持・向上 ③不適応の未然防止						
事業概要 （数値目標の達成目標年度） 項目名 年間授業時数のうち特別支援学級と通常の学級の児童生徒の交流学习計画授業時数の割合【各年5月1日時点】：2029（R11）年度 ・通常の学級に在籍する児童生徒のうち、発達障がい等、学習や行動上特別な支援を必要とするこどもたちへの支援の充実のため「特別支援教育支援員」を配置する。 ・通常の学級において特別な支援を必要としている児童生徒は増加しており、校内の支援体制の確立とともに、担任を中心とした分かりやすい指導のもと、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行う。 ・事業開始：平成19年度							
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	・小学校20人、中学校7人、義務教育学校1人 計28人配置 ・週19時間以内の勤務 ・報酬@1,515円/時間 ・校外教育活動旅費：年間1,500円 ・研修：年3回 ・説明会：オンデマンドで全配置校参加 ・手引きの作成と活用 【評価】講座型・参加型の研修を通して、支援員としての心得や校内体制の在り方が定まり、児童生徒への支援の	・小中学校（義務教育学校含む）計28人配置 ・週19時間以内の勤務 ・報酬@1,515円/時間 ・校外教育活動旅費：年間1,500円 ・研修：年3回 ・説明会：オンデマンドで全配置校参加で実施		・通常の学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒数の増加と教育的ニーズの多様化が進んでおり、配置の必要な学校が増えているため、配置を拡充し基礎的環境整備を整える。 ・週19時間以内の勤務 ・研修：年3回			
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		37,199	44,042	43,048	46,035	1,993	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	37,199	44,042	43,048	46,035	1,993	
歳入合計		37,199	44,042	43,048	46,035	1,993	
課題	・特別な支援を必要とする児童生徒数は増加しており、特別支援教育支援員の配置を含め、人的な対応が必要なケースも多い。 ・校内支援体制の中での特別支援教育支援員の位置付けと、活用の在り方を明確にしていく必要がある。			・特別支援教育支援員の必要性やその効果について把握し、適正な配置の在り方を検討する。 ・校内支援体制を中心となって機能させる役割の教員（特別支援教育コーディネーター）との連携を強化し事業を進める。 ・一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実を図るために、個別の指導計画や個別の教育支援計画の利活用を進める。			
				方向性			

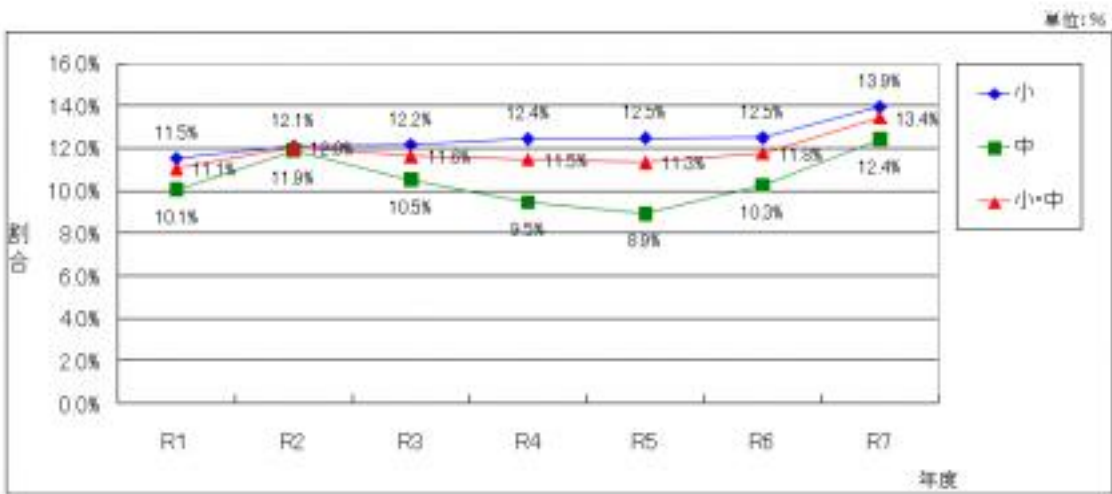
教育委員会発達・教育相談支援センター 特別支援教育支援員配置事業費

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	特別支援教育支援員配置事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	任用、説明会	8月～	次年度に向け配置の在り方等の検討
	5月	配置校から「活用に関する計画書」提出	3月	次年度配置校決定
	6、9、12月	研修、配置校訪問		
	7、12、2月	配置校から「支援状況報告書」提出		

本事業に関する主要データ

◇通常学級における特別な支援が必要な児童生徒の割合



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	32,240		
職員手当等	12,494		
共済費	139		
旅費	1,162		
事業費計			46,035

令和8年度 総合計画実施計画

所 属		事 業 名					
教育委員会生涯学習課		公民館管理費					
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標				
	公民館の適正な維持管理	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		公民館年間利用者数(人)	679,250	688,480	930,000	950,000	1,000,000
	目標（何を達成するのか）						
	社会教育施設並びに地域の拠点として住民にとって利用しやすい施設となるよう、必要な保守点検管理や修繕等を行う。また、地域を主体とする公民館運営を推進する。						
事業概要	(数値目標の達成目標年度) 項目名 公民館年間利用者数(人)：2029(R11)年度						
	指定管理制度により、地域に根ざした(地域特性やニーズに応じたきめ細かな)公民館運営を行う。 公民館の維持管理にかかる経費 [指定管理] 市内29公民館について、公設自主運営方式により、市からの指定管理料と地元費により運営する。						
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画		
	・市内29公民館を指定管理者制度により運営した。 ・優秀な人材を安定的に確保・育成するため、公民館職員の更なる処遇改善に向け、給与制度や休暇制度の改善について検討を行った。 【評価】地域特性やニーズに応じたきめ細かな公民館運営を実施することで、生涯学習、社会教育活動をはじめ、様々な地域活動拠点としての公民館の充実を図ることができた。		・市内29公民館を指定管理者制度により運営する。 ・R7年度の処遇改善の検討の結果、住宅手当の導入、扶養手当の拡充、休暇制度の充実を図る。		・市内29公民館を指定管理者制度により運営する。		
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8	
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
	事業費		700,384	714,160	726,387	753,760	39,600
	国・県支出金		0	0	0	0	0
	地方債		0	0	0	0	0
	その他		329	118	373	124	6
	一般財源		700,055	714,042	726,014	753,636	39,594
歳入合計		700,384	714,160	726,387	753,760	39,600	
課題	・建築後35年以上経過する公民館が8館あり、全体的に施設の老朽化が進行している。		方向性	・修繕については、緊急性等により優先順位をつけて随時実施する。 ・老朽化が進む施設については、改修や移転等について検討・調整を行う。 ・優秀な人材を安定的に確保・育成するため、引き続き公民館職員の処遇改善について検討を行う。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	公民館の管理

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	29公民館の管理運営		

本事業に関する主要データ

松江市公民館の設置状況

1. 指定管理者の管理する公民館（29公民館）

城東公民館／城北公民館／城西公民館／白湯公民館／朝日公民館／
 雑賀公民館／津田公民館／古志原公民館／川津公民館／朝酌公民館／
 法吉公民館／竹矢公民館／乃木公民館／忌部公民館／大庭公民館／
 生馬公民館／持田公民館／古江公民館／本庄公民館／大野公民館／
 秋鹿公民館／鹿島公民館／島根公民館／美保関公民館／八雲公民館／
 玉湯公民館／宍道公民館／八束公民館／東出雲公民館

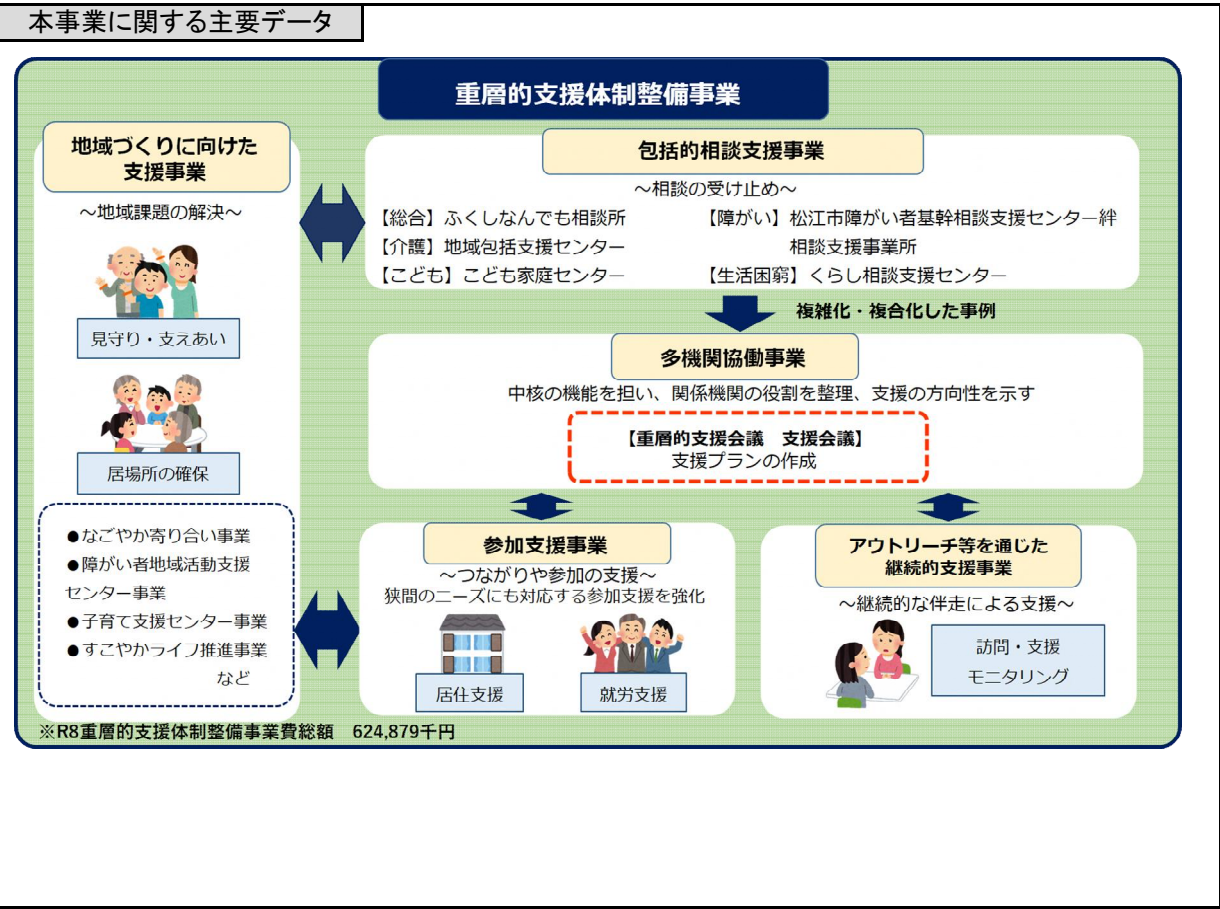
R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	5,043		
委託料	745,740		
使用料及び賃借料	1,462		
工事請負費	1,269		
負担金補助及び交付金	246		
事業費計			753,760

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
健康福祉部健康福祉総務課		重層的支援体制整備事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	制度・分野ごとの縦割りや支え手・受け手という関係を超えて、地域の住民や多様な主体が参画し、人や資源が世代や分野を超えてつながること、住民の暮らしと生きがい、地域を創る地域共生社会の実現を目指す。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
	目標（何を達成するのか）		ふくしなんでも相談所の設置数※サテライト含む	47	44	59	63	72
	複雑化・複合化した課題に的確に対応するための包括的・総合的な相談支援体制を構築する。 また、住民が主体的に地域課題を把握し、解決を試みることができる体制を構築する。							
事業概要	地域住民の複雑化、複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築に向けて、既存の分野別（介護、障がい、子ども、生活困窮）事業に、新たに分野横断的な取組みを加え「Ⅰ相談支援、Ⅱ参加支援、Ⅲ地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する。 分野別で行う既存の相談支援や地域づくりの取組みはそれぞれの事業で継続して予算化し実施する。 分野横断的な事業（本予算）は、これまでの地域共生モデル事業（H29～R2年度）の取組みを発展させ、複雑化した課題や制度の狭間の課題に対応するため、オーダーメイドの支援プランを作成する等、多機関が連携する体制の構築や支援を行う。 運営主体は、これまで様々な分野で相談支援等を担ってきた松江市社会福祉協議会へ委託。 [数値目標の目標年度]ふくしなんでも相談所の設置数：2029（R11）年度							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・複雑化・複合化してきている生活、福祉課題に対応するため、福祉や医療、司法等さまざまな関係機関と連携し、包括的な対応を進めた。 ・単独の相談支援機関では対応が難しい事例を重層的支援会議で支援の方向性を整理、プランを作成した。 ・必要な支援が届いていない方へのアウトリーチを継続して実施し、対象者のニーズに沿った支援に取り組んだ。 ・地区社協が行う住民主体の地域づくり事業への支援を実施した。		・引き続きあらゆる生活課題に対応するため、ふくしなんでも相談所を拡充するとともに、福祉や医療、司法等さまざまな関係機関と連携し、包括的な対応を進める。 ・単独の相談支援機関では対応が難しい事例は重層的支援会議で支援の方向性を整理、プランを作成する。 ・必要な支援が届いていない方へのアウトリーチを継続して実施し、対象者のニーズに沿った支援や居場所づくりを多機関が連携して行う。 ・地区社協が行う住民主体の地域づくり事業への支援を行う。		・引き続きあらゆる生活課題に対応するため、ふくしなんでも相談所を拡充するとともに、福祉や医療、司法等さまざまな関係機関と連携し、包括的な対応を進める。 ・複雑化・複合化した単独の相談支援機関では対応が難しい事例は重層的支援会議で支援の方向性を整理、プランを作成する。 ・必要な支援が届いていない方へのアウトリーチを継続して実施し、対象者のニーズに沿った支援や居場所づくりを多機関が連携して行う。 ・地区社協が行う住民主体の地域づくり事業への支援を行う。			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		32,834	36,682	36,682	36,705	23	
	国・県支出金		22,205	25,107	25,107	22,875	-2,232	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		10,629	11,575	11,575	13,830	2,255	
歳入合計		32,834	36,682	36,682	36,705	23		
課題	住民の抱える生活、福祉課題は複雑化、複合化してきている。そのニーズに対応するため、相談支援体制の強化を図る必要がある。 現在、地域包括支援センター等に「ふくしなんでも相談所」を開設しているが、住民がより身近な地域で相談できる体制をつくるとともに、複合的な課題について多機関と連携して支援を行っていく必要がある。		ふくしなんでも相談所を拡充するなど、住民のより身近なエリアでの相談支援体制の構築を目指すとともに、単独の支援機関では難しい複雑化した課題、既存の取組では対応できない狭間のニーズに対応し、多機関と連携して包括的な支援を行う。 また、引き続き、住民が主体的に地域課題を把握し、解決を試みることができる体制を維持していく。					
			方向性					

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	重層的支援体制整備事業(包括的な支援体制の整備)

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	ふくしなんでも相談所の運用・周知	通年	地域づくりに向けた支援事業の実施
	通年	多機関協働事業の実施		
	通年	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業の実施		
	通年	参加支援事業の実施		



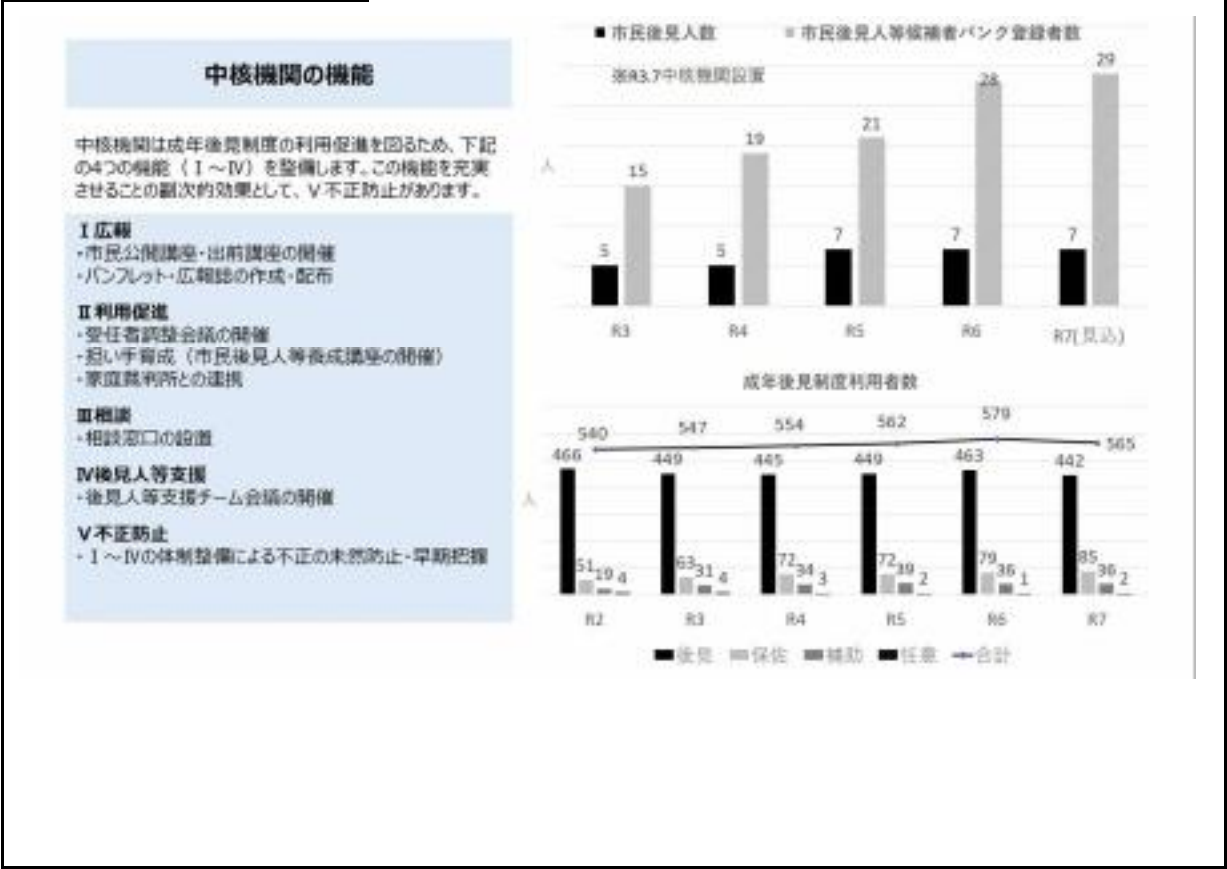
令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
健康福祉部健康福祉総務課		成年後見制度中核機関運営事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	認知症や知的障がい、精神障がいなどによって判断能力が十分でない人の権利を守り、財産管理はもとより身上保護や意思決定を支援するために、成年後見制度の利用を促進する。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			市民後見人数（人）	7	7	8	9	9
	目標（何を達成するのか）		市民後見人等候補者バンク登録者数(人)	28	29	30	31	31
	・成年後見制度の利用を必要とする方を早期に発見し、制度の利用へ繋げる。 ・成年後見制度の担い手となる市民後見人等の養成を行う。							
事業概要	成年後見制度の相談支援機関として設置した「松江市権利擁護推進センター」を中心に、制度利用の相談窓口や広報、受任者調整会議の開催や市民後見人等の育成・支援を実施する。また、司法・医療・福祉・行政等の関係者で構成する「地域連携ネットワーク」を構築し、本人を見守るチームを支援する。							
	（数値目標の目標年度） 市民後見人数(人): 2027年(R9年度) 市民後見人等候補者バンク登録者数(人): 2027年(R9年度)							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・市民後見人数 7人 ・市民後見人等候補者バンク登録者数 29人 ・「松江市セーフティネット会議権利擁護部会」を開催 令和7年7月、令和8年3月		・市民後見人数 8人 ・市民後見人等候補者バンク登録者数 30人 ・「松江市セーフティネット会議権利擁護部会」を開催 令和8年7月 令和9年2月（予定）		・市民後見人数 9人 ・市民後見人等候補者バンク登録者数 31人 ・「松江市セーフティネット会議権利擁護部会」を開催			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8			
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較		
事業費		8,751	9,855	9,855	9,990	135		
財源内訳	国・県支出金	6,046	6,893	6,893	6,913	20		
	地方債	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0		
	一般財源	2,705	2,962	2,962	3,077	115		
歳入合計		8,751	9,855	9,855	9,990	135		
課題	成年後見制度を必要とする方を早期に発見し、制度利用へ繋げるためには、関係機関と情報を共有し、連携して支援する必要がある。また、今後不足が見込まれる後見人等の担い手確保が課題となっている。 2026年に成年後見制度の見直しが予定されていることから、見直し後の制度を踏まえた利用促進の検討が必要である。		方向性	地域連携ネットワークの構築に向け、松江市セーフティネット会議権利擁護部会を活用して、関係機関との連携を強化する。また、広報・啓発活動を通して権利擁護支援の機運を高めるとともに、市民後見人等養成講座により、市民後見人等となる候補者の育成を促進する。 成年後見制度の見直しに向けた情報収集を行う。				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	重層的支援体制整備事業(包括的な支援体制の整備)

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	受任者調整会議	8月～9月	市民後見人等養成講座(基礎)
	通年	相談業務・後見人等支援	11月～12月	市民後見人等養成講座(実務)
	6月	成年後見制度講演会	2月	松江市セーフティーネット会議権利擁護部会
	7月	松江市セーフティーネット会議権利擁護部会		

本事業に関する主要データ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	9,990		
事業費計			9,990

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
健康福祉部家庭相談課		ひきこもり対策推進事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	ひきこもり対策を推進するための体制を整備し、ひきこもり状態にある本人の自律を促進し、本人及び家族等の福祉の推進を図る。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			来所・訪問相談（実人数）	57	65	70	70	70
			家族会開催数		1	2	3	2
	目標（何を達成するのか）		出前講座開催数	2	2	3	3	3
ひきこもりの相談窓口について周知していくとともに、専門相談を実施し、ひきこもり状態にある本人や家族等への早期支援を行い、自律へつなげる。								
事業概要	ひきこもり相談窓口を設置し、関係機関と連携しながらひきこもり支援を実施する。専任の相談員（公認心理師）を配置し、専門性の高い相談を実施するとともに、市民等のひきこもりに対する理解を深めるための出前講座を行う。 「ひきこもり支援ステーション事業」により、相談支援、居場所づくり、当事者会・家族会、ネットワークづくりを一体的に実施する。 (数値目標の目標年度) R8年度							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	【ひきこもり相談】 電話：280件 来所・訪問：65人(実人数)		【ひきこもり相談】 電話：270件 来所・訪問：70人(実人数)		【ひきこもり相談】 電話：270件 来所・訪問：70人(実人数)			
	【家族会】 開催数:1回 参加者数:5人		【家族会】 開催数:2回 参加者数:10人		【家族会】 開催数:3回 参加者数:15人			
	【出前講座】 開催数:2回 参加人数:40人		【出前講座】 開催数:3回 参加人数:60人		【出前講座】 開催数:3回 参加人数:60人			
	達成度							
計画目標に向けて進捗はやや遅れている								
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		3,779	4,576	4,763	4,753	177	
	国・県支出金		1,872	2,288	2,381	2,376	88	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		1,907	2,288	2,382	2,377	89	
歳入合計		3,779	4,576	4,763	4,753	177		
課題	・ひきこもりは家庭内の問題と捉えられたり、世間の目を気にして誰にも相談できないなどの理由から潜在化しやすく、実態把握を困難にするのみならず、本人や家族が地域社会から孤立してしまうことが課題。 ・ひきこもり当事者や家族一人ひとりの状況に応じた切れ目のないオーダーメイドの支援体制が必要。			方向性	・ひきこもりについて社会の誤解や偏見をなくし、相談しやすい環境づくりを進めていくため、出前講座等による啓発を行う。 ・公認心理師等による専門相談の継続。 ・本人が安心して過ごせる居場所の充実をはかるため、支援者のネットワークづくりについて重点的に取り組み、包括的な支援体制を強化する。 ・家族会の継続。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	重層的支援体制整備事業(包括的な支援体制の整備)

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	専門相談の実施	通年	支援者学習会の実施
	通年	出前講座の実施		
	通年	居場所づくりの推進		
	通年	家族会の実施		

本事業に関する主要データ

【ひきこもり相談実績】※

相談相談人数	R2	R3	R4	R5	R6
相談人数(人)	46	50	52	37	57

未所・訪問相談件数	R2	R3	R4	R5	R6
相談件数(件)	237	256	245	204	272

電話・メール相談件数	R2	R3	R4	R5	R6
件数(件)	224	133	157	146	195

年代別相談人数	R6	
	人数(人)	%
10歳代	6	11%
20歳代	14	25%
30歳代	9	16%
40歳代	16	28%
50歳以上	12	21%
合計	57	100%

出典:【ひきこもり相談実績】※

○R2年度～5年度はひきこもり相談の実績について(島根県立心と体の相談センター)
【注】実施相談人数の対象者は本人・家族、相談方法に未所・訪問のみ

○R6年度はひきこもり支援に関する相談件数(厚生労働省社会・援護局地域福祉課)
【注】実施相談人数の対象者は本人・家族・地域の方言、相談方法に未所・訪問及び電話・メールを含む

【出前講座実績】

出前講座開催状況	R2	R3	R4	R5	R6
開催数(回)	2	5	5	2	2
参加人数(人)	94	73	55	43	41

【関係機関】

県:ハローワーク、地域若者サポートステーション
市:心と体の相談センター、松江警察署
市:松江保健所、健康推進課、青少年支援センター、生活福祉課
その他:医療機関、市社会福祉協議会、相談支援事業所等

○数値目標について

R7年度から家族会の開催を目標とするため、未所・訪問相談(相談数)を家族会開催数に変更

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	2,530	委託料	100
職員手当等	974	使用料及び賃借料	49
共済費	629	負担金補助及び交付金	68
報償費	69		
旅費	186		
需用費	144		
役務費	4		
事業費計			4,753

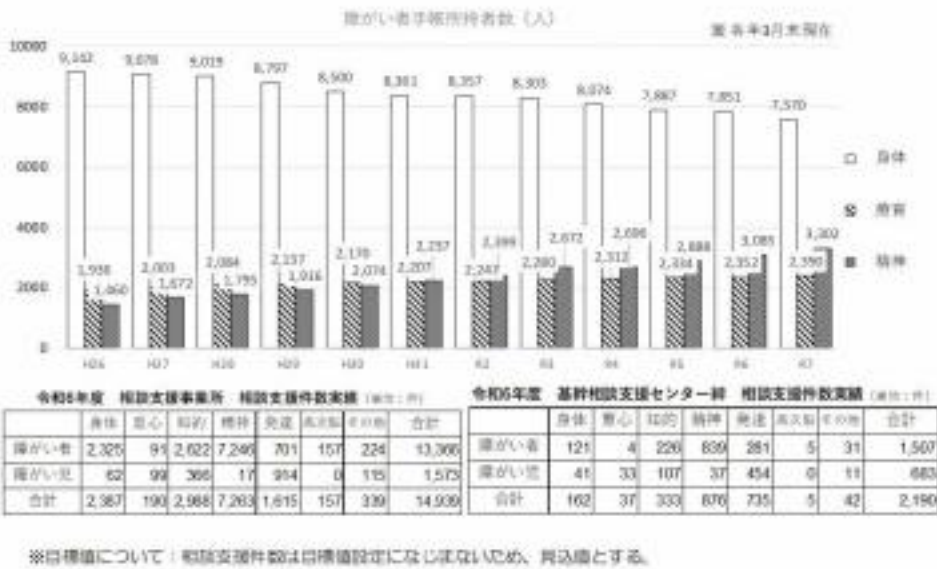
令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
健康福祉部障がい者福祉課		相談支援事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	在宅の障がい者の相談に応じ、必要な情報提供や関係機関との連絡調整等を図り、障がい者の地域生活を支援して自立と社会参加の促進を図る。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		基幹相談支援センター相談支援件数(件)	2,190	2,212	2,600	2,800	3,500
	目標（何を達成するのか）	相談支援件数(件)	14,939	13,918	16,000	16,700	18,000
	「松江市障がい者基幹相談支援センター絆」を総合窓口とし、併せて市内相談支援事業所に相談支援委託を行い、障がい者の相談に対応する。						
事業概要	障がい者等からの相談に応じて、必要な情報提供及び助言、その他障がい福祉サービスの利用支援などを行う。相談支援にあたっては、障がい種別等に応じた的確な支援が行えるよう、相談支援事業所を有する法人に委託して実施する。 【相談支援窓口】 ①松江市障がい者基幹相談支援センター絆（南田町55番地3） ※松江市基幹相談支援センター運営業務共同企業体に委託（構成団体（社福）四ツ葉福祉会、（社福）ねむの木福祉会） ②相談支援委託事業所（R6年度：19事業所） （負担割合 補助対象額に対して国1／2以内、県1／4） （数値目標の目標年度） ・項目名 基幹相談支援センター相談支援件数・市内相談支援事業所における相談支援件数：2029（R11）年度 ※相談支援件数は目標値設定になじまないため、見込値とする。						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画				
	○松江市障がい者基幹相談支援センター絆及び各相談支援事業所において、障がいのある方からの相談対応を行った。 ○「絆」と主任相談支援専門員配置加算を取得する相談支援事業所と協力して、他の相談支援事業所への助言、指導及び研修を行った。併せて相談支援事業所の連携体制維持にも取り組み、障がい者の相談に的確に対応できる体制を維持、確保ができた。 【絆相談支援件数】 2,600件	○松江市障がい者基幹相談支援センター絆及び各相談支援事業所において、障がいのある方からの相談対応を行う。 ○「絆」と主任相談支援専門員配置加算を取得する相談支援事業所が協力して、地域の相談支援事業所への助言、指導及び研修を行うことで相談支援の技術向上を行う。併せて相談支援事業所の連携体制維持にも継続して取り組み、障がい者の相談に的確に対応できる体制を確保する。 【絆相談支援件数】 2,600件 【各事業所相談支援件数】 16,000件（20事業所）	○松江市障がい者基幹相談支援センター絆及び各相談支援事業所において、障がいのある方からの相談対応を行う。 ○「絆」と主任相談支援専門員配置加算を取得する相談支援事業所が協力して、地域の相談支援事業所への助言、指導及び研修を行うことで相談支援の技術向上を行う。併せて相談支援事業所の連携体制維持にも継続して取り組み、障がい者の相談に的確に対応できる体制を確保する。 【絆相談支援件数】 2,700件 【各事業所相談支援件数】 17,000件（20事業所）				
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		51,709	49,077	49,077	48,102	-975	
財源内訳	国・県支出金	17,431	13,834	13,834	14,390	556	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	34,278	35,243	35,243	33,712	-1,531	
	歳入合計	51,709	49,077	49,077	48,102	-975	
課題	○障がいがある人が地域で安心して生活するための相談支援体制を構築しているが、安心感の維持、向上に向け、相談支援専門員等の支援技術の向上、体制に参画する相談支援事業所の確保などの体制維持及び強化の取り組みの継続を要する。		方向性 ○引き続き「松江市障がい者基幹相談支援センター絆」が相談支援の中核となり、主任相談支援専門員配置加算を取得する相談支援事業所、他の相談支援受託事業所と連携して、相談案件への対応、研修等を通じ、市内の相談支援体制の強化を行う。				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	重層的支援体制整備事業(包括的な支援体制の整備)

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	相談支援対応		
	随時	相談支援事業所への研修等支援		
	随時	市民向け公開講座の開催(絆主催)		
	月1回	絆、主任相談支援専門員、市との分科会運営会議		

本事業に関する主要データ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	48,102		
事業費計			48,102

令和8年度 総合計画実施計画

所 属		事 業 名						
健康福祉部生活福祉課		生活困窮者自立相談支援事業費(重層的支援体制整備事業)						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	生活に困窮している人に対し、生活保護に至る前の段階から早期に支援を行い、自立の促進を図るもの。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			新規相談件数（件）	552	530	450	450	450
	目標（何を達成するのか）		継続相談件数（件）	1,709	1,450	1,500	1,500	1,500
	生活に困窮している人が就労等により経済的、社会的に自立が可能となるよう支援するもの。							
事業概要	・生活困窮者自立相談支援事業(国庫負担率3／4(上限あり)、市負担率1／4) 松江市社会福祉協議会に「松江市くらし相談支援センター」を開設し、相談支援員を6名配置。生活困窮者に対する総合相談窓口として相談者の個別のニーズを把握し、必要な支援を行う。(松江市社会福祉協議会への委託事業)							
	(数値目標の目標年度) 新規相談件数2026(R8)年度、継続相談件数2026(R8)年度							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・相談件数 1,980件 新規相談件数 530件 継続相談件数 1,450件 ・プラン作成件数75 件 新規プラン作成件数 60件 継続プラン作成件数 15件 ・プラン終結件数 140件		・相談件数 1,950件 新規相談件数 450件 継続相談件数 1,500件 ・プラン作成件数 85件 新規プラン作成件数 65件 継続プラン作成件数 20件 ・プラン終結件数 40件		・相談件数 1,950件 新規相談件数 450件 継続相談件数 1,500件 ・プラン作成件数 85件 新規プラン作成件数 65件 継続プラン作成件数 20件 ・プラン終結件数 40件			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6		R7		R8	
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		42,664	43,259	46,231	46,906	3,647	
	国・県支出金		29,480	20,073	34,530	27,000	6,927	
	地方債		0	0		0	0	
	その他		0	0		0	0	
	一般財源		13,184	23,186	11,701	19,906	-3,280	
歳入合計		42,664	43,259	46,231	46,906	3,647		
課題	令和2年度をピークに相談件数は減少傾向にあるが、1件当たりに要する時間は増加している。これは、就労、住まい、社会的孤立などの複合的な課題を抱える相談者が増加し、課題の解決や改善に時間を要していることが起因している。 複合的な課題の解決にあたっては、支援員の高い技能や関係機関との連携が必要であるため、引き続き支援員の質の向上、関係機関との連携強化に努めていく必要がある。			方向性	松江市セーフティネット会議生活困窮部会を核として生活困窮者を取り巻く状況や課題を共有化することで、関係機関の連携を強化し、相談者が抱える課題が早期解決に至るよう、包括的・重層的な支援を行う。 また、複雑化する相談に対応できるよう、研修への積極的な参加等により従事する職員の質の向上に努める。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	重層的支援体制整備事業(包括的な支援体制の整備)

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4～3月	相談対応		
	7月	生活困窮部会		
	2月	生活困窮部会		

本事業に関する主要データ

自立相談支援事業の実施状況

【直近5年間の推移】

	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績
相談件数	3,812	3,776	3,199	2,773	2,261
うち新規相談件数	1,169	609	524	474	552
うち継続相談件数	2,643	3,167	2,675	2,299	1,709
新規プラン作成件数	170	101	98	86	51
継続プラン作成件数	46	16	16	5	3

R6年度各種支援利用件数の内訳 (重複あり)		
制度利用	住居確保給付金	15
	一時生活支援事業	9
	家計改善支援事業	13
	就労準備支援事業	10
	被保護者就労準備支援事業	8
	入居債務保証	17
	生活福祉資金	13
	民生融金貸付	29
	フードバンク	253
	生活保護受給者等就労自立促進事業	20
自立相談支援事業による就労支援	21	
引継・同行へ 他機関へ	ハローワーク同行・連絡調整	259
	法テラス	207
	サポート絆	30
	地域包括支援センター	536
	市窓口	882

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	2,228		
職員手当等	864		
共済費	513		
需用費	350		
委託料	42,951		
事業費計		46,906	

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
健康福祉部生活福祉課		自立相談支援機能強化事業費（アウトリーチ分）						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	生活困窮者自立相談支援機関のアウトリーチ等を充実することで、生活困窮者の社会的な自立を促す。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			新規相談件数（件）	32	100	80	80	80
	目標（何を達成するのか）		継続相談件数（件）	259	280	280	280	280
	ひきこもりなど社会的に孤立した生活困窮者を早期発見し、アウトリーチ支援を行うことで、就労による経済的自立や社会参加等による社会的な自立を目指す。							
事業概要	・生活困窮者自立支援の機能強化事業（国補助率3／4、市負担率1／4） 「松江市くらし相談支援センター」の機能を強化するため、アウトリーチ支援員を1名配置し、アウトリーチを主体に相談者の社会参加に向けたより丁寧な支援を行う。（松江市社会福祉協議会への委託事業）							
	（数値目標の目標年度） 新規相談件数2026（R8）年度、継続相談件数2026（R8）年度							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・相談件数 380件 新規相談件数 100件 継続相談件数 280件 ・プラン作成件数 18件 新規プラン作成件数 15件 継続プラン作成件数 3件		・相談件数 360件 新規相談件数 80件 継続相談件数 280件 ・プラン作成件数 12件 新規プラン作成件数 10件 継続プラン作成件数 2件 ・プラン終結件数 5件		・相談件数 360件 新規相談件数 80件 継続相談件数 280件 ・プラン作成件数 12件 新規プラン作成件数 10件 継続プラン作成件数 2件 ・プラン終結件数 5件			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		6,166	6,986	6,986	7,631	645	
	国・県支出金		4,624	5,239	5,239	5,723	484	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		1,542	1,747	1,747	1,908	161	
歳入合計		6,166	6,986	6,986	7,631	645		
課題	ひきこもりなどの社会的に孤立した生活困窮者を早期に発見し支援につなげていく必要があるが、支援することへの本人同意が中々得られない状況がある。 就労、社会的孤立及び対人関係などの複合的な課題を抱える人に対し、十分な支援が可能となるよう、相談支援員の更なる資質の向上が求められている。		方向性	関係団体・機関に本事業の周知を図るとともに、そのネットワークの活用により、生活困窮者を早期に発見し、相談者の課題に応じたきめ細やかで粘り強い支援を行う。 また、研修会等への参加を通じアウトリーチ支援員の更なるスキルアップを図る。				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	重層的支援体制整備事業(包括的な支援体制の整備)

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4～3月	相談対応		

本事業に関する主要データ
アウトリーチ支援とは 長期間の失業やひきこもりなどにより、社会的に孤立しているため、自ら相談機関に赴くことが困難な生活困窮者等に対し、家族や生活困窮以外の支援機関と連携して、訪問等による積極的な情報把握により早期に必要な支援につなぐことや、支援につながった後の集中的な支援を行う。 具体的なアウトリーチ支援の例 ①家族やケアマネジャーなどから相談があったケースについて、自宅に伺い、本人に接触するなど、初期のつながりを確保 ②つながりが出来た後の信頼関係の構築、関係機関への同行相談、就労支援といった、自立までの一貫した支援を実施

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	7,631		
事業費計			7,631

令和8年度 総合計画実施計画

所 属	事 業 名
健康福祉部健康福祉総務課	要配慮者支援推進事業費

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	高齢者や障がい者などの要配慮者が住みなれた地域でいつまでも安心・安全に暮らしていくために、平常時から、地域での「共助」「支え合い」の仕組みづくり（要配慮者支援組織の設置）を目的とするもの。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		世帯力バー率（％）	46.9	47.3	70	70	70
	目標（何を達成するのか）						
	要配慮支援組織世帯力バー率（※1）：70％ （※1）世帯力バー率：組織の活動範囲に含まれる世帯数／住基世帯数						
	数値目標の目標年度：R11（2029）年度						

事業概要	高齢者や障がい者などの要配慮者が住みなれた地域でいつまでも安心・安全に暮らしていけるよう、地域コミュニティ(共助)を活用した平時および災害時の支援体制構築を目的に、各地域の実情に応じた要配慮者支援組織の立ち上げ時および運営時に補助を行うもの。平成23年度より補助金交付要綱を定め、組織の設置を推進。
	○要配慮者支援組織への補助内容
	①要配慮者支援組織設置推進事業補助金:組織の設立時に10万円を上限に補助 ②要配慮者支援推進事業補助金:毎年の活動に対し、対象世帯数に応じて下記の金額を補助(いずれも補助上限額) 50世帯以下:30,000円、51世帯～100世帯:40,000円、101世帯～150世帯以下:60,000円、 151世帯～200世帯以下:80,000円、201世帯以上:100,000円

事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
	令和7年度世帯カバー率 47.3% ・新規設置組織数 5組織 ・設置組織数 221組織(解散により9組織減)	令和8年度 世帯カバー率70%	令和9年度 世帯カバー率70%
	達成度		
	計画目標に向け進捗は遅れている		

歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		10,803	11,865	10,334	11,429	-436
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	2,299	1,214	1,212	1,259	45
	一般財源	8,504	10,651	9,122	10,170	-481
歳入合計		10,803	11,865	10,334	11,429	-436

課題	・地域によって組織の設置状況が異なるため、設置が進んでいない地域へより積極的に事業の推進を図る必要がある。 ・高齢化や担い手不足等により、組織を立ち上げてはいるが実際の活動が維持できなくなっている地域があり、今後増加が懸念される	方向性 ・自主防災組織などの地域にある住民組織の役割も踏まえて、要配慮者支援組織の目的や役割を丁寧に説明する必要がある。引き続き出前講座や説明会を通じて、組織の設立・運営に対する補助制度や他地区の取組事例を紹介することで、組織の設置だけでなく、持続可能な組織の運営も支援していく。 ・より大きな範囲(例・公民館区を母体とする等)での組織設立を提案するなど、地域の実情に応じた働きかけをしていく。
----	---	---

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	要配慮者支援推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	説明会等による組織拡大の取り組み		

本事業に関する主要データ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
役務費	86		
負担金補助及び交付金	11,343		
事業費計			11,429

令和8年度 総合計画実施計画

所 属		事 業 名						
健康福祉部健康福祉総務課		松江市まめなかポイント事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	高齢者自身の社会参加活動を通じた介護予防の促進と活躍の場の拡大および地域活動・ボランティア活動の推進を行うことを目的とするもの。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			ボランティア登録者数(人)	117	115	300	300	300
	目標（何を達成するのか）							
	地域活動・ボランティア活動に参加する個人および団体登録数を増加させる。							
事業概要	松江市まめなかポイント事業は、平成29年5月より、介護保険制度の総合事業の一般介護予防事業の一つとして、松江市社会福祉協議会に委託し事業を開始。 次の①、②の活動につき換金可能なポイントを付与することにより、介護予防意識の高揚、元気高齢者の社会参加につなげるもの。 ①65歳以上の市民がボランティア受入施設(社会福祉施設等)においてボランティア活動を行った場合に、その個人へポイントを付与する。 ②なごやか寄り合い事業を実施する団体のうち、まめなかポイント事業に登録した団体へ1回の活動につきポイントを付与する。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	・個人登録者数 115人(新規15名) ・団体登録者数 200団体(新規5団体)		・個人登録者数 300人		・個人登録者数 300人			
	達成度							
		計画目標に向け進捗は遅れている						
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		4,771	7,047	7,047	7,147	100	
	国・県支出金		1,790	2,643	2,643	2,681	38	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		2,981	4,404	4,404	4,466	62	
	一般財源		0	0	0	0	0	
歳入合計		4,771	7,047	7,047	7,147	100		
課題	受入施設の新規開拓が十分に進んでいないこと、活動者が受入施設の情報を把握しにくいこと等の理由から、個人登録者数が大幅な増となっていない。		方向性	ボランティアの受入施設拡充に向けた取組みを推進するとともに、活動者の実態調査、事業の効果的な情報発信の工夫等を行うことで、ボランティアへ参加しやすい環境の構築をすすめ、登録者数の増加をめざす。				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	ボランティアポイント事業（ボランティア活動に参加しやすいまちづくり）

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	新規登録者の申込受付		
	通年	社会福祉施設等への事業周知による受入施設の拡充		
	通年	幅広い事業PR活動の実施		

本事業に関する主要データ

まめなかポイント ボランティア登録者推移

	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	目標値
個人登録者(人)	95	98	97	96	108	117	300
ポイント交換者(人)	70	38	4	7	17	24	*
交換額(円)	270,000	109,000	11,800	27,100	59,800	77,600	*

※ポイント交換上限 年間5,000円

	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
団体(件)	220	222	208	206	202	207
ポイント交換団体(件)	212	150	153	162	178	181
交換額(円)	1,580,000	723,000	846,000	992,000	1,271,000	1,308,000

※団体はなごやが寄り合い、ポイント交換上限 年間10,000円

交換総計	1,850,000	832,000	857,800	1,019,100	1,330,800	1,385,600
------	-----------	---------	---------	-----------	-----------	-----------

1.登録状況について
令和7年度実績(見込) 116人

2.ボランティアポイント制度について
(1)ポイント制
①無入会費でのボランティア活動(個人)
1時間あたり100ポイント(=100円)付与 ※1日の上限200ポイント、年間上限5,000ポイント
②なごやが寄り合い活動(団体)
なごやが寄り合い事業を実施した場合、1回あたり1,000ポイント(=1,000円)付与
※年間上限10,000ポイント
(2)ポイントの交換
年度末3月末に換金

3.受入施設での主なボランティア活動内容
・衣類のため、仕分け・洗濯物の仕分け・行事の補助・健康指導・話し相手・レクリエーション
・コーラス・春と時の補助・園芸・お料理の相手 など

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	7,147		
事業費計			7,147

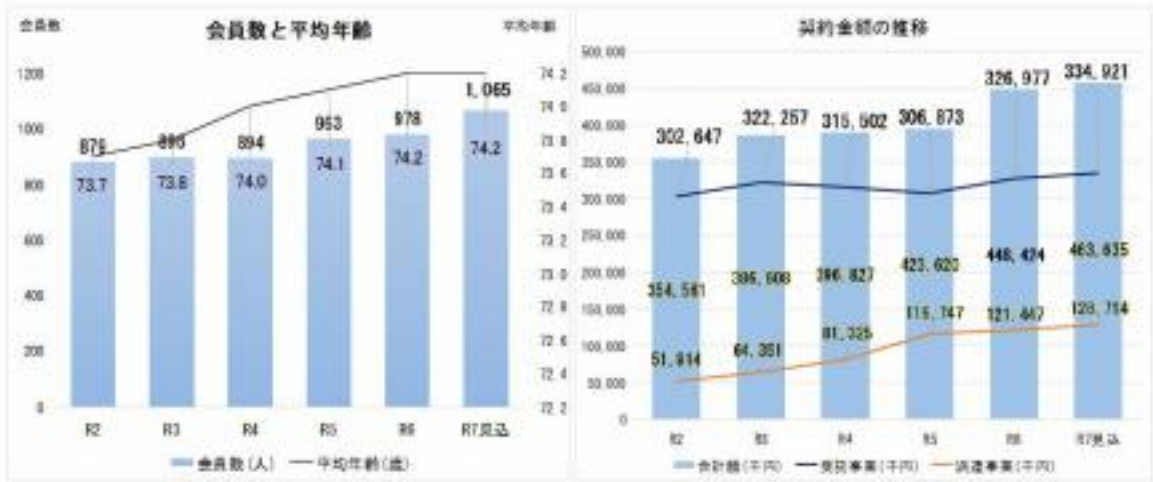
令和8年度 総合計画実施計画

所 属		事 業 名						
健康福祉部健康福祉総務課		シルバー人材センター運営費補助金						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	定年退職後等の高齢者に対し、自己の経験や知識を活かした仕事を提供し、生きがい充実や社会参加の促進を図る。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			シルバー人材センター加入者数（人）	978	1,065	1,100	1,155	1,155
			受託事業契約金額（千円）	326,978	334,921	341,620	348,452	348,452
	目標（何を達成するのか）		派遣事業契約金額（千円）	121,447	128,714	135,149	141,907	141,907
高齢者の生きがいづくり、社会参加の機会提供								
事業概要	定年退職後等において、臨時的な就業を通して自己の経験や知識を活かし、自らの生きがいの充実または社会参加を希望する高齢者に対して就業機会を確保し、高齢者福祉の向上を図るためにシルバー人材センターの運営費を補助する。根拠法令等「松江市高齢者就業機会確保事業費等補助金交付要綱」							
	（数値目標の目標年度） シルバー人材センター加入者数（人）、受託事業契約金額（千円）、派遣事業契約金額（千円）：2027(R9)年度（第六次中期事業計画（公益社団法人松江市シルバー人材センター作成、計画期間は令和5年度から令和9年度）における目標値）							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	補助金交付額 27,023千円 会員数 1,065人 受託事業契約金額 334,921千円 派遣事業契約金額 128,714千円		補助金交付予定額 28,163千円 会員数 1,100人 受託事業契約金額 341,620千円 派遣事業契約金額 135,149千円		補助金交付予定額 令和8年11月末の事業実績に基づき算定するため未定 会員数 1,155人 受託事業契約金額 348,452千円 派遣事業契約金額 141,907千円			
	達成度							
	計画目標に向かって概ね順調							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		28,456	31,816	27,662	28,807	-3,009	
	国・県支出金		0	0	0	0	0	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		604	639	639	644	5	
	一般財源		27,852	31,177	27,023	28,163	-3,014	
歳入合計		28,456	31,816	27,662	28,807	-3,009		
課題	高齢者にふさわしい仕事を受注し、会員の希望や能力に応じた仕事を提供するためには、企業等のニーズ把握や人材マッチングを効果的に行う必要がある。		就業先や新規事業等の開拓、人材マッチング等を行うコーディネーターを配置し、就業機会の拡充を図る。 また、web入会システムや会員専用ホームページの利用拡大により情報伝達のデジタル化をはかり、業務効率化をすすめる。 また、会員のデジタル化対応を支援するため、スマホ教室等を開催する。					
			方向性					

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	高齢者や障がい者の活躍の場推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月	補助金交付申請		
	5月	補助金交付		
	3月～	清算・実績報告		

本事業に関する主要データ



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
負担金補助及び交付金	28,807		
事業費計			28,807

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
健康福祉部健康福祉総務課		高齢者バス割引乗車事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	高齢者の路線バス運賃の一部を市が負担することで、高齢者の積極的な社会参加を促進するとともに、健康と福祉の増進を図る。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		延べ利用者数（人）	300,868	288,834	293,078	304,920	340,000
	目標（何を達成するのか）						
	高齢者の外出増加・社会参加の促進						
事業概要	高齢者福祉の向上を図るため、松江市内の路線バスに乗車した70歳以上の高齢者に対して利用運賃の一部（乗車1回につき120円）を助成する。 （数値目標の目標年度） 延べ利用者数（人）：2026（R8）年度						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	運賃の100円割引制度を継続実施した。利用実績はやや減少した。 制度の周知を図るため、70歳到達市民へ割引制度のお知らせハガキの送付を開始した。 延べ利用者数 288,834 人	路線バスの運賃改定に伴い、割引金額を120円に変更する。 制度の周知を図るため、70歳、及び80歳到達市民へ割引制度のお知らせハガキを送付する。 延べ利用者見込数 293,078人		運賃の120円割引制度を継続実施する。			
	達成度						
	計画目標に向けて進捗はやや遅れている						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		30,403	32,798	30,053	35,953	3,155	
財源内訳	国・県支出金	0	21,000	21,000	26,861	5,861	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	30,403	11,798	9,053	9,092	-2,706	
歳入合計		30,403	32,798	30,053	35,953	3,155	
課題	高齢者優待ICOCAによる割引制度では、利用者自身がバス事業者窓口で発行手続きを行う必要があることから、広報を通じてICカードの利便性などを周知するとともに、割引制度の認知度を高め、利用促進を図る必要がある。		方向性 高齢者優待ICOCAを利用した割引制度の利用促進を図るため、市報やHPへの掲載、市役所庁内モニターでの放送、チラシの配布等の他、満70歳、及び、免許返納を検討する方が増加する時期である80歳到達市民に向けて、個別のお知らせハガキを送付する等、対象者へ広く周知する。				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	高齢者や障がい者の活躍の場推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	満70歳以上の高齢者への路線バス運賃の120円割引		

本事業に関する主要データ



	R2	R3	R4	R5	R6	R7(見込)
高齢者バス割引利用者数(人)	338,192	331,307	314,907	323,531	300,868	288,834
70歳以上人口(人)	46,256	47,152	47,558	47,632	47,723	47,727

※70歳以上人口は、松江市政策統計システムより(各年9月末現在)

◇高齢者優待 ICocaについて◇

満 70 歳以上の松江市民に市内の路線バス(市営バス・国バス)の乗車運賃が 100 円割引になる機能を付与した ICoca を発行。

<対象路線>

松江市営バス・国バスが運行する市内の路線バス(コミュニティバス・レイクライン・陸域汽船接続バス・空海連絡バス・高速バスは割引対象外)

<発行額値>

2,000 円 (デビット・クレジットカード1500 円とチャージ(入金)1,500 円)

<発行窓口>

松江市交通局・松江テルサ(2 階事務用)・一畑バス松江駅前チケットセンター(松江テルサ別館 1 階)

<発行方法>

発行窓口で「氏名」「生年月日」「住所」の記載された公的証明書を提示。

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	43		
役務費	740		
負担金補助及び交付金	35,170		
事業費計			35,953

令和8年度 総合計画実施計画

所属	事業名
健康福祉部障がい者福祉課	総合支援法施行事務費

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	障がいのある方が、社会の中で就労し自分らしく活躍できるよう体制を整える。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		障がい者雇用率（松江）	2.73	2.74	2.83	2.85	2.9
	目標（何を達成するのか）	障がい者雇用率（松江）	65.2	68	68.5	69	70
	求職者の適性にあった就労を、関係機関と連携して支援する。						

事業概要	○障がいのある方が社会で活躍できるよう、市独自の就労支援策の検討を行う。なお、関係機関との役割整理、意見聴取、調査等を踏まえ制度を具体化する。 ①ハローワークなどの就労支援機関と連携し、本人の特性、能力に合った就労の増、また就労定着が図れる支援策の検討。 ②障がい者雇用が増えるよう企業等への啓発を行う。 ③就労を希望する障がいのある人への支援の強化として導入された「就労選択支援」を含めた障がい福祉サービス等について、市内就労支援機関とともに松江市社会福祉審議会障がい者福祉専門分科会の下部会議として「就労アセスメントワーキングチーム」を設置し、効果的な支援方法を検討する。 (数値目標の目標年度) 項目名:障がい者雇用率(松江)及び障がい者雇用率達成事業所割合(松江):2029(R11)年度

事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
	○「就労アセスメントワーキングチーム」を開催し、新制度の円滑な導入と運用に向け、市内事業所へのフォロー方策の検討や情報共有などを継続して行う。 ○労働局の合同面接会に協力するとともに、一般・福祉事業所の意見交換会を開催し、支援機関等との連携を深めながら、障がい者雇用増に取り組む。	○「就労アセスメントワーキングチーム」を開催し、新制度の円滑な導入と運用に向け、市内事業所へのフォロー方策の検討や情報共有などを継続して行う。 ○労働局の合同面接会に協力するとともに、一般・福祉事業所の意見交換会を開催し、支援機関等との連携を深めながら、障がい者雇用増に取り組む。	○「就労アセスメントワーキングチーム」を継続して開催し、就労選択支援事業所のアセスメントケースに係る助言を行うとともに、運用の中立性を確認し、本人の適正や希望に沿った適切な支援を確保する。 ○労働局の合同面接会に協力するとともに、一般・福祉事業所の意見交換会を開催し、支援機関等との連携を深めながら、障がい者雇用増に取り組む。
	達成度		
	計画目標に向かって概ね順調		

歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		17,345	17,016		18,838	1,822
財源内訳	国・県支出金	0	0		0	0
	地方債	0	0		0	0
	その他	0	0		0	0
	一般財源	17,345	17,016	0	18,838	1,822
歳入合計		17,345	17,016		18,838	1,822

課題	○国による障がい雇用に係る法定雇用率の段階的引き上げに伴い、一層の障がい者雇用が求められる状況である。
	○「就労アセスメントワーキングチーム」を継続することにより、障がい者の適性や希望に応じた就労への支援を強化する。 ○国等と連携し、就労マッチングに資する取組みとして、合同面接会、一般・福祉事業所との意見交換会などを実施する。
	方向性

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	高齢者や障がいの者の活躍の場推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	就労アセスメントワーキングチームの開催		
	9月	一般・福祉事業所の意見交換会（島根労働局と共催）		

本事業に関する主要データ

◆ハローワーク松江管内の状況 ※令和5年5月3日時点

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
雇用義務事業所数	208	204	211	213	238	231	238	249	247	248	258
雇用率達成企業数	113	120	125	131	145	152	156	163	164	172	174
達成割合	53.1%	57.4%	59.2%	61.5%	61.7%	65.8%	65.5%	65.5%	66.4%	69.9%	67.4%
未達成企業のうち 1人不足する企業数	66	63	63	64	68	57	66	60	67	61	65
雇用障がい者数	605	719.5	714	710	821	818.5	881	913.5	886.5	929.5	967.5
雇用率	2.86%	2.09%	2.10%	2.06%	2.33%	2.32%	2.40%	2.59%	2.57%	2.72%	2.81%
法定雇用率（民間企業）	2.0%				2.2%			2.3%			2.5%
障がい者雇用義務事業所	従業員50人				従業員45.5人			従業員43.5人			従業員40人以上
有効求職者（月平均）	418	438	508	584	556	664	818	990	1,039	1,203	1,322
求職期間（月平均）	22	26	26	26	30	30	20	27	26	30	28

※出典資料：障害者雇用状況調査結果の概要（厚生労働省労働政策評価課安全部）、企業内障害者安全統計速報（厚生労働省労働政策評価課安全部）

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	2,403		
職員手当等	810		
共済費	475		
需用費	879		
役務費	936		
委託料	13,243		
負担金補助及び交付金	92		
事業費計			18,838

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
健康福祉部障がい者福祉課		障がい差別のない共生社会推進事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	障がいの有無に関わらず、「誰もが住みよい共生社会のまち 松江」の実現を図るもの。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		出前講座・研修 累計参加者数（H28～）	17,883	20,418	22,818	23,000	23,000
	目標（何を達成するのか）						
	共生社会の実現には、障がい特性や合理的配慮に係る理解の推進の取組みが重要であり、より多くの市民に研修会や出前講座に参加していただくもの。						
事業概要		○「松江市障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり条例」の施行（平成28年10月1日）を契機として、障がいのある人への合理的配慮や障がいの特性等についての理解を促進するために、関係機関や当事者の方と連携して、講座や研修を開催するとともに、障がい者の雇用や配慮等に理解のある事業所・団体の表彰等を継続して実施していくことで「住みよい共生社会の実現」を図るもの。 ○「松江市手話言語条例」（施行 令和6年12月20日）に基づき、手話への理解、普及に取り組み、障がい理解の推進及び共生社会の実現を図る。 （数値目標の目標年度） 項目名：出前講座・研修累計参加者数：2026（R8）年度 ※「松江市障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり条例」について、この資料では略称「松江市障がい者差別解消条例」と表記する。					
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	○障がい理解や合理的配慮等について市報等を活用し周知啓発を実施。 ○団体、事業所、学校等で障がい理解や手話の出前講座を実施。 ○松江市障がい者差別解消条例に基づく表彰を実施。（企業1団体） ○松江市手話言語条例に基づき、初心者、こども向け手話教室を開催。 【出前講座（手話も含む）】 44回 延1,355人 【あいサポート】 31回 延1,180人	○障がい理解、合理的配慮、手話等について市報等を活用し周知啓発を行う。 ○団体、事業所、学校等で障がい理解や手話の出前講座を実施する。 ○手話の初心者やこども向けの手話教室を開催する。 ○障がい理解、差別解消などの取組みが優れている団体、個人を表彰する。 【出前講座（手話も含む）】 35回 延1,200人 【あいサポート】 35回 延1,200人		○障がい理解、合理的配慮、手話等について市報等を活用し周知啓発を行う。 ○団体、事業所、学校等で障がい理解や手話の出前講座を実施する。 ○手話の初心者やこども向けの手話教室を開催する。 ○障がい理解、差別解消などの取組みが優れている団体、個人を表彰する。 【出前講座（手話も含む）】 40回 延1,300人 【あいサポート】 40回 延1,300人			
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位：千円)	R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費	204	897	948	1,370	473	
	国・県支出金	32	423	438	597	174	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
財源内訳	一般財源	172	474	510	773	299	
	歳入合計	204	897	948	1,370	473	
課題		○障がいのある人に対する「不当な差別的取扱いの禁止」や「合理的配慮の提供」について、未だ十分な意識の醸成が図られてない。より多くの人に障がい理解や差別解消について周知啓発を図り、考える機会を作る必要がある。 ○「事業者による合理的配慮の提供の義務化」の浸透は十分ではない。 ○松江市手話言語条例に係る市民の認知は十分ではない。					
方向性		○引き続き、障がい者支援機関や当事者団体と連携して、市民、企業、学校等へ障がい理解や差別解消の普及啓発を図る。併せて、「事業者による合理的配慮の提供が義務化」の周知を継続する。 ○松江市手話言語条例について、市報、手話教室などを通じ周知を継続する。					

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	出前講座		
	11月	障がい者差別解消推進委員会の開催		
	12月	障がい者週間における周知啓発及び表彰		
	実施時期調整中	初心者・子ども向け手話教室		

本事業に関する主要データ

- 松江市障がい者差別解消推進委員会(設置根拠:松江市障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり条例 平成28年10月1日施行)
- ・差別解消や障がい理解の取り組みについての審議
 - ・差別事案の調査審議
 - ・合理的配慮や障がい理解推進に優れた事業所、団体の選考
 - ・委員(10名)
- 弁護士会、松江市身障者福祉協会、手をつなぐ育成会、松江地区精神障がい者家族会連絡協議会、島根大学、人権擁護委員協議会、医師会、公共職業安定所、特別支援学校、相談支援事業所
- あいサポーター研修(平成23年度～ 実施主体:島根県 委託先:島根県社会福祉協議会)
- 誰もが、多様な障がいの特性や障がいのある方の困りごと、障がいのある方への必要な配慮などを理解し、そして必要な時にちょっとした手助けができる”やさしくて温かい地域社会づくり”を目指し、島根県社会福祉協議会が県内の市町村社会福祉協議会と協力して「あいサポート運動」に取り組んでいる。「あいサポーター研修」は、この運動を進めていく人材の養成を目的とするもの。なお、子ども向けの研修も開催されている。
- 手話言語条例とは
- 「手話が言語である」との認識に基づき、手話言語の理解並びに普及及び地域において手話言語を使用しやすい環境の構築に関し、基本理念を定め、市及び市民等の役割を明らかにするとともに、総合的かつ計画的に施策を推進し、ろう者とう者以外の者が共生することができる地域社会を実現することを目的として制定する条例。

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報酬	195		
報償費	26		
需用費	854		
委託料	285		
負担金補助及び交付金	10		
事業費計			1,370

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
健康福祉部障がい者福祉課		手話奉仕員等派遣事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	聴覚障がい者のコミュニケーションを支援し、社会参加の促進を図る。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		手話奉仕員等派遣件数(件)	1,352	2,048	2,500	2,500	
	目標（何を達成するのか）						
	聴覚障がい者の申請に応じて、病院受診・学校行事・介護施設の利用などに、手話通訳者・要約筆記者等を派遣する。						
事業概要	・市内在住の手話通訳者、手話奉仕員、要約筆記者及び要約筆記奉仕員を名簿登録し、聴覚障がい者等の要請に応じて、調整及び派遣を行い、聴覚障がい者のコミュニケーションを支援する。 （松江市コミュニケーション支援事業実施要綱：平成18年4月～） （負担割合 国1／2以内、県1／4）						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画				
	○聴覚障がい者の要請に応じ、手話通訳者・手話奉仕員・要約筆記者・要約筆記奉仕員を派遣し、聴覚障がい者のコミュニケーションを支援した。 【全体派遣件数】 2,048件 【手話通訳者及び手話奉仕員の登録者数】 114人	○引き続き、聴覚障がい者の要請に応じ、手話通訳者・手話奉仕員・要約筆記者・要約筆記奉仕員を派遣し、聴覚障がい者のコミュニケーションを支援する。 【全体派遣件数（見込み）】 2,500件 【手話通訳者及び手話奉仕員の登録者数】 129人	○引き続き、聴覚障がい者の要請に応じ、手話通訳者・手話奉仕員・要約筆記者・要約筆記奉仕員を派遣し、聴覚障がい者のコミュニケーションを支援する。 【全体派遣件数】 2,600件 【手話通訳者及び手話奉仕員の登録者数】 141人				
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		4,618	5,569	5,569	5,214	-355	
財源内訳	国・県支出金	2,387	2,856	2,856	2,695	-161	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	2,231	2,713	2,713	2,519	-194	
	歳入合計	4,618	5,569	5,569	5,214	-355	
課題	○派遣体制維持のために、実働可能な手話奉仕員・通訳者を確保していくことが継続的な課題である。			○引き続き、手話奉仕員養成講座・手話通訳者養成研修を開催し、登録者を確保及び増を図る。			
				方向性			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	聴覚障がい者からの要請に応じ手話奉仕員等を派遣		

本事業に関する主要データ

○手話奉仕員等派遣件数の推移

年度	件数 [件]	登録者数 手話奉仕員・通訳者
平成27年度	1,763	135人
28年度	1,564	138人
29年度	1,861	148人
30年度	1,747	152人
令和1年度	1,779	99人
2年度	1,585	109人
3年度	1,530	102人
4年度	1,383	109人
5年度	1,402	117人
6年度	1,352	99人
7年度 (見込)	1,400	114人

※市役所における手話通訳職員は配置人数4人（令和7年度）

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	10		
役務費	5,204		
事業費計			5,214

令和8年度 総合計画実施計画

所属	事業名
健康福祉部障がい者福祉課	失語症者向け意思疎通支援者派遣事業費

事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	失語症者向け意思疎通支援者（以下「支援者」）を派遣し、失語症者のコミュニケーションを支援することで孤立を防ぐとともに、自立した日常生活または社会生活を営むことができるようする。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		支援者の実参加人数（人）	12	12	12	22	30
		個人派遣件数（件）	7	4	7	18	48
		支援者が失語症者の外出等に行き、コミュニケーションを支援する体制を整える。 一人でも多くの失語症者を本事業の利用につなげる。	団体派遣件数（件）	20	21	25	25

事業概要	○失語症者のコミュニケーションを支援するため、養成事業を修了した支援者を失語症者個人や団体の要望に応じて派遣する。 ○支援者派遣の拠点となる松江市失語症者支援センター(松江テルサ別館2階)において、駐在する言語聴覚士が派遣等に関する相談に対応し、また支援者派遣のコーディネートを行う。 ○失語症者向けの集い(失語症サロン)を開催し、当事者の会話支援として支援者を派遣する。 (委託先)一般社団法人 山陰言語聴覚士協会 (数値目標の目標年度)
	項目名 支援者の実参加人数・個人派遣件数・団体派遣件数:2029(R11)年度

事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画	R9計画
	○松江市失語症者支援センターにおいて、個人・団体向けの支援者派遣の調整を行い、支援者を派遣した。 ○松江テルサで失語症者向けの集いを開催し、支援者等の同席のもと当事者の自由な会話の場を設定した。 ○事業利用者の拡大に向け、広報及び啓発活動を行った。(市報掲載、介護保険事業所への説明等) 【支援者の実参加人数】12人 【派遣件数】個人7件、団体26件	○引き続き、松江市失語症者支援センターにおいて、個人・団体向けの支援者派遣の調整を行い、支援者を派遣する。 ○失語症者向けの集いを継続して開催し、当事者による社会参加のきっかけとする。 ○派遣活動を通じて、支援者の支援技術の維持を図る。 ○事業利用者の拡大に向け、継続して広報及び啓発活動を行う。 【支援者の実参加人数】12人 【派遣件数】個人15件、団体30件	○引き続き、松江市失語症者支援センターにおいて、個人・団体向けの支援者派遣の調整を行い、支援者を派遣する。 ○失語症者向けの集いを継続して開催し、当事者による社会参加のきっかけとする。 ○派遣活動を通じて、支援者の支援技術の維持を図る。 ○事業利用者の拡大に向け、継続して広報及び啓発活動を行う。 【支援者の実参加人数】12人 【派遣件数】個人15件、団体30件
	達成度		
	計画目標に向けて進捗はやや遅れている		

歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6	R7		R8	
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較
事業費		8,527	9,766	10,066	9,766	0
財 源 内 訳	国・県支出金	4,409	5,009	5,163	5,048	39
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	4,118	4,757	4,903	4,718	-39
歳入合計		8,527	9,766	10,066	9,766	0

課題	方向性
-----------	------------

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	個人・団体に対し支援者を派遣		
	2か月毎	失語症者向けの集い(失語症サロン)開催		
	随時	失語症並びに支援者派遣事業の周知、啓発を実施		

本事業に関する主要データ

失語症者向け意思疎通支援者派遣事業 実績					
派遣区分	項 目	R4年度(※)	R5年度	R6年度	R7年度(見込み)
個人派遣	派遣件数	2件	9件	7件	15件
	支援者延べ人数	2人	9人	7人	15人
	同行ST延べ人数	1人	6人	7人	15人
団体派遣 (失語症サロン除く)	派遣件数	3件	16件	20件	24件
	支援者延べ人数	9人	46人	60人	68人
	同行ST延べ人数	4人	25人	31人	35人
団体派遣 (失語症サロンのみ)	派遣件数	2件	6件	6件	6件
	当事者・家族延べ人数	28人	85人	85人	90人
	支援者延べ人数	8人	29人	28人	30人
	同行ST延べ人数	13人	33人	35人	35人
(※)R4年12月23日にセンター開設					

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
委託料	9,766		
事業費計		9,766	

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
健康福祉部障がい者福祉課		通院交通費等助成事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	重度の障がいのある人の通院にかかる自己負担を軽減することで、早期受診を促すとともに、治療の継続につなげ病状重症化の防止を図るもの。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			タクシー利用券交付人数(人)	1,038	952	963	963	965
	目標（何を達成するのか）							
	通院等に利用できるタクシー券の配付や、人工透析のための通院（自家用車又は公共交通）費用の助成を行うことにより、在宅の重度障がい者の交通費の負担を軽減し、通院しやすくするもの。							
事業概要	【タクシー利用券交付】（松江市タクシー利用料助成事業：平成17年4月～※旧市制度は平成2年6月～） 対象者：在宅で生活する 身体1・2級、療育A、精神1級 のいずれかの手帳を所持する方 助成内容：タクシー券1冊（最大36,000円分。申請受付月から年度末までの月数×6枚×500円分）を交付する。 ※じん臓機能障害1級の手帳を所持する人工透析患者の方には割増交付を行う							
	【人工透析通院費助成】（松江市人工透析患者通院費助成：平成18年4月～） 対象者：じん臓機能障害1級の手帳を所持する人工透析患者の方で、自宅等から医療機関まで直線距離で5km以上ある方 助成内容：①自家用車による通院の場合：通院1回あたり500円、1月あたり最大2,000円を助成する。 ②公共交通機関による通院の場合：障がい者割引後運賃の半額を助成する。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	在宅の重度障がい者の通院等に係る交通費の一部を助成し、通院継続の支援を行う。 他の交通費助成を受けていないことを条件に、交付するタクシー利用券のうち一部（12枚）の利用目的の制限を緩和する。 【対象者数】 タクシー利用券交付 952人 人工透析通院費助成 タクシー利用券交付 132人 自家用車 92人		引き続き、在宅の重度障がい者の通院等に係る交通費の一部を助成し、通院継続の支援を行う。 他の交通費助成を受けていないことを条件に、交付するタクシー利用券のうち一部（12枚）の利用目的の制限を緩和する。 【対象者数】 タクシー利用券交付 963人 人工透析通院費助成 タクシー利用券交付 133人 自家用車 92人					
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6		R7		R8	
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		15,660	18,652	15,873	16,201	-2,451	
	国・県支出金		0	0		0	0	
	地方債		0	0		0	0	
	その他		0	0		0	0	
	一般財源		15,660	18,652	15,873	16,201	-2,451	
歳入合計		15,660	18,652	15,873	16,201	-2,451		
課題	障がい者の方に対するタクシー運賃助成としては、県内他市に比べて利用可能額は高いが、1乗車あたりのタクシー利用券の使用枚数の制限や、利用条件の緩和など、実態に応じた給付を求められている。 令和6年度から利用条件の一部緩和を実施したが、限られた財源の中で現行の制度を維持することも重要である。			引き続き在宅の重度障がい者の交通費の負担を軽減し、通院をしやすくしていく。				
				方向性				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	通院費助成の支払い処理		
	11月～3月	次年度事業準備		

本事業に関する主要データ

【助成対象者 実績・計画推移】					
	タクシー利用券交付			人工透析通院費助成	
	交付者(人)	(内数)透析通院による追加交付者	利用料(千円)	助成対象者(人)	助成額(千円)
H28実績	1,266	145	17,726	73	1,640
H29実績	1,222	136	16,406	79	1,701
H30実績	1,202	135	15,462	86	1,851
R1 実績	1,175	138	14,614	83	1,766
R2 実績	1,116	151	13,792	80	1,803
R3実績	1,237	144	14,468	78	1,801
R4実績	1,195	124	14,014	91	1,842
R5実績	1,082	126	13,395	101	1,955
R6 実績	1,038	109	13,092	104	1,998
R7 見込	952	132	13,240	92	2,030
R8計画	963	133	13,390	92	2,208

※ 通院交通費等助成事業は数値目標の設定になじまないため、目標値には、2023年度(総合計画最終年)の見込値を記載する。

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	603		
負担金補助及び交付金	13,390		
扶助費	2,208		
事業費計			16,201

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
健康福祉部障がい者福祉課		路線バス優待事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	障がい者の社会参加を促進する。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		バス優待延べ乗車件数(件)	631,020	638,968	626,416	626,416	710,000
	目標（何を達成するのか）						
	障がい者等を対象に、松江市内でバスカードが使える路線バスの運賃を助成し、外出支援を行う。						
事業概要	優待バスカード(ICOCAカード)を発行し、障がい者のバス運賃を無料にする。						
	<対象者>：松江市に居住し、住民登録を有する方で、次のいずれかに該当する方 ・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は被爆者健康手帳所持者 ・視覚障がい1・2級又は療育手帳Aの交付を受けている方の介護者 ・移動支援で2人介護を要する方の介護者 <対象路線>市営バス(レイクライン除く)、一畑バス(高速線、空港連絡バス除く) ※令和5年度にバスカードからICカード(ICOCA)へ移行 <財源>電源立地地域対策交付金充当						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	路線バスの本人負担額を助成することで、障がい者の移動支援と社会参加の促進を図った。 【乗車件数】638,968件 【助成額】 83,468千円	路線バスの本人負担額を助成することで、障がい者の移動支援と社会参加の促進を図る。 【乗車件数】626,416件 【助成額】 95,821千円 路線バス運賃の引き上げに伴い助成額の増額を見込む。					
	達成度						
	計画目標に向けて順調に推移						
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)	R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費	85,384	91,215	83,946	96,426	5,211	
	国・県支出金	0	75,000	75,000	70,000	-5,000	
	地方債	0	0		0	0	
	その他	0	0		0	0	
	一般財源	85,384	16,215	8,946	26,426	10,211	
歳入合計	85,384	91,215	83,946	96,426	5,211		
課題	令和8年4月に市内路線バスの運賃改定が予定されており、このことに伴い助成額の大幅な増額が見込まれる。		方向性	引き続き、障がい者の外出支援と社会参加の促進を図る。			

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	運賃助成の実施		

本事業に関する主要データ								
【バス優待乗車件数 助成額 実績・見込推移】						単位：乗車件数：件 助成額：千円		
	合計		市営バス		一畑バス		日ノ丸バス	
	乗車件数	助成額	乗車件数	助成額	乗車件数	助成額	乗車件数	助成額
H28実績	773,133	108,808	403,367	47,758	318,527	52,113	49,729	3,939
H29実績	750,226	104,907	400,000	47,249	304,088	49,266	46,138	3,392
H30実績	765,588	106,524	413,067	49,107	288,768	48,300	43,753	9,117
R1実績	770,016	107,442	421,391	49,874	305,157	49,205	42,988	3,583
R2実績	600,953	82,228	343,651	40,473	250,320	40,222	8,972	1,520
R3実績	632,581	86,370	382,473	42,513	270,108	43,857		
R4実績	628,218	85,841	354,234	41,720	274,984	44,121		
R5実績	660,564	89,996	376,394	44,225	283,870	45,771		
R6実績	631,020	85,018	383,390	43,188	262,130	41,852		
R7見込	638,968	83,468	407,321	48,530	231,147	36,938		
R8計画	626,416	95,821	399,309	53,418	226,607	42,405		
※路線バス優待事業は、数値目標の設定になじまないため、目標欄には、2028年度(総合計画最終年)の見込値を記載する。								
★充当財源：電源立地地域対策交付金 70,000千円								

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
需用費	297		
役務費	308		
負担金補助及び交付金	95,821		
事業費計			96,426

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
健康福祉部障がい者福祉課		軽度・中等度難聴者補聴器購入費助成事業費					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	軽度・中等度難聴者に対する補聴器購入費の一部を助成することにより、聞こえの改善を通じて地域活動や就労、対人交流への参加を促進し、社会参加の促進、生活の質の向上を図ることを目的とする。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		年間助成者数（人）			10	10	10
	目標（何を達成するのか）						
	助成申請件数および補聴器装用後の生活・社会参加への影響を調査し、事業効果を把握する。						
事業概要	補聴器を必要とする軽度・中等度難聴者へ補聴器購入費用の一部を助成する。 対象者：18歳以上65歳未満で、左右いずれかの耳もしくは両耳の聴力レベルが30db以上、かつ市民税非課税世帯または生活保護受給世帯の方 助成額：機器購入費用の1/2（助成額の上限 25,000円） 令和8年度から令和10年度を試行期間とし、実績を評価のうえ令和11年度以降の事業を検討する。						
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
		【新規事業】 対象者への購入費助成を実施する。 見込者数 10人 助成対象者へ補聴器装用前後のアンケート調査を実施し事業評価を行う。					
	達成度						
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)	R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費	0	0	0	254	254	
	国・県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	0	0	0	254	254	
歳入合計		0	0	0	254	254	
課題	市内の軽度・中等度難聴者数が把握できないため、現時点で需要予測が困難である。		令和8年度から令和10年度までの3年間を試行期間とし、給付実績及びアンケート調査結果等をふまえ、令和11年度以降の事業を検討する。				
			方向性				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	4月～3月	補聴器購入費助成の支払い処理		
	4月～3月	助成対象者へのアンケート調査の実施		

本事業に関する主要データ

○補聴器購入費助成の範囲

年齢区分		18歳未満	18歳～64歳	65歳以上
聴覚レベル・程度				
重度難聴 (90db以上)	・叫び声でも聞きにくい 30cmの近さの大声	補聴器具支給(補聴器)：国制度 身体障がい者手帳(聴覚障がい)交付を受けた方 【利用者の負担額】1割 上限37,200円 ※市県民税課税世帯、生活保護受給世帯は0円		
高度難聴 (70～90db)	・大きな声の会話が聞きとりにくい			
中等度難聴 (40～70db)	・普通の会話が聞きとりにくい	難聴児補聴器購入助成事業： 身体障がい者手帳の交付対象と ならない軽度・中等度(30db～ 70db)難聴児 2/3補助(補聴器の種類に よって基準額あり)	今回対象とする 範囲	介護予防事業 の助成対象
軽度難聴 (25～40db)	・ささやき声や静かな会話が聞きとりにくい			
		25,000円補助 ※50,000円以上の補聴器		

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
役務費	4		
負担金補助及び交付金	250		
事業費計			254

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名					
健康福祉部障がい者福祉課		児童発達支援事業費 外3事業					
事業の目的と目標	目的（何のために）	数値目標					
	児童福祉法に基づき、生活能力の向上のための必要な支援をするもの。	項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
		障がい児通所サービス支給決定者数	774	740	821	821	821
	目標（何を達成するのか）						
	障がいのある児童が必要とする支援を受けられるように、関係機関と連携して制度周知を図り、円滑かつ適切な制度の利用を勧めることにより、自立した社会生活の実現を目指すもの。						
事業概要		障がい児に対して、日常生活の基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練、その他必要な支援を行う。 （事業内容）児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、保育所等訪問支援事業、障がい児相談支援事業 （利用者負担）サービス費用の1割負担。世帯の所得に応じて負担上限月額の設定。 （負担割合）国1/2 県1/4 市1/4					
事業の成果及び実績	R7実績見込	R8計画		R9計画			
	支給決定者：740人 児童発達支援 98人 放課後等デイサービス 636人 保育所等訪問支援 4人 障がい児相談支援 739人 ※サービスの重複支給決定者あり	引き続き、障がい児支援利用計画に基づき、日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練を行う。 支給決定者：821人（見込）		引き続き、障がい児支援利用計画に基づき、日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練を行う。 支給決定者については実績を鑑み横這いを見込むもの。 支給決定者：821人（見込）			
	達成度						
	計画目標に向かって概ね順調						
歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
		決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
事業費		1,322,188	1,349,464	1,409,397	1,414,486	65,022	
財源内訳	国・県支出金	991,641	1,012,098	1,057,047	1,060,863	48,765	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	330,547	337,366	352,350	353,623	16,257	
	歳入合計	1,322,188	1,349,464	1,409,397	1,414,486	65,022	
課題	・利用者の増加により、サービス提供事業所の質の向上が求められている。 ・障がい児支援利用計画の作成やサービス提供事業所との調整を行う相談支援専門員が不足している。		・事業所の実地指導の際に、国が示すガイドラインに沿った適正な運営実施に向けた指導を行う。また、関係機関と連携し、各種研修会等への参加を促す。 ・相談支援事業所に対しては、引き続き、相談員の増員を促すため、人員数に応じて加算される機能強化型サービス利用支援費の制度周知を行う。				
			方向性				

児童発達支援事業費 外3事業

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	障がいのある人もない人も共に住みよいまちづくり事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	6月	市民税額確定に伴うサービス利用者負担額の見直し		
	3月	サービス提供事業所説明会(制度・報酬)		
	随時	サービス支給決定(新規・変更・更新)		

本事業に関する主要データ

(サービス内容)

- 児童発達支援
- 放課後等デイサービス
- 保育所等訪問支援
- 障がい児相談支援
- 居宅訪問型児童発達支援

施設において、日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練を行う。
授業終了後に生活能力の向上のための訓練、社会交流の促進を行う。
学校等の施設を訪問し、障がい児への専門支援、施設職員への助言を行う。
適切なサービスを利用するための計画相談を行う。
重度の障がいがあり外出することが困難な障がい児に対して、訪問による児童発達支援を行う。

(利用者数・サービス提供事業所数)

	延べ利用者数（年間）		事業所数（3月時点）	
	R5年度実績	R6年度実績	R5年度	R6年度
児童発達支援事業	937	1,020	12	11
放課後等デイサービス事業	6,543	6,857	48	48
保育所等訪問支援事業	33	57	7	7
障がい児相談支援事業	2,532	2,879	15	14

(確がい元通所サービス支給決定率)

R2年末	611	前年度比	10.4%増
R3年末	651	前年度比	6.5%増
R4年末	690	前年度比	6.0%増
R5年末	730	前年度比	5.8%増
R6年末	774	前年度比	6.0%増

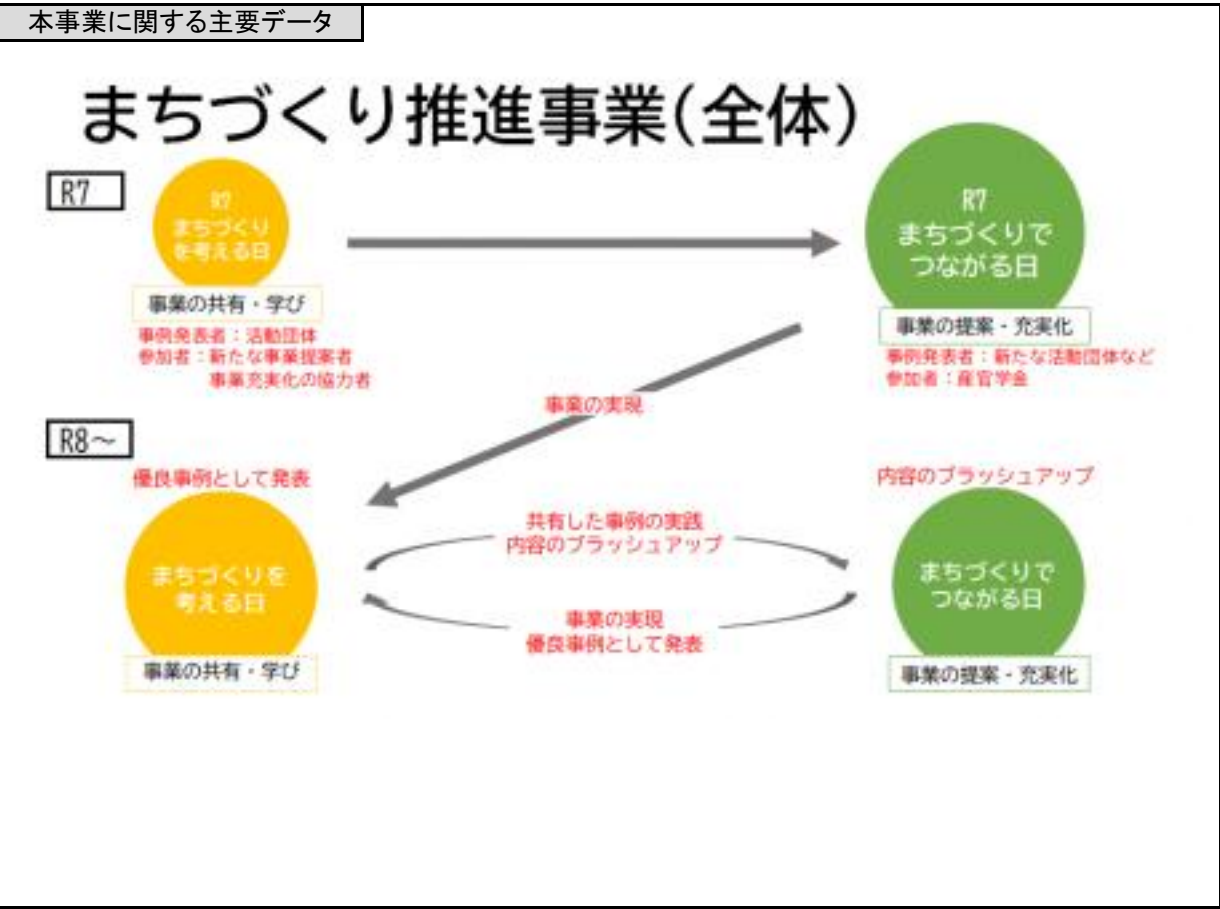
R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
扶助費	1,414,486		
事業費計			1,414,486

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
市民部市民生活相談課		まちづくり推進事業費						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	市民活動・地域活動への市民の参画割合を高めるため、市民、NPO、企業、行政などが連携し、活動の裾野を広げる。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			市民活動・地域活動への市民の参画割合%	54.8	53.4	65	65	65
	目標（何を達成するのか）		まちづくり推進事業参加者数(人)	3,310	620	1,500	1,500	1,500
	市民活動・地域活動を市民、町内会・自治会、NPO、企業、行政などが共有する仕組みを確立し、活動への興味・関心・参画意識の醸成、意欲の増進を図る。							
事業概要	〈成功事例発表〉地域で既に実践されている先進的な市民活動・地域活動を共有し、他の地域への広がりを目指し、「まちづくりを考える日」を開催する。 〈地域課題提案〉地域での新たな取り組みや、これまでの市民活動・地域活動の充実化について、多様な団体が一緒に考え、知恵を出し合う場として、「まちづくりでつながる日」を開催する。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	○まちづくりを考える日の開催 実施日：令和7年8月6日（水） ○まちづくりでつながる日の開催 実施日：令和8年2月19日（木） ○市ホームページなどで情報発信を行い、市民、町内会・自治会、NPO、企業、行政などの協働・連携を促進		○まちづくりを考える日の開催 ○まちづくりでつながる日の開催 ○市ホームページなどで情報発信を行い、市民、町内会・自治会、NPO、企業、行政などの協働・連携を促進		○まちづくりを考える日の開催 ○まちづくりでつながる日の開催 ○市ホームページなどで情報発信を行い、市民、町内会・自治会、NPO、企業、行政などの協働・連携を促進			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位：千円)		R6	R7		R8		
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		549	1,289	1,289	1,407	118	
	国・県支出金		92	961	961	765	-196	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		127	0	0	0	0	
	一般財源		330	328	328	642	314	
歳入合計		549	1,289	1,289	1,407	118		
課題	より多くの市民、NPO、企業などに市民活動・地域活動を広げていく必要がある。		方向性	地域課題の共有を図り、地域の実情や市民活動・地域活動の大切さを知ってもらう。 先進的な取り組みや、ユニークな市民活動・地域活動について共有し、興味・関心をもってもらよう促す。 町内会・自治会連合会と連携して実施し、町内会などの情報共有などの場を設け、交流の活性化や、参加者の裾野を広げる。 市民、町内会・自治会、NPO、企業などがつながる機会を設け、市民活動・地域活動実践へのきっかけづくりを行う。				

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	まちづくり推進事業

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	8月	まちづくりを考える日		
	2月	まちづくりでつながる日		



R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
報償費	120		
需用費	25		
役務費	48		
委託料	568		
使用料及び賃借料	646		
事業費計			1,407

令和8年度 総合計画実施計画

所属		事業名						
市民部市民生活相談課		まちづくり活動応援補助金						
事業の目的と目標	目的（何のために）		数値目標					
	急速な少子高齢化に伴う人口減少社会において、住みやすく住み続けられる地域の形成を図る。		項目（成果指標）	R6実績	R7実績見込	R8計画	R9計画	目標値
			地域版まちづくり総合戦略の策定数（地区数）	20	20	22	22	29
	目標（何を達成するのか）		まちづくり活動応援補助金を活用した事業の取組み数（補助数）	15	16	18	18	29
	公民館区を基本とした29地域ごとに、地域住民の地域住民による地域住民のための「地域版まちづくり総合戦略」の策定と戦略実行をサポートする。							
事業概要	（数値目標の目標年度） 地域版まちづくり総合戦略の策定数（地区数）：R11年度 まちづくり活動応援補助金を活用した事業の取組み数（補助数）：R11年度 人口減少対策の一環として、29公民館区ごとに地域住民自らが地域課題の解決や新たなまちづくりのためのアイデアをまとめた「地域版まちづくり総合戦略」の策定を進める。 「まちづくり活動応援補助金」により、総合戦略に基づいた事業や任意団体による活動の支援を行い、地域住民が主体となった事業に取り組む。							
事業の成果及び実績	R7実績見込		R8計画		R9計画			
	計画策定のサポートを継続し、事業実施地域へ補助金を交付した。 他部局との連携や先行事例の情報共有等を通じて、取り組み地域が増えるよう努めるとともに、幅広く周知を行った。 ○地域版まちづくり総合戦略策定地域・・・20/29地域 ○補助金交付数・・・7地域9団体16事業		計画策定のサポートを継続し、事業実施地域へ補助金を交付する。 他部局との連携や先行事例の情報共有等を通じて、取り組み地域が増えるよう努めるとともに、幅広く周知を行う。		計画策定のサポートを継続し、事業実施地域へ補助金を交付する。 他部局との連携や先行事例の情報共有等を通じて、取り組み地域が増えるよう努めるとともに、幅広く周知を行う。			
	達成度							
	計画目標に向けて順調に推移							
財源内訳	歳入・歳出の推移(単位:千円)		R6		R7		R8	
			決算	予算	決算見込	予算	予算前年度比較	
	事業費		7,183	10,000	10,000	10,000	0	
	国・県支出金		0	0	0	0	0	
	地方債		0	0	0	0	0	
	その他		4,611	5,000	5,000	5,000	0	
	一般財源		2,572	5,000	5,000	5,000	0	
歳入合計		7,183	10,000	10,000	10,000	0		
課題	○地域版まちづくり総合戦略を策定することで、住民自らが地域の現状や課題、あるべき姿を把握することが可能となるなど、その効果について積極的に周知する必要がある。 ○補助金を活用することで、地域の魅力向上を図り、一過性ではなく継続した取り組みにするため一層の住民参加を促す必要がある。				○未策定地区に対しては、地域の実情に合った計画策定に向けて支援するとともに、補助金制度について、積極的な情報発信を行う。 ○地域版まちづくり総合戦略策定地区のみならず、未策定地区などで実施する事業も含め、地域の魅力向上を図り、持続可能な地域づくりを実現するための取り組みを支援する。			
	方向性							

松江市総合計画	基本目標	ひとづくり
	基本施策	松江市民のモットーは「寛容」
	主要施策	まちづくり活動応援補助金

R8スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	地域の支援・周知		
	4月～5月	補助金申請の受付		
	7月～8月	補助金申請の受付		

本事業に関する主要データ

令和7年度まちづくり活動応援補助金

戦略チャレンジコース 地域振興活動等 指定地区	100万円/1地区 ※200万円/1地区
戦略策定前お試しコース 地域振興活動等 未策定地区	20万円/1地区
団体コラボコース 活動拠点を和江市内に置いて活動している団体	80万円/1事業

※地区全域に関わる事業規模の大きな場合

◇ 補助コースの見直し

令和8年度まちづくり活動応援補助金

戦略チャレンジコース 地域振興活動等 指定地区	100万円/1地区 ※200万円/1地区
戦略策定前お試しコース 地域振興活動等 未策定地区	20万円/1地区
団体コラボコース 活動拠点を和江市内に置いて活動している団体	70万円/1事業

※地区全域に関わる事業規模の大きな場合

令和7年度 実績(見込)

策定済：20地域
城西／狩田／本庄／大野／吉志原／乃木／渡島
島根／美保関／八雲／玉湯／穴通／八束／東出雲
朝日／古江／島前／法吉／白湯／秋鹿

未策定：9地域

補助金交付数：7地域9団体16事業

- 戦略チャレンジコース：7地域7事業
(吉志原／白湯／乃木／秋鹿／美保関／島根／狩田)
- 団体コラボコース：9団体

【R7活用事例】

【戦略チャレンジコース】
住民が等しく関心を持つ「地域防災」を切り口に、防災イベントや換気設備導入中の松江市職員協議会等を開催し、住民交流や地域連携を深め新たなコミュニティ作りを目指す。
(吉志原地区まちづくり推進事業)

【団体コラボコース】
商店街事業者と地元住民・地域団体とのつながりの希薄さ、思いのミスマッチを解消するため、ヒアリングやワークショップを開催する。
(まちとひとがつながる地域活動推進まちづくり推進事業)
(商店街利用促進向上にむけた計画づくり)

R8節別予算額内訳(千円)			
節名称	金額	節名称	金額
負担金補助及び交付金	10,000		
事業費計			10,000